

関西支部だより

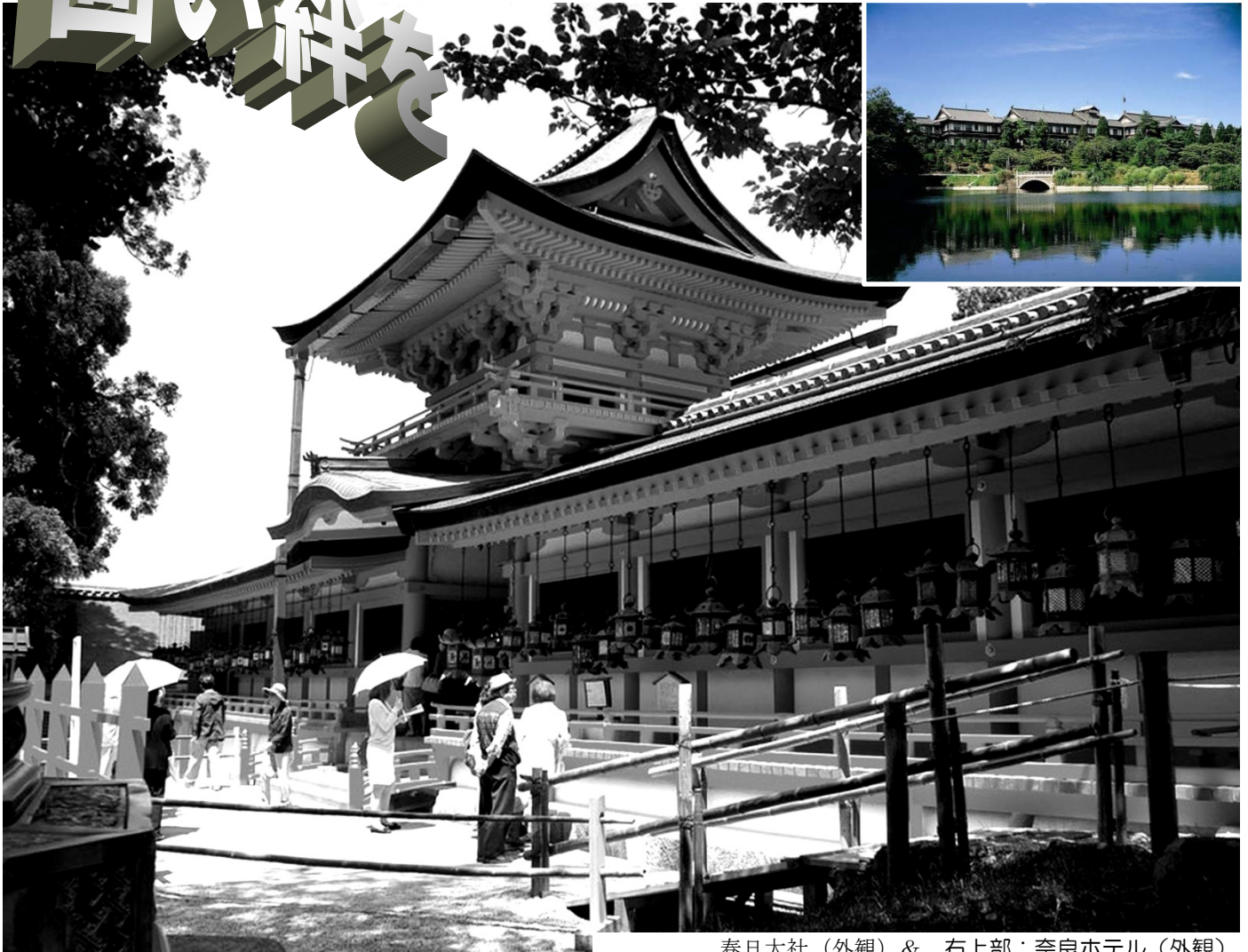
# 時習館

かんさい

## 第 32 号

〒542-0081 大阪市中央区博労町 1-7-16  
**山本通産株式会社内**  
 時習館同窓会関西支部発行  
 TEL (06)6262-1145  
 FAX (06)6262-3530  
 E-mail ishikawa@ytc-j.co.jp  
 振替口座番号 00960-3-326081

固い絆を



春日大社（外観） & 右上部：奈良ホテル（外観）

## 関西支部総会開催 2018年6月10日(日) 11時～15時

時習館同窓会関西支部の第52回総会ならびに懇親会を、来る6月10日(日)「奈良ホテル」にて開催いたします。10時から受け付け開始、11時から総会に引き続き懇親会を行います。

私たちは豊橋を離れ関西に来ました。でも、互いの絆は変わりません。平成30年度の関西支部総会・懇親会は、「固い絆を」を合い言葉に、奈良に集まります。創建1250年を迎える春日大社で改めて時習の旗の下、誓いを新たにしたいと思います。是非、皆様のご参加を期待しています。

記

と き：2018年6月10日(日) 11時～15時

と ころ：奈良ホテル

会 費：10,000円 (学生 3,000円)

本誌では奈良開催にちなみ「固い絆を」をキーワードにして編集しました。

(注) 年号表記は西暦を基本とします。状況に応じて和暦も随時、使います。(編集部)



## もくじ

「変わらないために、変わる」	石川吉之助 ……………	1
<b>〈支部総会など〉</b>		
2017年度支部総会・懇親会&観光スナッフ	……………	2
2017年総会出席者リスト・2017度分年会費納入者	……………	5
2016年度会計報告及び2017年度時習館同窓会関西支部役員	……………	7
時習館同窓会関西支部第51回総会・懇親会の報告	河合 行朗 ……………	8
第52回総会・懇親会の呼びかけ	川瀬 義隆 ……………	11
<b>〈特別寄稿〉</b>		
母校よりの報告 「二つの大きな出来事」	近藤 啓 ……………	13
時習館高等学校より 心に残る『時習館かんさい9号』がんばろや	須藤 絢美 ……………	14
時習館同窓会本部より 『私はナワバリスト』	安形 哲夫 ……………	16
<b>〈特集記事、固い絆〉</b>		
「付度」と「虚実」	牧野 圭一 ……………	19
「春日大社国宝殿」への新生	弥田 俊男 ……………	26
私の宝物「音楽と故郷のおかげで結ばれた絆」	峯島 望美 ……………	29
<b>〈特別投稿〉</b>		
♪ An Die 絆 ♪	雑賀 哲治 ……………	33
たくさんの人とつながって	館野眞里子 ……………	37
時習なごやの絆	田中 定子 ……………	42
<b>〈会員便り 固い絆〉</b>		
『現代化学史』のその後～英訳、中国訳も～	廣田 襄 ……………	45
スリリングな我が航海誌（その2）	成田 一郎 ……………	47
同窓会考古学	菅原 民生 ……………	55
詩曲「祖国の土」と詩文集「空に 風に 樹に」のできた頃は	伊藤 昭 ……………	57
73歳の青春～「忘れる」ことを減らしたい～	吉田 久善 ……………	60
アフリカで見た夢	市川 光雄 ……………	61
神戸開港…そして「弁天浜の明治天皇御用邸 湊川の“長城” “難民” 3題	熊谷 信哉 ……………	63
「絆」に導かれて	布藤 智康 ……………	67
東三河の伝統「手筒花火」に魅せられて	山本 美帆 ……………	70
東久邇宮文化褒章受章（大石由紀子さん&藤巻篤子さん）	編集委員会 ……………	73
<b>〈支部だより・活動報告〉</b>		
J K L 時習館関西女性の会 「ミステリー体験記」	……………	75
ゴルフ会からの報告	山村 信哉 ……………	77
<b>〈お知らせ〉</b>		
事務局からのお知らせ、会員の動静	……………	79
先輩からの温かい援助&『時習館かんさい』へ投稿してみませんか	……………	81
編集後記（また一人、巨星が逝く）	……………	82



# 「変わらないために、変わる」

時習館同窓会関西支部

支部長 石川 吉之助（時習12）



2018年（平成30年）戊戌（つちのえ・いぬ）の年が穏やかに明け、景況感も良く、足下まで拡大が続き、「いざなぎ景気」を超え、戦後2番目の長さを継続中であり、今年12月まで続けば戦後最長に並ぶことになる。こう言われても実感は伴いません。

のみならずここに来て、米中の貿易戦争が勃発、日本経済への影響も必須の状況となっている。また、政治的にも米朝首脳会談が5月に予定されるなどめまぐるしく動き出している。この先も何が起きるか予断は許されない。

さて、今年の時習館同窓会関西支部総会は、春日大神「縁結び」に因み、「固い絆」をテーマに古都奈良で開催致します。

現在の社会の変化はめまぐるしく早く、著しく大きい。学者ダーウィンの名言を待つまでもなく、『もっとも強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは変化できるものである。』即ち、「強者生存」ではなく、「適者生存」である。

変化、変革の必要性は洋の東西を問わ

ず人類の知恵として古く中国に於いても言われている。

易の理論をまとめた繫辞伝（けいじでん）には「窮スレバ則チ変ズ。変ズレバ則チ通ズ。通ズレバ則チ久シ。」窮した時には変化し、それが新たな展開を生み、永続性につながるという天の法則を示している。現在の企業に強く求められている生き残りをかけた“変革”の必要性である。

一方また「変わらないために、変わる」という考え方もある。

春日大神に於いては今年にかけて60次式年造替（しきねんぞうたい）が行われており、これは20年毎に実施される。伊勢神宮に於いても20年毎に式年遷宮（しきねんせんぐう）として行われている。

祭神の宿る建物とその技術を後世に、そのまま伝えるための古くからの知恵である。変わらないために、あえて変わるのである。

時習館創設125周年のこの時、我々は後輩達に何を伝え、何を残していくのか「不易と流行」が求められている。

🍷🍷🍷 2017年度  
支部総会・懇親会  
スナップ 🍷🍷🍷



受付4人娘



山本さん (時56) 吉田さん (時50)  
加藤さん (時66) 鈴木(富)さん (時36)



小林同窓会会長



挨拶  
石川関西支部長



川村時習館校長



東京支部  
館野副支部長 (時 18)



名古屋支部  
松原幹事長 (時 24)

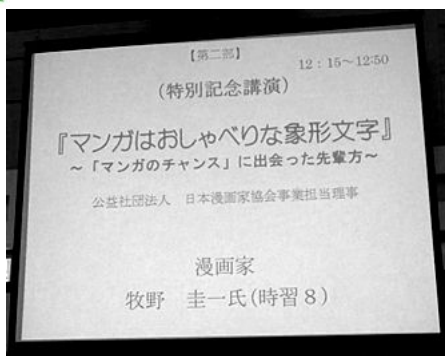


大河幹事長 (時 16)



会計報告  
花井さん (時 17)

特別記念講演



監査報告  
利根川さん (時 21)



活動報告  
伊藤さん (時 13)



美馬さん (時 11) より  
花束贈呈



特別記念講演  
牧野さん (時 8)



総会と懇親会の司会  
鈴木(優)さん (時 26)



懇親会の司会  
北川さん (時 27)



懇親会開会宣言  
河合さん (時 20)



乾杯!  
廣田夫妻 (時 7)



竹内さん (時21) 森下さん (時25) 齋藤さん (時25) 西井さん (時22)  
中西さん (時23) 米田さん (時21)



近藤先生 (時39) 近田さん (時35) 千葉先生 (時29)



尾野 (文) さん (時56) 清水 (大) さん (時56)



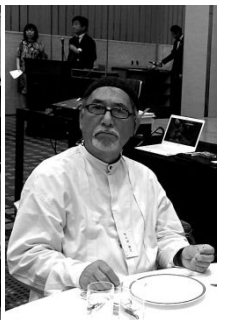
高柳さん (時16) 大町理事長 (時16)



和泉さん (時27) 小松さん (時35) 伊藤 (正) 先生 (時31)



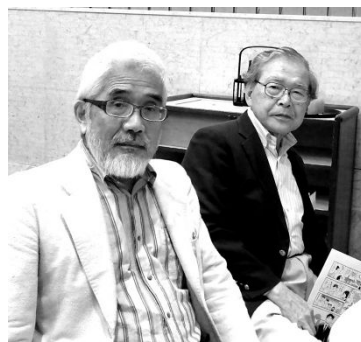
伊東 (真) さん (時43) 吉田 (知) さん (時50)  
大林 (浩) さん (時41)



川勝さん (時12)



久本さん (時44) 東さん (時44) 加藤さん (時66)



石田さん (時14) 岡田さん (時14)  
石田さん (時14) 岡田さん (時14)



松下さん (時14) 小田さん (時13) 大冢さん (時13)



片岡さん (時14) 園家さん (時14)  
清水 (宏) さん (時14)



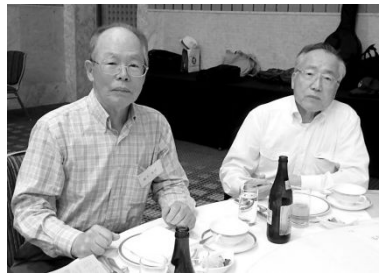
中村 (和) さん (時9)



三井さん (時19) 小林会長 (時19)  
大賀さん (時20) 長野さん (時 20)



山本夫妻 (左:美帆さん 右:諭さん) 共に時 56 回



森下 (宣) さん (時13) 川瀬さん (時14)



だんまるさん  
笹井さん (時44) 佐竹さん (時44)



鈴木 (宣) さん (時36)  
布藤さん (時36) 西岡さん (時36)



鈴木 (慎) さん (時32) 馬場さん (時32)  
倉田さん (時32) 佐藤さん (時32) 垣内さん (時32)



岡田 (順) さん (時20) 鈴木 (自) さん (時20)

アトラクション



まんが紹介&アトラクション司会  
伊藤 遊さん (時45)



ヤッサー一座の紙芝居  
身振り、口振りで引き付ける  
口演:だんまるさん



館をもらってご満賞の  
松下さん (時14)



閉会の挨拶  
園家さん (時 14)

京都国際漫画ミュージアムにて



# 2017年度時習館同窓会関西支部 総会・懇親会出席者

### 本部来賓

会長	小林 佳雄	(時19)	副会長	清水 宏子	(時14)
副会長	大須賀憲太	(時20)	幹事長	大河 一夫	(時16)
理事	佐藤 元彦	(時 1)	幹事長補佐	山内 洋一	(時 8)
顧問	川村 昌宏 校長先生				
校内幹事	伊藤 正英先生	(時31)	校内幹事	近藤 啓 先生	(時39)

東京支部より	東京支部副支部長	舘野真里子 (時18)
名古屋支部より	名古屋支部支部長	神野 義郎 (時 3)
	// 幹事長	松原 秀式 (時24)

回	氏名	勤務先	出身小・中学校	回	氏名	勤務先	出身小・中学校
		(時習館)				(時習館)	
6	大林 洽子		松葉小・豊城中	21	利根川 躍	三菱UFJローンビジネス(株)	大崎小・南陵中
7	廣田 襄		田原清田小・滋賀大付属中	21	米田 隆子		向山小・中部中
7	廣田 輝子		狭間小・名大付属中	22	齊藤 房江	(太田 房江)参議院議員	羽田中
8	岩田 孝枝		新川小・中部中	22	西井 完		宮崎小・宮崎中
8	稲川佐代子			23	中西 立美		海老小・中
8	尾野あつ子		池場小・三輪中	25	齋藤 聡子		
8	牧野 伸一		花田小・羽田中	25	森下 庸子	共栄製茶(株)	栄小・南部中
8	片岡優美子		牟呂小・牟呂中	26	鈴木 優	関西テレビ放送	蒲郡南部小・蒲郡中
8	牧野 圭一			27	和泉 裕子		
9	中村 和歳		牟呂小・牟呂中	27	北川 井子		細谷小・五並中
10	大石由紀子	Tada Parking Lot	松葉小・豊城中	29	千葉 泉	大阪大学 教授	八町小・豊城中
10	菅原 民生		塩津小・付属岡崎中	30	阿久津詠美	パナソニック(株)	一宮西部小・一宮中
11	荒島 啓子		蒲郡南部小・蒲郡中	32	垣内亜佐子	(株)キャリング	下地小・北部中
11	美馬 洋子		蒲郡南部小・蒲郡中	32	倉田 正也	(株)ツムラ大阪支店	新川小・中部中
12	石川吉之助	山本通産(株)	蒲郡南部小・豊城中	32	佐藤 幸隆	(株)イナテック	旭小・青陵中
12	川勝英十津		野依小・南陵中	32	鈴木 慎也	大日本住友製薬(株)	大清水小・南陵中
13	伊藤 忠男	(株)丸島アクアシステム	小沢小・五並中	32	馬場奈都子	奈良市立東登美ヶ丘小学校	蒲郡市立中央小・蒲郡中
13	大塚 尚武		福岡小・南部中	35	小松麻利子	小松社会保険労務士事務所	岩田小・豊岡中
13	小田 宗		蒲郡南部小・蒲郡中	35	近田 昇	関西電力株式会社	一宮東部小・一宮中
13	小野 英道			36	鈴木富美子		植田小・南陵中
13	森下 宣彦		東田小・青陵中	36	西岡 洋子		向山小・中部中
14	石田 天祐	(株)ギルガメシュ	森小・湖西中	36	布藤 智康	武田薬品工業	三谷小・三谷中
14	岡田 康彦	弁護士法人北浜法律事務所	小坂井東小・愛知学芸大付属中	41	大林 浩治	(株)旭硝子	豊川国府小・豊川西部中
14	片岡 聡子		松葉小・豊城中	43	伊東真理子	大阪府役所	牛久保小・南部中
14	川瀬 義隆		三島小・石巻中	44	東 孝次郎	(株)任天堂	岩田小・豊岡中
14	園家 文	書家	杉山小・杉山中	44	笹井有美子		
14	藤巻 篤子	木戸クリニック	十日町小・青陵中	44	佐竹 寛子		
14	古田 啓子		二川小・二川中	44	久本 愛		
14	松下 和正		蒲郡南部小・蒲郡中	45	伊藤 遊	京都精華大学 国際マンガ研究	富士見小・高豊中
15	吉田 久善	(株)ネットアルファ	八町小・豊城中	50	吉田 知未	積水ハウス(株)総合住宅研究所	野依小・南陵中
16	高柳 枝直	NPO 水澄	豊城中	56	尾野 文香	ピアニスト	高師小・本郷中
17	白井 一次		国府小・豊川西部中	56	清水 大志		磯部小・南陽中
17	花井 俊作	アサヒ産業(株)	松葉小・豊城中	56	山本 諭	商工中金 東大阪支店	牛川小・青陵中
17	山村 信哉		豊川小・東部中	56	山本 美帆	大阪市立啓発小学校 非常勤講師	豊小・豊岡中
19	三井 節子	日本舞踊講師	松葉小・豊城中	66	加藤明日香	大阪大学 学生	新城八名小・新城八名中
20	岡田 順子	みどり会中村病院薬剤部長	松山小・中部中				
20	河合 行朗	クローダジャパン(株)	新川小・中部中				
20	鈴木 自	株式会社 山善	松葉小・豊城中				
21	竹内 隆夫	竹内総合法律事務所	三谷小・中				
						紙芝居口演 司会、解説 伊藤遊 (時44)	
						口演者(ヤッサン一座の紙芝居)	「だんまる」さん

2017年度分 賛助金・年会費納入者

2017年度分 賛助金納入者

赤木 公(豊46)	廣田 襄(時7)	川勝英十津(時12)	藤巻 篤子(時14)	山村 信哉(時17)
小林 久夫(豊46)	廣田 輝子(時7)	後藤 節子(時12)	古田 啓子(時14)	吉岡 順子(時17)
藤田 彰久(豊47)	岩田 孝枝(時8)	杉浦 敏夫(時12)	柵木 昇祥(時14)	小田 賢治(時18)
花田 庄司(豊49)	尾野あつ子(時8)	鈴木 茂樹(時12)	松下 和正(時14)	草津 正治(時18)
福井 信雄(豊49)	片岡優美子(時8)	山下 洋子(時12)	鈴木 寛治(時15)	熊谷 信哉(時18)
古田益太郎(豊49)	草場 恒夫(時8)	伊藤 忠男(時13)	田村駒二郎(時15)	鈴木 康浩(時18)
近田 良治(時1)	杉原 伸一(時8)	大塚 尚武(時13)	藤田 和弘(時15)	堂本こすぎ(時18)
彦坂 利久(時3)	安藤 昌司(時9)	小田 宗(時13)	山崎 達彦(時15)	宮路くに子(時18)
小野田邦重(時4)	中村 和歳(時9)	小野 英道(時13)	吉田 久善(時15)	吉田 眞子(時18)
松永 宜範(時4)	大石由紀子(時10)	白井 孝夫(時13)	石黒 和廣(時16)	富山 幸世(時19)
長田美智子(時4)	土屋登芝子(時10)	森下 宣彦(時13)	高柳 枝直(時16)	岩瀬 則文(時19)
藤村 恵子(時4)	成田 一郎(時10)	石田 天祐(時14)	井上 漢龍(時16)	原田 典夫(時19)
本部 純子(時5)	荒島 啓子(時11)	遠藤 征宏(時14)	村田 正好(時16)	福重 恭子(時19)
牧野 健士(時6)	井口 喜之(時11)	岡田 康彦(時14)	宇井 正和(時17)	藤本万咲子(時19)
水尾 悦子(時6)	竹内 郁子(時11)	片岡 聰子(時14)	白井 一次(時17)	三井 節子(時19)
東海 和子(時7)	美馬 洋子(時11)	川瀬 義隆(時14)	高島 義典(時17)	
河野 友子(時7)	石川吉之助(時12)	園家 文(時14)	花井 俊作(時17)	

2017年度分 年会費納入者

宇留島美恵(時20)	利根川 躍(時21)	岡田 博子(時24)	藤井 順子(時28)	鈴木 慶太(時38)
岡田 順子(時20)	藤田裕二郎(時21)	瀬野 敦子(時24)	千葉 泉(時29)	本田 一彦(時40)
岡田 行功(時20)	松岡 譲(時21)	竹内 光一(時24)	真木 伸治(時29)	三宅 育代(時40)
河合 行朗(時20)	横井 愛子(時21)	高野 光代(時24)	椋木紀美江(時30)	大林 浩治(時41)
小西 康雄(時20)	米田 隆子(時21)	原田 典彦(時24)	菊井 昌代(時30)	伊東真理子(時43)
鈴木 自(時20)	太田 房江(時22)	宮崎 裕二(時24)	夏目 君幸(時30)	東 孝次郎(時44)
田中 登(時20)	河野 法子(時22)	山本 雄二(時24)	熊本 和正(時31)	笹井有美子(時44)
鶴田 文江(時20)	河合左千夫(時22)	石田 展也(時25)	垣内亜沙子(時32)	佐竹 寛子(時44)
長野 鈴代(時20)	夏目恵吏子(時22)	太田 智子(時25)	鈴木 慎也(時32)	佐野 省吾(時44)
松浦 茂男(時20)	西井 完(時22)	大道 安代(時25)	馬場奈都子(時32)	久本 愛(時44)
山口 隆昭(時20)	萩原 敏(時22)	田中 義宏(時25)	中村利久子(時33)	藤田 望美(時44)
山口真知子(時20)	原田 哲二(時22)	森下 庸子(時25)	小松麻利子(時35)	吉田 知未(時50)
梅田 洋一(時21)	伊与田 功(時23)	鈴木 優(時26)	近田 昇(時35)	尾野 文香(時56)
榎本 直行(時21)	岸本 由枝(時23)	林 政司(時26)	原田 善充(時35)	清水 大志(時56)
鈴木加代子(時21)	中西 立美(時23)	和泉 裕子(時27)	金井 裕子(時36)	山本 諭(時56)
鈴木 清士(時21)	高桑 眞子(時23)	鬼本英太郎(時27)	鈴木富美子(時36)	山本 美帆(時56)
鈴木 省三(時21)	牧原 正記(時23)	北川 井子(時27)	西岡 洋子(時36)	
鈴木 晴久(時21)	鷺岡 廣行(時23)	不破 靖(時27)	藤井 朋行(時36)	
竹内 隆夫(時21)	池内 真弓(時24)	松井誠一郎(時27)	布藤 知康(時36)	

(本誌作成着手以降にお振り込みいただいた方については、正確でない場合が考えられますので、その際はご容赦願います)



第3回「時習さろん」の風景  
会場は「アブ」の都合がつかず、なにわ食彩「しずく」にての開催でした

2017年度「時習さろん」の報告

例年通り、2017年度も年4回開催され、延べ80名の参加。年代を超えた和やかな交流の場として活用されています。  
第4回では、増田明美さんより鈴木亜由子さんの近況メールが届き、出席者に紹介されました。

増田 明美

亜由子ちゃんは昨年11月のクイズ駅伝の時は脚を痛めていましたが、今はそれも良くなり、マラソンの練習を始めています。2020年東京五輪に向けて、選考のやり方が変わり、早くから挑戦し易くなりました。目標に向けて着実に歩んでいますので安心して下さいね。私も応援しています。



# 自由な発想で未来を築こう 「漫画のふるさと京都」に集う

## 関西支部第51回総会・懇親会の報告



河合 行朗（時習 20）



2017年6月18日(日)、JR京都駅上のホテルグランヴィアで時習館高校同窓会関西支部第51回総会・懇親会が開催されました。

11時30分より、鈴木優さん(時習 26)の司会で総会は始まりました。石川吉之助(時習 12)関西支部長、小林佳雄(時習 19)同窓会本部会長の挨拶に続き、川村昌宏時習館高校校長から、現在の母校の様子「国際性の育成について」と題して英国・独国との姉妹校との国際シンポジウムの様子、ますます活発になった国際交流の様子、SSH・SGH成果発表会(5月、時習館高校にて)などの紹介がありました。

の平成28年度活動報告・平成29年度活動計画の提案があり、審議承認されました。



石川支部長よりの役員、規約提案



川村校長先生よりのSSG成果発表内容

### ○ 特別記念講演

「マンガはおしゃべりな象形文字」  
～「マンガのチャンス」に出会った先輩方～と題して、日本漫画家協会事業担当理事の牧野圭一さん(時習 8)の講演が始まりました。

マンガが文化・学科として認知されるまでの苦労話、京都精華大学での「マンガ学科」の創設から、京都精華大学元学長島本浣さん(時習 18)も関与して、京都国際マンガミュージアム創設に至った舞台裏を知りました。

マンガの持つ情報伝達力については、小学3年生で「少年マガジン」「少年サンデー」創刊号を買った私たち世代には普通に認知にされていたと思いました。

舘野眞里子(時習 18)東京支部副支部長、松原秀式(時習 24)名古屋支部幹事長の挨拶、本部役員・来賓各位の紹介がありました。次いで総会の議事に入り、花井俊作(時習 17)会計より会計報告、利根川躍(時習 21)監事による監査報告、石川支部長から平成29年度関西支部役員提案と同窓会規約の確認、伊藤忠男(時習 13)事務局長から



共に創刊号表紙

京都国際マンガミュージアムが創られた縁に時習館の先輩諸氏が関係していたことに感慨を深くしました。

### ○ 懇親会

鈴木優さん(時習 26)、北川井子さん(時習 27)の司会で始まりました。今総会の実行委員長の私、河合行朗(時習 20)の開会宣言に続き。

乾杯の音頭をいつまでもお若い廣田夫妻(時習 7)のご発声から懇親会が始まりました。太田房江さん(時習 22)の挨拶に続き、懇親会が佳境にはいりました。



懇親会での一コマ

### ○ アトラクション

京都精華大学国際マンガ研究センター研究員の伊藤遊さん(時習 45)による「マンガ案内」と「紙芝居」の紹介。

マンガ「時習館縁起」(場内で配布、次頁参照)

では男子校から共学へ変わる頃の学生気質を新任の内藤喜美子先生(ポケちゃん)を取り巻くエピソードを交えたマンガの完成過程の紹介がありました。

私事ですが、高校時代合唱部に所属していた私には内藤先生の若かりし頃のエピソードを懐かしく思い出しました。

ヤッサン一座の紙芝居(ダンマルさん) 自転車に乗せた紙芝居、駄菓子を買って観ていた小さい頃の記憶が蘇りました。見る人との掛け合い、クイズを織り交ぜながらの面白いひととき、童心にかえった皆さんの笑顔が印象的でした。

校歌斉唱は次回の奈良総会でのアトラクションをお願いしている峯島望美さん(時習 44)の指揮で進めました。

万歳三唱のあと、園家文さん(時習 14)の閉会の挨拶で総会は無事に終了しました。

### ○ 京都国際マンガミュージアムの見学

2006年開館(旧龍池小学校を利用)され漫画文化の歴史資料の展示に留まらず、現代から未来へのマンガ文化の発展に寄与している施設で、海外からの見学者も急増しています。

京都国際マンガミュージアムの見学に場所を移して今回の総会のテーマの完成とさせていただきます。



京都国際漫画ミュージアム内の漫画陳列風景  
(伊藤 遊さん提供)

本総会・懇親会にて

# まんが『時習館縁起』（男女共学の巻）を発行

～牧野先生曰く「マンガはおしゃべりな象形文字」～





ナラヤエザクラ

## 式年造替なる春日大社の奈良へ

～2018年度 時習館同窓会関西支部第52回総会・懇親会～



実行委員長（奈良副支部） 川瀬 義隆（時習14）

### ○変わりゆく奈良

古くから変化に乏しいと言われてきた古都奈良ですが、グローバル化の波なのか、ホテルの新築、観光施設、道路の整備など、ここ数年の間の急速な変化には驚くばかりです。街には外国人も多く、年輩の米国人らしき団体が信号待ちする姿も日常茶飯事のこと。

前回触れた大仏鉄道とは、桜並木に囲まれた鴻池陸上競技場に行く道の喫茶店に、大仏鉄道研究会が置かれていることを知りました。また、以前回っていただいた大極殿のある平城京跡の南の朱雀門の前の広場、ここは奈良時代の人々の祝祭の場であって、朱雀大路と二条大路を復元整備し、今日、国営平城京跡歴史公園になりました。2棟の展示館を従え、外殻を復元し、竹の帆の2本マストの遣唐使船が水辺に浮かんでいます。



万葉婦人と遣唐使船

### ○春日大社も衣替え（式年造替）

そして春日大社は20年毎の式年造替で若々しくなります。参道に入る朱色の一の鳥居は平成19年に造り替えられ、平成28年に修理と建築が行われた正遷宮に御神体と宝物が仮設遷宮より移され造替が成りました。

### ○変わらないもの

興福寺の阿修羅像も、そして大仏様はもちろんのことですが、奈良の山沿いを南北に歩む山辺の道沿いには、古くから村人の信仰する仏像があり、神仏の歴史の変遷にもめげず、村人に堅く守られてきています。こうした仏像、今は公民館などに保存されています。敬虔な気持ちは昔も今も変わることがありません。

### ○花に若葉、これも奈良

今は桜の満開の時、陽を受けた桜は実に美しい。山辺の道も花の道。さらに時が経ち、いつの間にか薄暮になれば、春日山に登る月が目に入ります。まろやかな輪郭をしていて、大きく明るいのに目を奪われます。

月に映える古木の花の道を仰ぐ

散りもせず一枝に競う桜と若葉

いずれ劣らぬ古都奈良の素晴らしさは1000年を超え受け継がれてきています。

### ○奈良で時習の「固い絆」を

歴史と伝統の上に近代化の装いを加えた奈良で、2018年度時習館同窓会関西支部第52回総会・懇親会を開催します。装い新たな春日大社で、新たな誓い、時習の「固い絆」を確認出来たらと思います。是非、皆さんお越し下さい。



春日神幸図より

# 特別寄稿

母校、本部よりの便り



母校よりの報告

申

二つの大きな出来事 (平成 29 年度)



時習館高等学校教諭 近藤 啓 (時習 39)

○ 4校目の姉妹校提携

1つめは、前回の投稿に続いて、マレーシアにある日新中学 SMJK JIT SIN (ジッ・シン校) の話題です。今回の引率教員によるPTA広報誌「はんでん木」の原稿から、一部引用しました。



マレーシアのジッ・シン校

平成 30 年 1 月 22 日に姉妹校調印式が行われました。セント・ポールズ校、セント・ポールズ女子校 (英国)、オットー・フォン・タウベ・ギムナジウム (ドイツ) に続いて 4 校目です。



姉妹校調印式

ジッ・シン校にて課題研究発表・ディスカッション、姉妹校調印式、授業及び部活動参加の他、Fish Farm、ブキマタジャン、在ペナン日本国総領事館、ペナンヒル、ENTHOPIA、INTEL マレーシア、豊橋技術科学大学ペナン校を訪問しました。



グループディスカッション

今回の訪問全体を通じて、生徒達は、異文化融合の実際について体験し、自分達の将来、日本の未来について深く考えることができました。また、グローバル社会における情報の発信者・受容者として、広範な知識と英語力の必要性を実感しました。今後、2校間における生徒派遣を通じての緊密かつ継続的な異文化学習・交流を実践していきます。

その他SSH、SGHなど、本校については、HP (<http://www.jishukan-h.aichi-c.ed.jp/>) にアクセスしてお確かめください。

○ トイレ改装

2つめは、体育館前のトイレの話題です。私が高校生の頃 (つまり 30 年以上前) から使われていません。私が赴任する前 (つまり 5 年以上前) から、愛知県に改築のお願いをしておりましたが、年度途中で県からOKが出され、平成 30 年 2 月から使用可能となりました。



趣はそのままの外観



明るく清潔感のある内装

詳細は、本部総会にいらっしゃったときに、実際にご利用してお確かめください。

## 母校よりの報告



# 時

～同窓会のサポート～



## 心に残る『時習館かんさい9号』 がんばろや 時習館

時習館高等学校教諭 須藤 絢美（時50）

### ○ 自己紹介

初めまして。平成28年度に本校に赴任しました須藤と申します。専門は地歴公民で、主に日本史を担当しています。約20年ぶりに母校に帰ってきました。生徒の指導の最前線にいることと、本校同窓会のサポートをさせていただいている関係で、以下のことを書きたいと思います。

### ○ 生徒の様子

赴任早々の始業式に聞いた生徒の校歌斉唱には感動しました。懐かしさが込み上げてくるのと同時に、本校の生徒は大きな声で歌うことができている、それに驚かされました。やはりどこか自校に対する誇りをもっているのかな、と思いました。私は卒業生ですが、やはり教員として赴任していますので、OGということを前面に押し出すのではなく、客観的に本校の生徒を観察し、伸ばすということを主眼に置いています。私はここまで様々な学校でお世話になり、多様な高校生を見てきました。本校の生徒の持つ能力の高さには日々驚かされています。また、伝統校であるが故に「生徒の文化」が存在することがわかりました。つま

り、先輩から後輩へと有形無形のものが伝わり、また新しいものを作り出す創造性も感じます。体育祭最後には、男子生徒限定のストームが現在でも続いております。在学中には女子生徒だから見ることができなかった私でしたが、その伝統が今でも続いていて、生徒は時習生というアイデンティティを持っています。



今も残る時習館の伝統行事  
ファイヤーストーム

そして、曲目や演舞は毎年変化させていることも嬉しく思います。しかし、学校生活を送っておりますと、心が育っていない生徒も見られ、進学校における生徒指導の重要性も感じております。

○ 同窓会各支部会報の管理について



「時習館かんさい」  
第1号から第31号まで勢揃い

昨年末から私は各支部の会報を整理してきました。今年3月をもって、村上司書がご退職される関係で、当面私がその支部会報を管理することになりました。その前の平野司書のご尽力もありまして、この「時習館かんさい」は第1号から全て残っていることがわかりました。



「時習館かんさい」 第1号第(昭和62年)

厚手のファイルを購入し、大切に保存しています。とくにその中で印象的なのが、第9号です。平成7年6月1日に発行されたもので、表紙はあの阪神淡路大震災の被災地のがれきの写真の上に、「がんばろや 時習館」という文字が載っています。中を開きますと、安否情報がありました。一瞬にして胸が痛くなりました。

私はちょうどこの年は本校に入学した年で、この大震災のこともありまして、私にとっても忘れられない年となっています。大震災後、わずか2週間で関西支部役員会が開かれたようです。想像を絶する過酷な状況下で集まり、編集担当の皆様との並々ならぬ思いが結実して、発行に至ったと思います。そして、第1号から毎年丁寧に本部までご発送いただいていることへの感謝の気持ちがわいてきました。

私は送られてきた各支部会報を綴じるだけの者ではありませんが、「がんばろや 時習館」を生徒とともに合言葉にして、これからも精進していく所存です。



第9号(平成7年)  
表紙に「がんばろや 時習館」の文字が

**本部よりの投稿**



# 申



## 『私はナワバリスト』

**同窓会本部 副会長 安形 哲夫（時 24）**



最近では戦後第何次かのお城ブームとかでテレビや雑誌でお城が取り上げられる事が増え、また日本百名城も完全制覇者が増えた事により続日本百名城も決定される等、子供の頃からの城マニアである私としても大変嬉しく思っています。内容も第1次お城ブームの様な『鉄筋コンクリートでまず天守閣建てました！』などという浅薄なブームでは無く、キッチンと発掘調査をし、建物を復元するのも極力史実に基づいて行う等、ブームの中身もかなりの成熟を見せています。

その為かテレビ等でも昔は見向きもされなかった石垣や土塁、空堀しか無いような山城まで取り上げられ、『この縄張りはスゴイ！』『この横矢掛り効果的！』『この堅堀は戦略的！』等々マニア以外は何を言っているか解らないような言葉をタレントが叫んでいる番組が見られるようになり、昔からお城の平面図＝縄張り図を持って山の中を歩き廻り石垣、土塁の一部を発見しては喜んでいた私などは隔世の感を覚えます。

### ○ 縄張りとは

さて、ここまできて読者は『縄張りって何？ヤクザのシマじゃないよね？』という疑問を持たれるかも知れませんが説明させていただきますと、昔、城の建設時には現地に縄を張って設計をしていたから城の設計の事を縄張りと呼ぶようになったそうです。お城の設計図＝縄張り図とでも覚えておいて下さい。

もともとお城マニアは沢山いたと思うのですが、

何となくオタクっぽいので皆隠していたようです。いわば隠れ城マニア！そこへこの城ブームで皆カミングアウトし始めて一挙にブームが広がったようです。私も某新聞に依頼され城に関する小文を寄せたところ、『実は私もマニアでして是非お近付きになりたい』等の反響が有り今では年4回城ツアーを仲間と企画する羽目になってしまいました。

### ○ 城マニアの仲間たち

いろいろ仲間が増えて解ったのですが、一口に城マニアと言っても私のような設計を重視する『ナワバリスト』、石垣の美しさに萌える『イシガキスト』、出来るだけ沢山お城に行きたい『数コナリスト』等いろんなタイプが有るのです。私の城友である某大手生保のトップの方は『数コナリスト』の典型。日本国内 650 余城の登城歴を誇っています。『日本全国に支社、営業所が有って良いですね！』と言うと『いえ、ちゃんと仕事をしてから行っています』とは御本人の弁。一方『イシガキスト』の典型は同じく城友の若い女性！といっても静岡大学小和田ゼミ卒の筋金入りの歴女です。(小和田先生は日本城郭協会会長。大河ドラマの監修で有名)『石垣の曲線を見るとウツトリします！』そこまでは良いとして若い女性が石垣に頬寄せたりしていると少し引いてしまいますが…。

他にも個性豊かな城友と廻る春の城ツアー企画をもうすぐ始めなくては！『ああ忙しい。忙しい。』

ここまで読んで頂いた方の中には『何だこいつは

馬鹿なんじゃないの?』と思われる方と、『何か面白そう!』と思われる方と二分されると思います。そこで後者の方々の為に『関西版お城お勧めリスト』を作ってみました。一般の方向け、マニア向けいろいろですが、ハイキングがてら訪ねられたら如何でしょうか。

## ○ 関西お勧め城リスト

### 1、 大和郡山城

秀吉の実弟羽柴秀長 100 万石の居城として整備された城なのでとにかく立派! 復元された櫓や門に目が行きがちですが天守台廻りの内堀や、保存の良い外堀は大工事であった事が窺え感動モノです。

### 2、 稗田環濠集落

大和郡山市内に有ります。古事記の編集者の一人として知られる稗田阿礼の出身地。室町時代からとされ、集落の周囲を水堀で囲み村を守ったと推定されています。(七人の侍みたい!) ワタクシ的にはこれも城郭の一種!



稗田環濠集落 (写真提供: 大和郡山市)

### 3、 播州竹田城

これは今余りに有名で入場制限も有るらしいですが、石垣の保存の良さ、美しさは多分日本一かと思えます。ここは廃城後放置されたまま朽ちた城だっ

たので、40年前に訪れた時は門や櫓の跡は瓦の山が残っていました。



竹田城 (写真提供: 吉田利栄氏)

### 4、 大和高取城

奈良県から吉野に抜ける国道から東に入った所に有る日本有数の山城です。竹田城にも比すべき名城と思いますが、竹田城ほど有名でなくかなり上まで車道も有りお勧めです。壺坂霊験記で有名な壺坂寺も近く、ドライブがてらにどうでしょうか。

### 5、 今井寺内町

近鉄大和八木駅近くにある戦国時代からの寺内町が保存されているのが今井町。一向宗の寺と町を水濠で囲んだ城塞都市でした。周囲の水濠は一部を除いて埋められてしまいましたが、町の中に入るとタイムスリップしたような感覚に襲われます。

### 6、 信貴山城

これも奈良県北部に有る戦国史上有名な大規模山城です。戦国の悪役の一人松永久秀が信長軍に包囲されても降伏を拒み信長の欲しかった平蜘蛛の茶釜と共に爆死したというエピソードは有名です。

さて、関西のお勧めといっておきながら奈良に偏っているのは私の勤務する会社の主力工場が奈良に有る為ですが、その辺りはお許し下さい。

これから良い季節です。お茶とお弁当を持ってお出かけになる事をお勧めします。

(日本城郭協会会員)

# 特集記事

## 固い絆を



特集記事



「忖度」と「虚実」  
～その1～

牧野 圭一（時習 8）



マンガ・まんが・漫画とは

○「虚の中の実」を視覚化する「漫画」

昨年 2017 年度「流行語大賞」にも選ばれた『忖度』は、国会答弁や企業内の上下関係など、様々な解説付きでマスコミ上でも大きく取り上げられた。しかし、字義解釈そのものより、その言葉が流行語大賞に選ばれた「社会背景」こそに興味があると考えている。

「字義」をネット検索したり、大辞林を引いて確認することは出来るが、【忖度】の様な言葉に遭遇すると、私たちが日常的に使っている言葉に多様な、深い解釈があることに気付き、立ち竦んでしまうこともある。

①：「漫画」「まんが」「マンガ」と表記され「MANGA」とそのままの音で世界中に流布される、私にとっては最も身近な言葉さえ、改めて正面から向き合ってみると、一筋縄では行かない。日本漫画家協会理事会で私が『漫画の範囲はどこからどこまでですか？』『どなたか、明確に説明していただけますか？』と質問しても、即座に『ここからここまでです』と回答してくれる理事はいない。

②：裏返せば、専門家でも把握し難いほどに、【漫画・まんが・マンガ・MANGA】と呼称される分野が、爆発的に拡大してしまったのである。私

は【マンガ・ビッグバン】と、呼んでいるが、それを図示すると、次ページのようになる。これは 1997 年牧野 60 歳の作図で、朝日新聞社「アエラムック」編集部の要請に応じて作ったものである。

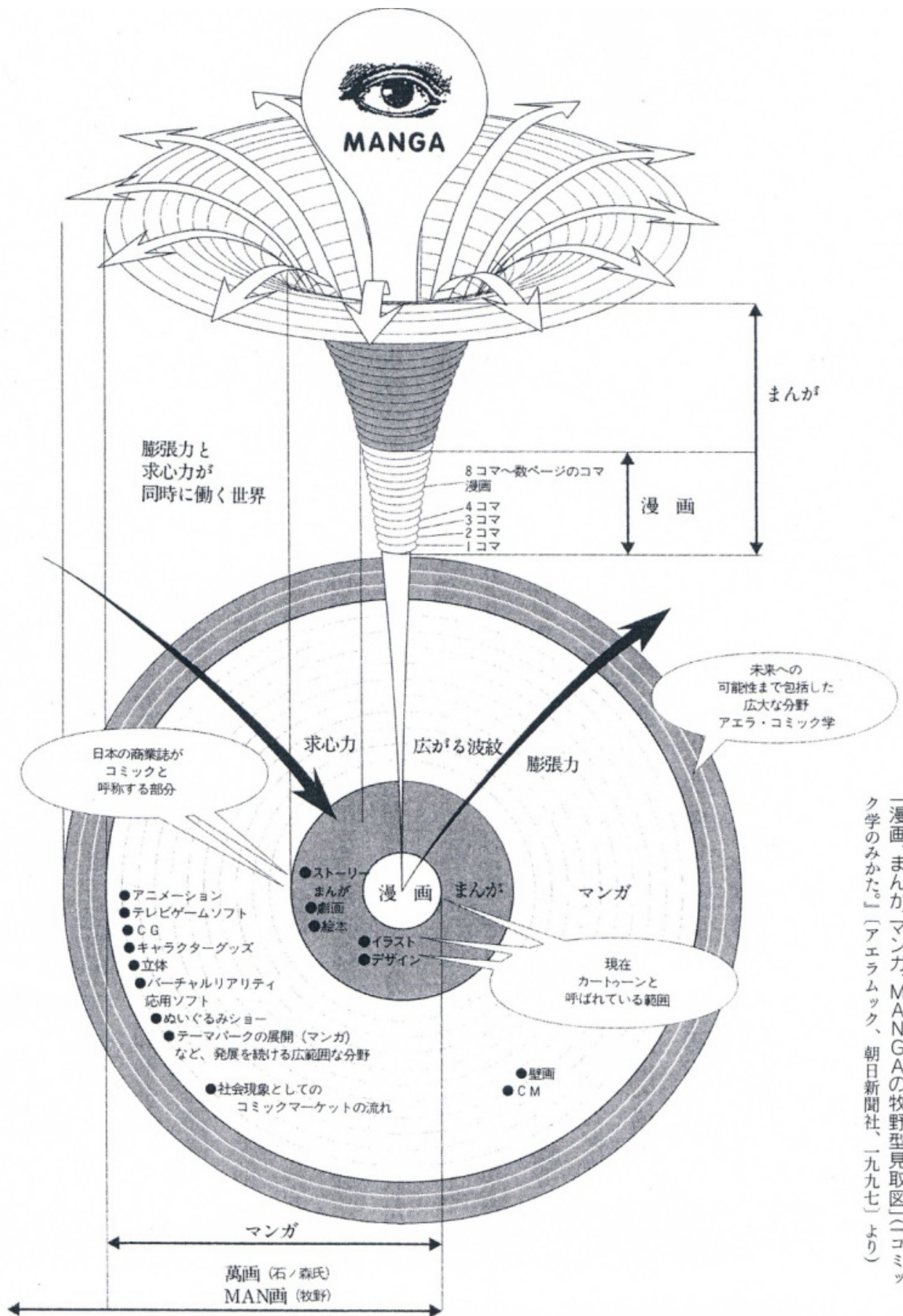
③：盟友石ノ森章太郎氏は、その 60 歳（牧野と三か月違いの生まれ）で他界したが、『漫画は萬画』と主張して、あらゆる表現が可能な媒体であることを、ストーリーマンガの形で実際に発表していた。

◆：『マンガ日本経済入門』は、その主張の具体的作品と位置付けている。

④：「一齣漫画」の牧野とジャンルは違うが、【MAN画】と表記して、「国際MAN画大賞」を企画していた点では、同意見であり、銀座の夜を同道しながら盛り上がっていたものである。氏が【マンガ・ジャパン】を興した際も、ストーリーマンガ中心のメンバーに、異色の「一齣漫画作家」として参加した。

⑤：石ノ森氏の没年が、この図表制作の次の年であった！ことを振り返ると、2018 年 1 月 7 日の今日、80 歳の私が 20 年を経て、この一文を草するのは、彼の手が背中を押してくれている感覚である。

では本題に入ることにしよう



「漫画、まんが、マンガ、MANGAの牧野型見取図」(「コミック学のみかた」(アエラムック、朝日新聞社、一九九七)より)

## 手塚治虫氏は、 何故、医学の道に 進まなかったのか？

時習館高校同窓会関西支部の伊藤忠男氏が、同時に大阪大学同級会の世話役もされているということで、同大学付属医学部出身者であった手塚治虫氏の話に依頼された。「ミニ講演」という形ではあったが、阪大同級会にお集りの皆様は、2017年11月9日土曜。東京浅草（江戸の下町）探訪を終えたあと、翌10日（日）は豊島区の「トキワ荘通り」や、街おこし事業の一環で作られた施設などを回る予定とお聞きしていた。

9日宿泊ホテル「第一イン池袋」懇親会での講演であった。亡き手塚治虫先輩が、取り持って下さったご縁と言いきチャンスであり、同時に、伊藤忠男氏の手で抛る綿密な計画なしには、実現しないツアーでもあった。

江戸の下町情緒を味わい、それに相対する東京の下町【手塚治虫氏の足跡を訪ねて】という同級会企画。トキワ荘関連施設の案内人も、事前の調査の中で予約するという周到さ。この講演依頼を受けたのは、その企画とともに準備が整っていると感じたからであった。

牧野は生前の手塚先輩に一方ならぬお世話になった者として、この小文のメインタイトルにした『手塚さんは、何故？医者にならなかったのだと思いますか？』の質問が飛び出した際は、『さすが！阪大同級会』と、手を打ったものである。

漫画家同士の会合や銀座の飲み会では、医学博士でもある手塚治虫氏が「マンガの道」を選んだのは、『漫画が魅力的だから、漫画家になって当然。』『科学者の裏付けがあって作品に説得力が生まれた。』

『絵が上手く、誰より漫画の世界に没入し、自分独自の世界を切り開いて行った！』『これ以上恵まれた条件で作家活動ができる者はいないのだから、…漫画家以外の手塚治虫なんて考えられない！』

子どもに対しても、大人に対しても、これ程自由に分かりやすく伝達することが出来る表現手段は他に無いのだから、「一旦その魅力を知ってしまっ

たら、他の世界に戻っては行けない」と、思い込んでいたから、その懇親会で飛び出したご質問の『何故？』は、考えてもみないことなのである。

しかし、この質問をした方（工学専門家とお聞きしたが…）は、『手塚氏を引き込んだ「マンガ・まんが・漫画」とは、そもそも何なのか？』という質問でもあると、牧野は受け止めた。

手塚氏とは、時に応じて深いお話し合いをさせていただいたが、例えば懇親会の様な席で、学者同士、研究者同士、技術者同士で気楽に話し合い、『あの件に対しては、私はこういう確信に近い見解を持っているのだが、残念ながら、未だ実証実験が終っていないので、発表は控えている』『ここだけの話だが…あの説には重大な欠陥がある。目的自体は良しとしても、そこに至る道程に問題がある』などの学者同士での意見交換があった後、手塚さんはホテルの自室に戻り、直ちに漫画作品として描き、発表することが可能であった。

学者として、学会レベルの発表は出来なくとも、人々の心の中深くに潜む【願望】【欲望】【妄想】の類を、作家である手塚氏のフィルターを通して、（アレンジして）作品化できるのである。漫画には、ナンセンスマンガというジャンルがあり、理論的にはどのようなにも説明できない、不可思議な深奥の世界を描いて、描き手、鑑賞者がその説明し難い世界の中で、感応し合う。…『う〜ん、説明できないがこの漫画、分かる！ワカル！！』という、表現世界。

手塚氏は、医学部卒で、ドクター論文は【タニシの「精子の電子顕微鏡研究」】という。検索すると当時の最先端研究であるという評価と共に、その情報を提供した人物の『手塚治虫氏論』まで見ることが出来る現代。雨台風通過のあとの、「土石流の如き情報の急流」を前提として、『何故？漫画家の道を選んだのか？』を語らなければ、この議論さえ、流木と共に押し流されてしまうに違いない。

## ○「鉄腕アトム」は子ども向け漫画？ 「日本基幹産業」設計図？

ネット検索すれば、どんな情報も得られる時代。それを再構成して「自家薬籠中」のモノとすることも容易でありましょう。ここまで来たからには、昭和の時代を代表する漫画家たちのナマの声と姿に接した筆者がすべきことは、ネット情報では掘り切れていない部分の『本音』を描き残すこと。

網羅的に説くのではなく、例えば手塚氏の代表作『鉄腕アトム』に絞り込んで申すなら、発表以来長い間、それは当時の子供たちの読み物として描かれた作品であり、PTA 的評価の平均値は、『力で大きな敵を倒し破壊する、暴力肯定の漫画。…子供の大きさのロボットが、空を自在に飛んで、無敵の活躍をするなんて…やはり、マンガはマンガでしかありませんね！』と言うところ。

しかし今、AI時代のロボットが、どこまで世界を変えて行くだろうか？という時代を迎えて、「鉄腕アトム」は、上記評価と、全く違った見方が必要になっているのではないだろうか？

まず、人間型ロボットは「二足歩行」という効率の悪い問題をクリアせねばならず、階段を上る際も、重量物を運ぶ時も不安定で、余程レベルの高い技術の裏付けがない限り実現しない。同じことをさせるなら、月面、火星探査機のように車とロボットアームで構成されたもので十分ではないか！？…という意見が大多数を占めていた。…そんな空気の中、京都大学に全く違った視点を持つ教授がいた。高橋智隆氏である。

牧野が講演先で、マンガやロボットの話をしていたら、高橋教授の親戚（伯父さん？）に当たる方が、『自分の親戚に京大教授でロボットを作っている面白い男がいる。紹介するから、あってみないか？』と、申し出があった。

京都精華大学に来て下さるといので、学生と一緒にお待ちしていると、登場したのは、世界中に200台ほどしかないという高級車リンカーンに乗って颯爽と現れたのは背の高い紳士。その方が高橋智

隆教授であった。見守る学生の前で持参の洒落たスーツケースを開けると、中には可愛らしいデザインの少年ロボット。学生の歓声の中でロボット君は自力で立ち上がり歩きはじめた。

基本的デザインは踏襲されていて、宇宙飛行に同行して、宇宙飛行士と会話した「キロボ」もこの時の印象そのもので、高橋教授が機能追究に劣らず、今も少年期？に遭遇した【手塚アトム】のイメージを大切にされていることが分かる。

介護の力仕事をサポートするだけでなく、鳥や犬、人間の形表情を兼ね備えて、存在そのものが【癒し効果】を齎（もたら）すのを良しとするなら、【手塚氏のアトムデザイン】は、子どもたちをワクワクさせるだけでなく、近未来にはこのようなAIロボットが社会を変革させて行くのだ…という強い認識があって、この傑出したアイデアとデザインが世の中に供与された！…そう考えることが出来るのではないだろうか？



### 高橋智隆 - Wikipedia

[ja.wikipedia.org/wiki/高橋智隆](http://ja.wikipedia.org/wiki/高橋智隆) - [キャッシ](#)

ユ

大阪府出身（出生は京都大学医学部附属病院）。大阪、滋賀、カナダで育つ。比叡山 中学校、立命館高等学校を経て、立命館大学産業社会学部に入學、1年間留学し1998年卒業。数社から内定を得ていたが、納得できるものではなく、子どものころの夢である **ロボット** 作りが忘れられず、内定辞退。予備校に入學。翌年、**京都大学工学部**に再入學。在学中に2足歩行**ロボット**を開発し、関西テクノアイデアコンテストグランプリを受賞。2003年に物理工学科メカトロニクス研究室を卒業。同年に、個人事務所「**ロボ・ガレージ**」を設立。

～高橋先生曰く～

『私は頭の中でアトムをイメージしてデザインし、自分で原型を削り出している。』

『先にロボット機能をイメージするわけではありません。』先にデザインがあって、その中に納まる部品で動きや言葉、☞（ネット検索）表情を生み出す。

日本の工場では、アーム型のロボットにさえ、名前を付けて呼ぶことがあると聞いたが、牧野家の中にも「お掃除ロボットの【アイボ】」が走り回り、貯金箱が目をクルクル回しながら『何かすることがあった気がするなァ！？』とつぶやいていた。

一木一草にも神が宿り、大木には無論、山や川、月、日そのものも「神」として自然に手を合わせて拝礼する国民性は、極めて自然にこれ等を受け入れて怪しまないのである。

高野山で奥の院に通じる参道を辿ると、鬱蒼と立ち上がり大木による巨大伽藍＝大空間＝が現れ、その中に何万基とも知れぬ石の墓標が、立ち並んでいる。大小様々で、企業名の入った大型のモニュメントもあって、圧倒的な空間があたりを支配している。

奥の院参拝後、森の出口付近で出会った「墓地」は、ことにショッキングで忘れることができない。それは、【シロアリの供養塔】である。

大きくて堂々としているのが、印象を強くさせている。

しろあり供養塔～しろあり やすらかにねむれ～

事業活動 | 公益社団 ...☞（牧野引用）☞

[www.hakutaijyo.or.jp/jigyoku/kuyou.html](http://www.hakutaijyo.or.jp/jigyoku/kuyou.html) - キヤッシュ

和歌山県高野山奥の院へと続く参道に、本会のしろあり供養塔があります。しろあり 供養塔は、人間生活と相容れないために駆除されたシロアリの供養を目的として、会員 ならびに関係者の賛同協力により昭和 46 年に完成いたしました。当初はシロアリの供養のみを行っていましたが、昭和 51 年からはシロアリ防除に携わってきた功労者（しろあり関係物故者）も合祀するようになり、現在までに 120 名余の方々方が奉納されています。家屋の害虫であるシロアリを供養する、その特異な存在は合祀された物故者ご遺族のみならず、高野山を参拝する多くの方々の目に留まり、シロアリ問題の啓蒙に大きな役割を果たしています。



文字にすると唐突でも、奥の院参道の空気の中で、沢山の仏塔や大きな墓碑、それらが林立している姿☞（風景）に接した後では、この供養塔に出合ってほっとした気持ちを、大切にしようと胸に仕舞い込むことが出来るのであった。

○飛び込んで来た「大阪大学の澤芳樹教授チーム」の 8K 映像

正月の松飾りも取れるか取れないかの内に飛び込んできたのが、下記引用ネット引用のNHKニュース。iPS 細胞がどこまで現場医療で活用できるか？は、ノーベル賞受賞当時の京大山中教授ご自身も指摘されていたことである。今NHK 8Kカメラが研究現場に入り、科学者でなくともよくわかる手段でその効果が示され、牧野がそれを添付することで、更に阪大との関係も、手塚氏との関係にも【唐突】でない、説得力を持たせることが可能な時代になった！！…このことを先ず、伊藤忠男氏と、共有したいと願っている。

このような、牧野の小論にも取り込んで、マウスのクリック一つで動画を見、音声で確認し、阪大澤芳樹教授の表情や研究室の様子まで把握することが出来る！！…という状況が、昭和 12 年生まれの牧野には信じられないような出来事なのである。

iPS 細胞 心筋細胞に変化し拍動の様子 8K で撮影

NHK ニュース ☞（牧野引用） たった10時間前

[www3.nhk.or.jp/news/html/.../k10011281551000.html](http://www3.nhk.or.jp/news/html/.../k10011281551000.html)

iPS 細胞を心臓の筋肉の細胞に変化させシート状にして重症の心不全の患者の心臓にはり付けることで難病の治療を目指す大阪大学。その研究の最前線に密着する。

iPS 細胞が心臓の筋肉の細胞に変化し拍動するまでの様子を、顕微鏡に取り付けた 8K＝スーパーハイビジョンカメラが鮮明な映像で捉え、貴重な映像だとして注目されている。

この映像は、iPS 細胞を使って重い心臓病の治療法の開発を進める大阪大学の澤芳樹教授らの協力の下、NHK が撮影した。

映像は、8K＝スーパーハイビジョンカメラを顕微鏡に取り付けて、iPS 細胞に変化を促す特別な試薬を加え分化する過程を撮影していて、培養を始めてから 9 日目、心臓の筋肉の細胞になったばかりの 1 つの細胞が、最初の拍動を始める瞬間を捉えている。さらに培養 17 日目で、心筋細胞が塊となって、一斉に拍動する様子を鮮明な画像で撮影している。

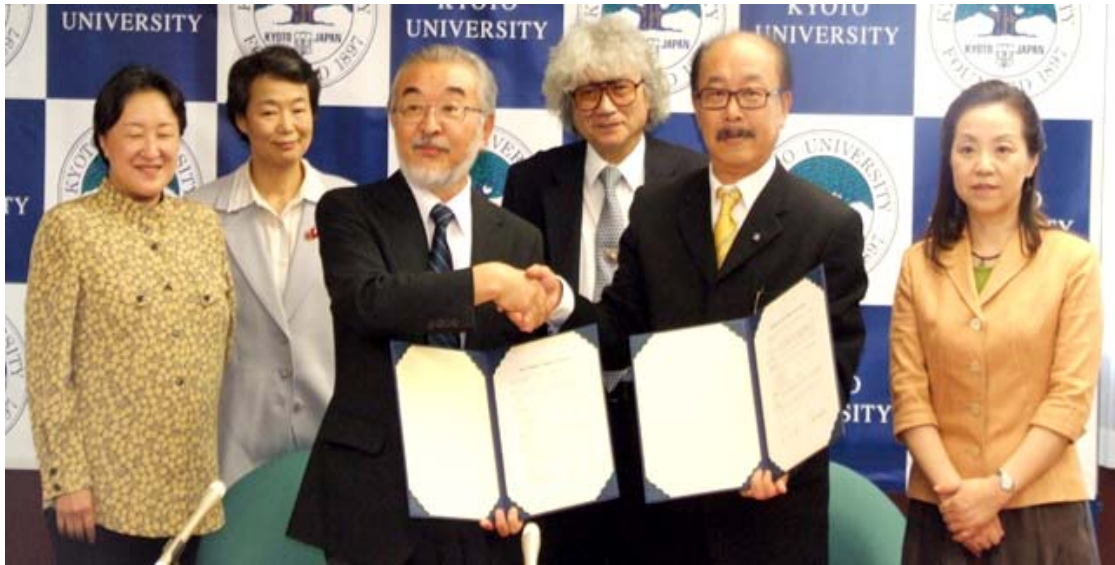
8Kは、通常のハイビジョンに比べ16倍の高画質であるため、細かい部分を拡大することも可能で、細胞1つ1つの形や動きだけでなく、収縮する働きを担うはしご状の「筋節」と呼ばれる構造も確認できる。

あまりに便利なので、ネット検索⇒引用が多くなって恐縮であるが、『漫画・まんが・マンガ・MANGA』と表記される分野が正当に理解されない時代が【昭和】であり、昭和の代表的漫画家の一人である手塚氏の功績を「流行」の視点で浅く見れば、《過去の流行作家》という整理ファイルに押し込んで、棚に上げて忘れてしまう！？という、由々しき事態にもなりかねない。

牧野が大阪大学や京都大学の事例を数多く引用して御覧いただいているのも、いたずらに「権威」に寄り掛るわけではなく、「マンガ」と言う表現形式が年齢、経験、国籍の壁を越えて十分機能するのだ…ということを繰り返し事例で提示して、本稿の目的を果たしたいと願うからに他ならない。

次ページの写真も何度繰り返しご覧いただいたか分からないが、この写真の時点で京大総長であった「尾池和夫氏」は2018年現在、京都造形大学学長。漫画家「竹宮恵子氏」は、現・京都精華大学学長である。「島本浣氏」は美術評論家でもあるが、時習館高校の同僚。…単なる記念写真でないことは、今回の【江戸下町探訪⇒手塚治虫トキワ荘訪問】企画を担当された伊藤忠男氏であれば、きっとお分かりいただけると思う。

京都大学と京都精華大学を、「最先端科学研究紹介冊子」で繋いだ



左から、京都大学の鈴木 晶子 教育学研究科 教授、大西 珠枝 理事・副学長、尾池 和夫 総長、京都精華大学の牧野 圭一 マンガ学部 前学部長、島本 浣 学長、竹宮 恵子 マンガ学部長 (肩書はいずれも当時)

京都大学は京都精華大学との連携協力に関する基本協定を締結した。

大学の広報活動を重視する京都大学尾池総長の発案により、京都大学を身近に感じてもらう目的で「マンガによる京都大学紹介冊子」を作成することになった。当時、尾池総長から、マンガ学部を擁する京都精華大学の島本学長に話を持ちかけられ、両大学の教職員・学生参加の元マンガプロジェクトを立ち上げ、平成18年8月から具体的な作業が始まった。様々な問題を乗り越え、ようやく完成にこぎ着け発表することになった次第である。

その作成段階において、マンガ作成に関わっている双方の教職員から、本学と京都精華大学との間でもっといろいろなことで連携協力できるのではないかといた提案がなされ、尾池総長及び島本学長が連携協定を締結する方向性について了解された。その後、両大学の関係会議において、マンガプロジェクトをさらに発展させる目的で、本協定を締結することが了承され、協定書調印式を迎えるに至った。

## 漫画の虚構の中に真実を見付けることがある！

～手塚治虫氏は、子ども時代から長ずるまで作絵に没頭し、  
その魅力を知っていたから、漫画家になった～

今までの小文から、ここまでの結論を直観的に導き出し、論議を進めたい。

今回の作文中、前記の「心筋細胞・8K映像」が衝撃的で、手塚氏の卒論「タニシの精子の電子顕微鏡観察」と重なって見えるのは、私だけだろうか？「8Kカメラ」をNHKが協力・貸与したことで、学会発表前に世界中の研究者から一般聴視者までが、このニュースをリアルタイムに共有することになったのである。

今後、新しい発見や、発明があった際、インターネット上で告知され、世界中に流布される！と言うパターンが日常化するのではないだろうか？

政治の世界では、アメリカ大統領のトランプ氏をはじめとする権力者たちも、議会や党の承認を得る前に、自分のホームページ上に私的意見を開陳し、それをマスコミが即座に取り上げることで、デモや暴動、テロまでが誘発されるという事態。

伊藤忠男氏からの依頼で、牧野が一人の「漫画職人」として感じ取った【漫画家手塚治虫像】を書き留めている。沖縄海洋博、川崎漫画ミュージアム、京都国民文化祭などの大型イベントから、漫画集団、漫画家協会などを通しての、小さな行事、その間に生まれた「銀座クラブでの飲み会」での懇談の中の、何気ないやり取りの記憶、集積の中から、80歳の今だから見えて来た【作家⇄予見者：手塚治虫の実像】  
☞洗い出しである。

前記した



「漫画の虚構の中に真実を見付けることがある！」  
～手塚治虫氏は、子ども時代から長ずるまで作絵に没頭し、その魅力を知っていたから、漫画家になった～が、私の結論であるが、それを立体的な諸例を組み上げることで、「私なりの漫画論」を補強し、日本で最初の「マンガ学科」⇄「マンガ学部」を京都精華大学に設置。「京都国際マンガミュージアム」開設。⇄⇄「日本漫画学会」設立に寄与したという自負に、自身で裏付けを与えようという試みにも繋げることが出来る。

紙面の都合上（編集委員会指示）、今回は直感的に導き出したこの結論を示すにとどめ、次号ではこれをさらに深耕することとしたい。

後編の書き出しを予告編として記載する。

### §

80歳の今日まで、実に雑多な活動を重ねて来た。その原動力は、時習館高校の「美術室」に泊まり込むまでした【東京芸大】への夢の崩壊！？であった。コンプレックスの穴埋め行動に他なりません。

手塚氏と合い、『この大天才にして【絵画への充足感】が、見たされていない！？』と、その「本音」を知った際、人々を突き動かすエネルギーの源泉は、思い掛けないところにある！？と思い知らされたのである。タブーの無い【日本の漫画文化】の特性は、癒し難い「病根」の治療法としても、有効と知った。

この歩みを裏付ける事例を挙げ新たな「手塚治虫論」を完結させる予定である。

～次号に続く～

## 特集記事

## 「春日大社国宝殿」への新生

弥田 俊男（時習 44）



## ○ 「平安の正倉院」と呼ばれる春日大社

春日大社は、御神体である御笠山みかさやまの麓に768年に創建されました。2018年の今年、ちょうど創建1250年を迎える年となります。1998年12月には、春日大社や春日山原始林を含む「古都奈良の文化財」がユネスコの世界遺産に登録されました。

春日大社には、国宝は神社では日本最大点数である352点、重要文化財971点をはじめとする平安王朝文化の数多くの古神宝が納められ、「平安の正倉院」とも呼ばれています。これらの古神宝を護るために、近代の日本を代表する建築家である谷口吉郎氏の設計によって、春日大社の境内に「春日大社宝物殿」が建てられ、昭和48年に開館しましたが、竣工から40余年の時が経つ中で、現行の耐震基準不適合となったことによる耐震補強の必要や、施設設備の老朽化、所蔵品の増加によるスペース不足等が大きな問題となっていました。

## ○ 宝物殿から国宝殿へ

春日大社では創建以来20年に一度、「式年造替しゅうねんぞうたい」という、本殿をはじめとする社殿の大修繕や装束・調度品の新調などにより、永続的に変わらない姿を後世へと受け継いでゆくための儀式が執り行われてきました。2016、2017年は第六十次式年造替にあたり、その記念事業の一環として、既存の宝物殿を増改築および耐震改修し、宝物殿周辺の春日大社境内の修景整備とあわせて、「春日大社国宝殿」として新たな姿へとリニューアルすることが計画されました。

私は以前、建築家・隈研吾さんの事務所に所属していた時に、根津美術館やサントリー美術館といった、日本を代表する古美術の美術館の設計を担当しました。そこからのご縁がつながり、設計の依頼を受け、春日大社国宝殿へのリニューアルを手掛けることになりました。



改修前の春日大社宝物殿



改修後の「春日大社国宝殿」

## ○ 増改築および耐震改修における考え方

春日大社国宝殿へのリニューアルの基本方針として、まず、谷口吉郎氏による既存の宝物殿の魅力を極力活かし、その佇まいを後世に継承するものであるべきだと考えました。その上で、必要とされる耐震性能の確保、施設設備の全面的な更新等により、春日大社が所蔵する貴重な御神宝を守り伝え、鑑賞者にも優しく安全な収蔵・展示環境を実現し、これまで未設置であったトイレやエレベーターの整備によるバリアフリー化および利便機能の向上を図りました。そして、より多くの参拝者が建物へと自然と魅き寄せられ、宝物の素晴らしさに触れ感じてもらえるような、境内に穏やかに開かれた、これからの時代に相応しい親しみやすい表情へと新生した「国宝殿」を創り出したいと考えました。

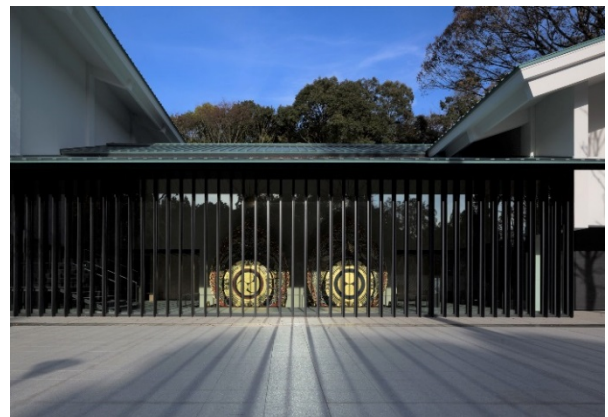
既存の宝物殿は、1階部分がピロティとなった2階建ての鉄筋コンクリート造による高床形式の建築物であり、前後にずらして配置された高さの異なる両翼の棟を繋ぎ棟でつないだ、左右非対称のH字型平面となっていました。

増築では、既存の宝物殿の佇まいを大切に受け継ぐことを考え、H字型平面の建物前後の窪み部分に、必要とされる新たな空間を鉄骨造で設ける計画としました。建物正面側の窪みには、既存屋根を伸ばすように片流れの屋根をかけ、春日大社の祭礼「春日若宮おん祭」で実際に使用される日本最大級の「鼙（だ）太鼓」を展示する「だ太鼓ホール」を新設し、建物の外側を往き交う人々からもだ太鼓の姿を見ることができるようになりました。

建物背面側の窪みには、既存屋根と同じ切妻屋根をかけ、祭事等のための装束や神具を保存するために必要な倉庫空間を新設しました。

既存部の改築では、室外空間であったピロティ部分を室内化し、新たなエントランスホールと、導入の展示空間「神壇<sup>かみがき</sup>」を創出しました。「神壇」は、新たな展示動線としてまず最初に、闇の中の光と水に「神の気配」を感じてもらう展示演出空間です。展示室の下の閉鎖的だった1階倉庫は、境内と一体化する開放的なカフェ「鹿音<sup>かおん</sup>」へと新生させました。

耐震改修では、新たな展示動線に合わせて、創出する空間の特性を損なわないように、25センチ厚のRC耐震壁を1階の13カ所に適切に配置しました。



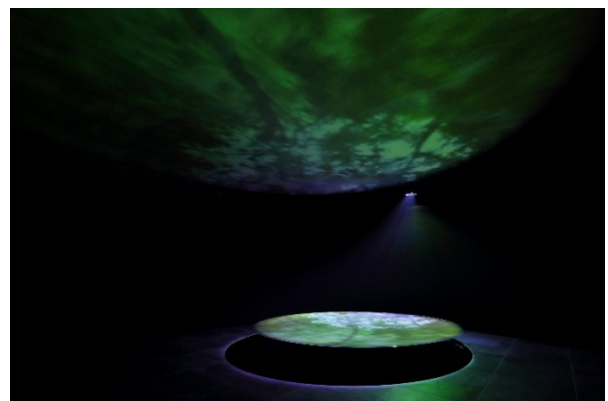
「だ太鼓ホール」外観



「だ太鼓ホール」内観



国宝殿のエントランスホール



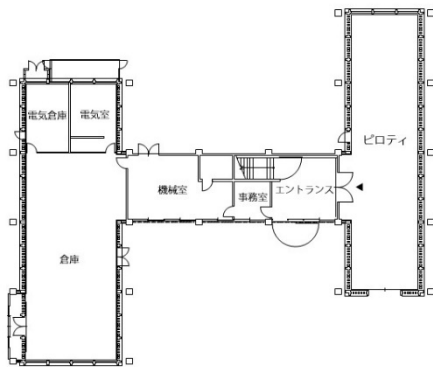
導入の展示空間「神壇」



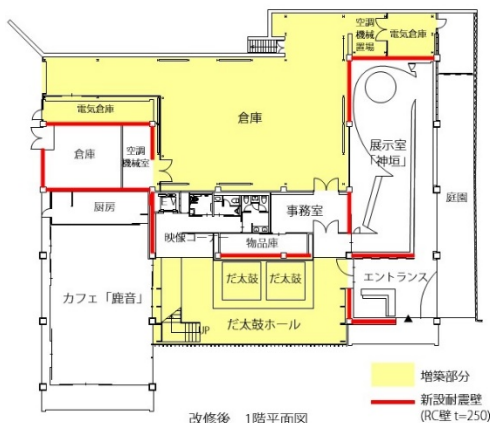
境内と一体化するカフェ



改修後の展示室



改修前 1階平面図



改修後 1階平面図

改修前後の1階平面図の変化

## ○ 境内に開かれた「春日大社国宝殿」

緑溢れる春日大社境内の歴史的景観に調和し、既存建物の魅力を受け継ぐ佇まいとして、境内の自然環境と一体となり、緑の中で軽やかな浮遊感のある国宝殿の姿を目指しました。

この国宝殿へのリニューアルにあわせ、新たな参拝者動線を創出するため、国宝殿周辺の境内の修景整備が計画され、国宝殿の正面は、参拝者が憩い往来するなだらかな丘状の広場へと新生しました。夕刻には、「だ太鼓ホール」などから洩れる春日大社国宝殿のあたたかな光が、境内に灯るおおらかな行燈となって、丘状の広場の人々を魅き寄せ、照らし出す景観となります。

境内修景整備では、境内のトイレ、バス停の新設も計画され、国宝殿との統一感に配慮するとともに、境内の景観に溶け込むような、国宝殿と一体となった境内空間としての修景整備を行いました。



境内を照らす行燈となる夕刻の国宝殿

鬱蒼とした木々に閉ざされていた宝物殿は、境内の修景整備とあわせ、参拝者が往来するなだらかな丘の広場へと開かれた国宝殿となりました。

春日大社という歴史ある地において、既存の近代建築を継承し、同時に新たな魅力を付与し、次の時代へと引き継いでゆく建築のあり方を考えました。日本文化における神なるもの、自然の中に存在する全てのものを崇拜する尊さこそ、現代の私達にとって大切なものであり、より多くの人々が国宝殿へと自然に魅き寄せられ、御神宝に込められた真の美しさへの感動を通して、改めてこの感覚に気付く契機となるようにという思いを込めながら、「春日大社国宝殿」への新生を手掛けました。

特集記事



私の宝物  
「音楽と故郷のおかげで結ばれた絆」



峯島 望美 (時習 44)



44 回生の峯島望美です。昨年は卒業 25 周年の年でした。月日の経つのは早いものと驚きます。25 年前に時習館を卒業し、私は音楽の道に進みました。以来、ソプラノ歌手として国内外の様々な舞台に立ってきましたが、25 周年を機に、時習館の温かい絆に触れる舞台に恵まれるようになりました。

2016 年に名古屋支部総会、2017 年に本部総会と、2 つの総会で演奏させていただきました。そして 2018 年は、関西支部総会にて歌わせていただく予定です。3 年続けてこのような機会を与えていただき、とても嬉しく光栄に思います。

曲と、どのジャンルも歌いこなすスーパーソプラノです。



今年 80 歳になられた記念にグラモフォンから発売されたメモリアル CD



25 周年総会にて

○マティス先生に憧れウィーンへ

東京音楽大学大学院を修了した後、私はウィーン国立音楽大学に留学しました。そこでは尊敬する世界的名ソプラノのエディット・マティス先生が教えていらっしゃいました。エディット・マティス先生は世界中の歌劇場で大活躍し、オペラ、宗教曲、歌

名指揮者バーム、カラヤン、名歌手フィッシャー・ディースカウとの共演も数多く、名演をたくさん残していらっしゃいます。日本に初来日したのは 1963 年 (私はまだ生まれていませんでした!)、ベルリンドイツオペラと共に来日し、モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」でケルビーノ (お小姓役) を歌い、歌の良さはもちろんのこと、あまりの可愛さに大人気になり日本でも有名になったそうです。という方なので、私にとっては雲の上の存在だったのですが、なんと憧れの先生とお会いするチャンスがやってきたのです! 群馬県草津町で!

温泉地として有名な草津ですが、実は毎年、草津夏期国際アカデミーというハイレベルな音楽祭が開催されているのです。先の噴火のニュースを見るにつけ心を痛めておりましたが、現在は火山活動が沈静化し、今年の音楽祭の開催に向けても準備が進められるようでひとまず安堵しました。この音楽祭では著名な音楽家によるマスタークラスやコンサート

が行われます。私が大学院生の当時、マティス先生も講師として招かれていらっしゃいました。これは行くしかない！と、お風呂セットではなく、楽譜を持って草津まで駆けつけました。先生は私にとって音楽の神様のような方です。初めてお会いした時は興奮と緊張で震えました。マスタークラスでレッスンをしていただき、ウィーン音大への留学の扉を叩きました。勇気を振り絞り「Ich möchte bei Ihnen an der Uni in Wien studieren! (ウィーン音大で先生のレッスンを受けたいです!）」と拙いドイツ語で打ち明けました。

その後晴れて入試に合格し、ウィーン音大でマティス先生のご指導のもと歌曲、主にドイツ歌曲と宗教曲を学ぶことになりました。夢のような日々です。



ウィーン国立歌劇場にて

しかし、厳しい現実が…。可愛くて大人気の大ソプラノは、鬼教官でした。いや、当然のことです。芸術の道は厳しいのです。まずは言葉のハードルからです。ただでさえ難しい“詩”を、さらにドイツ語で解釈し、ドイツ語で表現します。発音も徹底的に直されます。レッスンは当然ドイツ語です。学友ともドイツ語、お買い物もドイツ語、テレビもドイツ語。ドイツ語圏に暮らすわけですから当たり前です。とても苦労しました。「望美はこの詩の内容が女性のものか男性のものかわからないの?!」と怒られたこともありました。今ではわかります。大体は。(笑) 言葉の大切さ、発声の技術的なことから音楽解釈まで、先生にはたくさんのお話を教えていただきました。それら全てが私の宝物です。

そして出会いから 20 年近くが経ち、今では家族ぐるみのお付き合いをさせていただいています。先生を「エディット!」と呼ぶ日が来るとは夢にも思いませんでした。歴史的な大歌手との有難い絆にいつも感謝しています。



マティス先生のご主人と一緒に

○ 大阪大学会館でのリサイタル  
「ひとり歌芝居」が好評

昨年 12 月に大阪大学キャンパス内にあります大阪大学会館にて、ソプラノリサイタルを開催させていただきました。関西支部の皆さまにもご来場いただき、とても嬉しく思います。“女の恋といのち”をテーマに、ウィーンで学んだドイツ歌曲と、峯島望美オリジナル“ひとり歌芝居”をお聴きいただきました。



ソプラノリサイタルで  
ドイツ歌曲を演奏中

ドイツ歌曲では、歌曲集の傑作シューマン作曲「女の愛と生涯」、ヴォルフ作曲「イタリア歌曲集」(ドイツ歌曲なのに、なぜイタリア歌曲集なのか。それは原詩がイタリアのものだからです。それをドイツ人のハイゼという学者がドイツ語に訳したものに、

ヴォルフが作曲しました。ややこしいですが。) 選曲にはマティス先生からもアドバイスをいただきました。



ソプラノリサイタルでひとり芝居を演奏中

“ひとり歌芝居”は、リラックスして笑いながら楽しめるものと、歌と芝居と Witz (ドイツ語でシャレとか冗談という意味です) を詰め込んで作りました。おかげさまで毎回ご好評をいただき、次回関西支部総会でも上演させていただくことになりました。お楽しみいただければ幸いです。

### ○ 豊橋でしばしばリサイタルを開催

先日豊橋でも同じプログラムでリサイタルを開催しました。故郷豊橋でのコンサートはとても温かく、時習館の同窓生の方々にも多数ご来場いただきました。ありがとうございます。豊橋でもこうしてリサイタルを開催したり、オペラに出演させていただいたり、また子供たち向けの音楽文化振興事業に関わらせていただいたり、幸運にも色々な形で音楽活動をさせていただいています。そういった中でも時習館の同窓生の皆さまと巡り会うことがたくさんあります。25周年を迎えるまでは、「何回生？」と尋ねられても、「えー…」と口ごもっていましたが、



豊橋で開催された三河市民オペラ「カルメン」に出演

今では間髪入れず「44回生です！」と答えられるようになりました。(笑)

中学を卒業する頃には、音楽大学に進みたいと考えていました。高校は音楽科に行くか、普通科に行くか、非常に迷いましたが、その後時習館で学んでよかったと思うことが多々ありました。音楽の世界の絆と違う世界との絆。どちらも貴いものですが、音楽の世界にいと、それ以外の世界を知る機会はなかなか訪れません。25年経った今、時習館の絆の温かさに触れる度、よかったと思う気持ちが益々強くなっています。

### ○ マドンナ?から“歌うお母さん”へ

巡り巡って関西に暮らすことになり、二人の子育てをしながら音楽活動をしています。誰も知らない土地でした。全てをまた一から始めなければならぬ不安になることもありましたが、そんな中、関西支部に入れていただき、同窓生の方々との素敵な出会いに恵まれ世界が広がりました。

音楽と故郷のおかげで結ばれた絆、また新たに結ばれる絆に感謝し、これからも自分の音楽の道を歩み続けていきたいと思えます。“歌うお母さん”として！頑張ります！

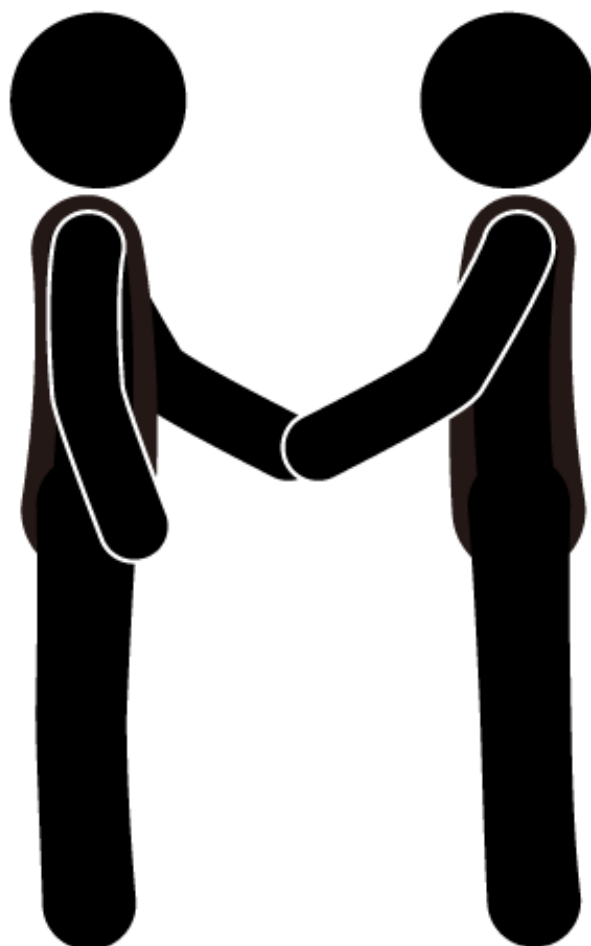


子どもたちと



東愛知新聞  
平成30年2月20日  
掲載記事

# 特別投稿



**特別投稿**



♪ **A n D i e 絆** ♪



**東京支部事務局長 雑賀 哲治（時習 19）**



時習館同窓会関西支部の伊藤忠男事務局長から『時習館かんさい』への投稿依頼を受けたのは今年の2月初旬、平昌冬季五輪が開催される直前であった。水気のあるスポーツにはとんと縁遠い私も今回の日本選手の活躍と話題満載のオリンピックは充分堪能できました。まだバリバリの現役時代でTVを見ている余裕もなかった長野五輪は20年前、その2年後の2000年、日本初の女性知事が大阪に誕生したのもちょうど2月のこの頃だったかと思う。

○ **関西支部総会に出席して**



伊藤事務局長と面識ができたのは3年前、2015年6月にホテルニューオータニ大阪で開催された関西支部総会に杉井孝東京支部長の名代として出席させていただいた時である。



**関西支部総会に出席して**

この関西支部の総会は個人的に、又東京支部事務局長を拝命している私にとって、新鮮かつ共感

できるものであった。まず開催案内の出欠葉書の内容、しっかりとした総会議事運営と配布資料、そして二次会の用意まで。この時の懇親会のアトラクションがビートルズショーであったことも手伝い、さながらホテルのディナーショーに出席しているようであった。出席者も若きは現役大学生や子供を抱いた母親からといった状況で非常にアットホームな雰囲気に圧倒されたのである。その時案内のあった同年10月の「姫路城見学ツアー」についつい申込を行い、翌年6月の神戸須磨での総会にも参加させていただいている。

大阪、神戸、京都、奈良と総会を巡回開催していることも他支部では真似できない大きな特徴である。石川吉之助支部長以下、支部役員の皆様が夫々の役割を分担し、しっかりとその責を果たしていることが十分に伺えた。

○ **同級生との出会い**



関西支部総会に出席して同級生の三井節子さんと話ができるようになったことも感謝である。

彼女が関西支部役員として名簿に記載されていることは承知していたが、こんなに生き生きと活躍しているなんて全くの想像外であった。控えめでおとなしかった中学生時代の印象、高校卒業25周年の時に一瞥した和服姿の颯爽とした彼女に驚愕したが、ずっと没交渉であった。それがこの時以来、50年間全く話をしたことがなかったとは信じられない位、話が弾むようになったのである。



50周年における  
19回生の踊り

右は三井節子さんの  
優雅な身のこなし



折しも卒業 50 周年が近づいていた時で、その後、彼女は豊橋のみならず東京での 50 周年関連イベントに全て参加である。50 周年で 19 回生が踊った「新・鬼祭り」や「マツケンのええじゃないかⅡ」での彼女の身のこなし、指先の動きは本職の日本舞踊で会得したものであろうが、さすがに余裕ある優雅さであった。

関西支部の総会にもう一人同級生がいた。小林佳雄同窓会本部会長である。



同級生の小林同窓会会長と三井節子さん

彼とは高校時代全く接点がなく知り合ったのが卒業 25 周年の時である。彼が自分で立ち上げた

会社に“物語”を冠しているが社員に対して夢と自分の物語を作り・語る大切さを訴えていると同時に自身も常に物語を追求している。「そだねー」が一躍北海道訛りとして脚光を浴びたが、彼の豊橋弁丸出しの話・演説はなかなか得難いものがある。周りの人への感謝・心遣いも忘れていない。彼から節目に時折もらう手書きの葉書は味わいと人柄が現れている。

## ○ 時習館同窓会への想い

♪♪

その彼が同窓会本部の第 9 代会長に就任したのが 2013 年、創立 120 周年の時である。

彼は地方支部の総会で、話題にするのが「支部活動に本来の同窓会なるものを感じる」「支部の機関紙・誌は個性的ですばらしい」と絶賛する。『時習館かんさい』、『時習なごや』、それと東京支部の『時習の灯』。考えてみると本部には定期的に発行している機関紙はないし、東京支部でのサロン、ファミリー、関西支部の JKL といった活動も皆無のようである。

昨年 5 月に本部の理事会と総会に出席した時に私自身感じたのも彼と同じことだった。本部総会は卒業 25 周年と 50 周年の祝賀会一色に染まり、他の年次出席者はごく少数であった。地元が故にいつでも同級生や旧知の先輩・後輩に会えるのであろう、本部としてはいきおい周年行事や母校現役への支援に比重を置かざるをえないのかとも思う。故郷を離れた支部の方が同窓会の絆というものを感じやすい素地が用意されているのは確かである。

関西支部では戦前・戦中生まれ世代の方が自ら、又上手く戦後生まれ世代を活用しながら運営を引っ張っているようであるが、個人的にはこの体制が同窓会運営にとって好ましいと考えている。いつの時代にも微妙な世代間闘争というものがあるのだろうが、「分断」が日常になりつつある今日の下状況下では殊更同級生同志の連帯に留まらず、縦の繋がり素晴らしさを知ることが肝要と思われる。昨年の『時習かんさい』の巻頭言に石川支部

長が『我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか（原文は仏語）』との表題を付したが、これを支部長が同窓会に対する想いと重ねたと感じたのは私だけだろうか。

## ○ 東京支部総会について

♪♪

東京支部の総会は毎年真夏にホテルニューオータニで開催されている。1947年に戦後の東京支部が発足し（設立は1935年）、1951年第1回支部総会開催（鶴見総持寺）、以後総会会場は変遷したようであるが1977年以降は40年間同ホテルに定着している。同ホテルのGM（総支配人）を永く務められた故岡田吉三郎氏（豊29、1981年～89年東京支部長）と故松澤等氏（豊50、1975年～98年支部事務局長）の存在故とその遺産である。『時習の灯』の印刷も1975年以降祥文社で継続しているが、これも松澤氏が同社の番頭を務めていた由縁による。氏は23年間に互り事務局長として現在の総会運営の基礎等を確立された。翌年25周年を迎える年次が総会幹事を務める方式（名古屋支部も同様。翌年本部で幹事）も上手い仕組みと感心するが、19回生が幹事を務めた1991年当時、松澤事務局長よりいろいろ薫陶を受け、激論したことが懐かしい。ただ、会場に関し、先輩の威光がいつまでも通用する時代ではなくなりつつある。昨年あたりから厳しい交渉に直面しているがホテル業界の厳しい内情を承知しているだけに今の事務局長としては辛いものがある。

## ○ 私の作品「絆」（写真）

♪♪

同窓会の話が少し長くなりすぎてしまった。伊藤氏から今回の投稿依頼を受けた時、編集テーマは「絆」であるということをお聞きし、受けるにあたってまず書きたい内容として真っ先に頭に浮かんだものがある。私自身発表した作品に「絆」と題したものがあるのだ。正式には「TV Magic photography「絆」」という写真のことである。

2011年3・11東日本大震災後、サッカー界の

果たした役割は大きい。とりわけ“なでしこジャパン”の活躍（その年、女子ワールドカップ優勝等）は様々な示唆と共に、ともすれば忘れ、失いかけていた日本人の特質、自信を取り戻してくれた。私の撮った写真は翌年このなでしこジャパンのロンドン五輪準決勝での得点シーンのTV画面を撮ったものである。（このフランス戦で決勝に進むものの結局アメリカにリベンジされ銀メダルに終わったが）

一眼レフカメラの機能も使いこなせず、インスタントカメラ然でスナップだけ撮っている私が毎年出品している写真展がある。名古屋のフォト八会というところで、名古屋勤務時代から継続出品している。一年間撮りためた写真のうちどれを選ぶか、そしてどんな題名を付すかといった悩みは尽きないが、2013年出展の本作以外に2016年には前年の関西支部ツアーでの国宝姫路城の写真（時習館の旗と天守閣）を出展した。題名は「たからもの」！

この写真を見た多くの方が「あの旗は何？」と言っていたそうである。

この姫路城ツアーに名古屋から神野義郎支部長（時3）外も参加されていたが、実は神野さんもこの写真展の参加仲間である。写真にも人柄というものが反映されるようで彼の写真は毎回ほのぼの感が漂う優しい写真が多い。豊橋での120周年行事の帰路、丁度名豊ビルで信郎氏の絵画とコラボした形で彼の写真展が開催されていて、楽しませていただいたものである。



神野義郎氏、神野信郎氏  
名豊ビル合同写真展会場にて

氏は昨年胃の手術をされた由であるが、いつまでも元気に写真を撮り続けて欲しいものであるし、同窓会の素晴らしさを伝えていって欲しいと願うものである。

尚、私の名古屋勤務時代、名古屋支部から案内頂戴していながら一度も支部行事に参加しなかったこと、支部長からなじられることはなかったが、今になっては悔やまれる。



神野名古屋支部長とのツーショット

### ○ テーマの「絆」



今号のテーマに伊藤事務局長が選んだ「絆」、氏の同窓会に対する想いが伝わってくるが、この「絆」という言葉が紙面によくあらわれるのは大震災の時やオリンピックの時である。

そもそもの語源は馬などの家畜・動物を立木に繋いでおくための綱からきており、本来しがらみ、束縛、動けなくするといった意味に使われていたようである。転じて人と人との信頼を繋ぐ、人と人との強い結びつき、支え合いや助け合い、友情や家族間の団結を指すようになったがこれは比較的最近のことのようである。(伊豆に「絆」という温泉旅館があるようだがペットと泊まれる宿の由。オーナーの命名の意図はどの辺にあったのかしら)

19回生は卒業25周年時同級生の会、「一九会」を立ち上げたが、その時使ったフレーズは「ふたたび ともだち You・遊・友」、昨年の50周年時に実行委員長を務めた戸田文雄君は今回「一九会は永遠の絆」というフレーズを使った。私にとっても時習館は何故か永遠の「絆」「たからもの」なのである！

東京支部にて杉井支部長肝入りで進めている125周年記念誌が6月に発刊予定であるがこちらに投稿もしてない私に時同じく発行の「時習かんさい」に勝手気儘に投稿する機会を与えていただいたこと改めて感謝申し上げます。

悠久の古都、奈良での今年度関西支部総会のご盛会をお祈り申し上げます。

### 私の作品



ロンドン五輪準決勝で「なでしこジャパン」の得点シーン（TV画面から撮ったもの）



関西支部ツアーで撮った国宝姫路城の写真（時習館の旗と天守閣）題名は「たからもの」

特別投稿



たくさんの人とつながって



館野 眞里子 (時習 18)

関西支部の皆さまこんにちは。18回卒業の館野眞里子です。東京支部に所属しています。今回『絆』というテーマでの寄稿の機会を頂きましたので、私が大切にしている『絆のはじまりとしての、人と人とのつながり』を、いくつかご紹介してみようと思います。

○ 時習 18 同期生とのつながり

昭和 41 年に卒業して東京の大学に進学してから、いろいろな事に取り紛れ、時習館同窓会も遠い国の出来事のように思えて、同期会の存在すら忘れていました。

そこへ、今から約 30 年前、卒業 25 周年に当たる年の 1 年前に、「18 回生が同窓会総会の幹事をするから集まれ」という電話がありました。電話で 18 回幹事の誰それだと名乗られても全然思い当たらず、丁重にお断りしようと思ったのですが、集まりの場所が目黒の香港園だと聞いて瞬間心変わり。目黒に住んでいた頃に何度も行ったことのある懐かしい中華料理レストランでしたので、その誘惑に負けて出席してしまいました。これが、18 回同期生と私のつながり始めです。

参加してみれば、18 回生は団塊の世代で同期は 700 人以上。その集まりでも『初めまして』と挨拶する人ばかりでした。でも、あの時代と同じ空気を吸って同じ時間をたった 3 年間共有したということだけで、顔も名前も忘れていたみんなと、あっという間に居心地良い関係が出来上がってしまったのは嬉しい驚きでした。



卒業 50 周年記念同期会 前夜祭

それ以来 25 年以上、同期生の集まりは、飲み会、ゴルフ、旅行へと発展を続け、今ではみんなが幼馴染のような感覚でいろいろな楽しみを共にしながら仲良くしています。

あの時の電話でのお誘いが目黒の香港園でなかったら、今ごろは...と思うと、幸運な偶然で同期生とつながったことに感謝するしかありません。



同期の仲間と箱根旅行

○ 同窓会東京支部とのつながり

同期会への参加は、そんなきっかけで始まりましたが、その流れに押されて支部活動にも参加す

るようになったのが、東京支部の皆さんとのつながり始めです。

7年ほど前に理事に推された時に、「支部の理事とは何をするのかまだわかりませんが、人と人をつなぐところでお役に立てればと思っています」と最初の挨拶をしたのを記憶しています。その後も、同窓の先輩と後輩をつなぐ場を作る活動や、支部活動の環境整備を続け、今は東京支部の副支部長として励んでいます。

それまで東京支部では、個別の同期会は活発に行われていましたが、地理的にも広く人数も多いので、なかなか先輩と後輩が交流する機会がありませんでした。

そこで、昔からあったけれど途絶えそうになっていた二つの催し、『見学会』と『講演会』を支部公認イベントに位置づけ、先輩と後輩がつながる場として支部会員へ提供することにしました。関係者が知恵を絞って、このイベントの定期開催を確実にするための幹事交代の方式や支援体制を作り、年4回の定例イベントが未来に向かって永く続いていける仕組みを作りました。

現在では、担当の学年幹事が知恵を出し合って興味深いイベントを企画し、支部会員の皆さんも毎回楽しみにして大勢参加しています。この会は年4回先輩と後輩がつながる場としての役割を果たしています。



見学会 防衛省 市ヶ谷台

また、卒業同期の幹事でこのイベントを企画する方式なので、それまで集まりの少なかった学年の集まりも盛んになり、同期生交流活性化の起点になっています。東京支部イベントの応援に豊橋や名古屋から同期生が大勢参加して、その機会に

同期会も開かれるので、遠距離同期生がつながるきっかけにもなっています。



講演会 於：アークヒルズクラブ

同期会による同期生同士の横のつながりと、イベントによる先輩後輩の縦のつながりが、東京支部の骨組みになっています。

## ○ ゴルフを共にする縦と横のつながり

18回生に武内（ぶない）さんというゴルフのレッスンプロがいます。知る人ぞ知る、レッスン予約がなかなか取れないカリスマプロです。私たち18回生の20数名は毎月1回の練習場レッスンを



受け、毎年2~3回はレッスン成果確認のためのコンペを開催しています。コンペは既に60回を超えて長い長いお付き合いになっています。

幼いころから運動がニガテだった私をこの世界に導いてくれた武内プロ、仲間としてずっと引っ張ってくれている同期生に感謝しています。今はゴルフが大好きです。



時習館ゴルフ愛好会 コンペ

また、東京支部には 3 回生 4 回生が中心に 15 年ほど前に発足したゴルフ愛好会があります。たまたま同窓会の集まりで誘って頂いたのがきっかけで会員になりました。皆さんご高齢なので若い会員を増やそうということで、私も後輩を勧誘しています。おかげで 31 回までの会員が増え、女性も増えて華やかになってきました。

3 回生 4 回生の先輩と一緒にラウンドできるのは、他ではなかなか経験できないことで、この縦のつながりの中でたくさんの元気やお知恵をいただいています。

## ○ 関西支部とのつながり

昨年、京都で開催された関西支部総会に参加させていただきました。関西支部総会のアットホームな雰囲気の中で、とても楽しい時間を過ごすことができました。

関西支部独自の運営の仕方や、年度ごとにテーマを決めて活動するやり方がとても新鮮で勉強になりました。これからはもう少し支部間の交流の場が作れたら良いのと思っています。

今回、そのご縁で、事務局長の伊藤さんから寄稿のお話をいただきました。作文がニガテな私はお断りしようと思ったのですが、これも支部間の一つのつながりになればと思い直してお引き受けしました。

## ○ アイルランドの仕事仲間とのつながり

コンピュータのシステム作成の仕事をしていた頃、アイルランドから日本に来ていた技術者数人とチームを組んで仕事をしたことがありました。日本人、アイルランド人、中国人で 12 人のチームでした。月に 1 回は伊豆の合宿所で缶詰になって仕事をしたので結束も固くなり、夜は皆んなでお酒を飲みながら、国柄や習慣の違いとか、物の見方や考え方の違いなどいろいろな話をして、お互いの理解とつながりを深めました。

数年後、仕事先の会社がアイルランドに現地法

人をつくったのを機に彼らは母国に戻りました。替わって私がアイルランドまで出張して仕事をしていました。アイルランドは、日本から遠くてあまりなじみのない国でしたが、同じ島国ということで日本人と気質が通じることもたくさん感じました。



アイルランドの仕事仲間

東日本大震災の福島原発事故の時には、「日本は危ないから、とにかくすぐに日本を脱出して、アイルランドに来るように」というメールが何度も届いたりしました。

その後、そのアイルランド人のチームリーダー（Olly）の結婚式に出席のため、アイルランドのダブリンに行ったときは、何人もの面識のない人から「日本は大変だけど、大丈夫か？ 頑張れ」と優しく声をかけられました。国を超えた人と人とのつながりの温かさを感じました。



アイルランドの Olly の新居で

アイルランドの結婚式は、お昼から教会での式から始まり（これが長い）、夕方からのホテルでの

披露宴は、明け方までみんなで飲んで踊って騒ぐ。さらに次の日も新居の庭でバーベキューパーティーをするという式次第で、日本の結婚式しか知らない私には驚くことばかりでした。

さらに、新婚の二人は、日本から参加の私たちに「ホテル代がもったいないから、自分たちの新居に泊まれば良い」と言い置いて新婚旅行に出かけてしまいました。こういう大らかさはアイルランド気質でしょうか。日本人とは違う考え方もありますが、人を思いやる優しさは同じです。おかげで綺麗な新居で快適に過ごしてアイルランドを楽しみました。

その後も、Olly が毎年一回、仕事で日本に来るときには、その時の仲間や日本で働いているアイルランド人も集まって、つながりを深め合っています。

## ○ 怪我が縁での可愛い友人とのつながり

昔の出来事ですが、30歳代後半に、盛岡のスキー場で足を骨折し盛岡市内の病院で手術を受けました。その病院の同室で、車の事故で入院していた中学生の女の子と小学生の男の子姉弟と仲良くなり、明るく人懐っこい二人に、



入院している間中いつも笑わせられていました。遠い地での手術で心細かったのですが、二人のおかげで楽しい入院生活でした。その後ずっと現在まで、家族ぐるみのお付き合いをしています。

その時の可愛い女の子が修学旅行で東京に来たときや、会社の新人研修で上京したときなど必ず声をかけてくれています。大人になって地元で結婚するときも、招かれて夫と盛岡に出かけました。

東日本大震災の時は、住まいが沿岸部でなかったのでみんな無事でしたが不便な生活がしばらく続いていたそうです。そんな中、福島原発の事故で東京の水が汚染されているのをニュースで知ると、この子たち家族が一人2本しか買えないミネラルウォーターを手分けして買い集め、遠くの宅

配受付所まで運んで、私の家(川崎市)へ送ってくれました。東京の知人たちからは、「援助の立場が逆じゃない？」と言われましたが、その気持ちが嬉しくて涙が出ました。

骨折をきっかけに、ちょっとシャイで素朴で優しく人懐っこい盛岡の友人と、こういうつながりができたのは幸運でした。

毎年秋には、盛岡からおいしいリンゴが送られてきます。

## ○ 感動の、ウエストポイント卒業式

一昨年春、ニューヨーク北部ウエストポイントにあるウエストポイント陸軍士官学校の卒業式に夫と一緒に出席しました。



ウエストポイント 卒業式

夫が20年ほど前にニューヨーク勤務しており、その時の秘書だった人から突然連絡があり、「息子(Thomson)が士官学校を卒業する。その卒業式にぜひ出席してほしいと本人が言っている。ぜひご夫婦で来て下さい」という連絡でした。

ニューヨーク勤務当時、夫は単身赴任。私は自分の仕事の都合で日本に残り、季節の良い時だけ遊びに行く方式にしていたので、Thomsonとの詳しい関係も知らず、突然の招待にびっくりしました。

聞いてみると、その頃 Thomson はキンダーガーデン(幼稚園)児でしたが、かなり乱暴で、母親が悩んでいたそうです。子供好きな夫は、「じゃあ会社に連れておいでよ」と言って、何度か社内で遊ばせたり博物館に連れて行ったりしながら、

いろいろなことを教えたようです。

「でも、あの頃のことを覚えていて卒業式に出席して欲しいとは」と夫も驚いていました。

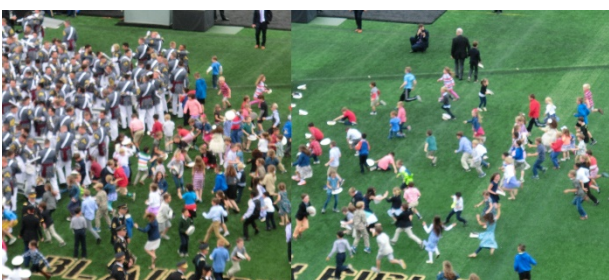
本人からの招待状には、会社で遊んで貰って楽しかった、いろんなことを教えてもらった、それからの生き方の指針になった、大学の卒業を見届けてほしいというようなことが書かれていました。ほんのわずかなきっかけのつながりでしたが、その子なりに 20 年近く温めてくれていたことに感激しつつ、両親と並んで卒業式を参観しました。

ウェストポイント陸軍士官学校は、卒業式で制帽を一斉に投げ上げるハットスが映画のシーンにもなりご存知の方も多いでしょうが、この長い伝統のハットス行事には日本ではあまり知られていないさらなる感動があるのです。



ウエストポイント ハットス

この卒業セレモニーは広大なキャンパス敷地の中にある大きなフットボール競技場で行われます。各種のセレモニーが全て終わって卒業式終了が宣言されるのを合図に一斉のハットス。同時に観衆の中の少年少女が一斉にグラウンドに駆け込み、制帽を捨て、記念に持ち帰ります。いかにもアメリカ的な開かれた卒業式です。



ウエストポイント 帽子を捨てる子供たち

さらに実は、この制帽の中には卒業生が思い思いに書いた子供たちへのメッセージが入っています。捨てた子供たちはこのメッセージを宝物として成長していきます。こういう形で、送る側も受け取る側も全く偶然の組み合わせの中で一人の思いが次世代の一人へつながれて行く。羨ましい伝統です。

それにしても、幼稚園児の頃ほんのちょっと母親の会社で遊んだ時間を大切に覚えていて、その後ずっと連絡も途絶えていたのに、大学卒業にあたって、見届けてほしいという気持ちにとっても感動しました。

その後、Thomson は休暇で 2 度日本に来て、「日本人は穏やかで優しい。日本が大好き」と言ってくれています。

歳月に朽ちることなく地球の裏側から届いていたつながりです。私達夫婦の宝物です。

## ○ 結び

今年で 70 才の古希を迎えました。健康に恵まれて楽しく暮らしています。この原稿を書きながら振り返っていると、現在進行形の楽しいことがいっぱい書ききれません。そしてこの楽しいことは「多くの人との多くのつながりによって与えられているんだ」と、つくづく思います。

そしてこの多くのつながりの殆どは、初めからあったものではなく、たまたまの出会いや偶然のきっかけから生まれた、ある意味奇跡のようなつながりばかりです。

また一方では、奇跡も努力も気づかひもいらず、一度顔を見せ合うだけで当たり前のように何十年来の友という信頼関係が一瞬で出来あがってしまう『同窓』という、時習館を根っことした魔法のようなつながりもあります。

どちらの場合も、ここでご紹介した私の『つながり』は、みんなで長い時間をかけて大切にしてきたので、今では固い絆に育っているものです。これからも、つながりを大切に『人に優しい絆』をたくさん育てていきたいと思っています。

特別投稿



## 時習なごやの絆

田中 定子 (時 10)



### ○ 「時習亭」での世代を超えた交流

名古屋支部には「時習亭」という月例の集まりがあります。始まりは昭和 56 年 11 月からと歴史は古く 30 年余りも脈々と今に続いています。開催は毎月火曜日の夕方からで四世代の年次を組み合わせで当番に当たっています。場所も固定し、幹事の負担を軽くするよう、又参加者も気楽に来られるようにしています。

最初の時習亭は先輩が経営する「庄助」という居酒屋でした。同窓生という気楽さからいつの間にかここになったと聞いています。ここでの開催は長く、お店を閉めるまで 16 年間も続いたそうです。私の同期生 (10 回) もその当時はバリバリの現役で名古屋勤務の男性も多くいたので私もお誘いを受け 2 回程参加した覚えがあります。3 年間の在学中同じクラスになる人は限られていますが、ここで顔なじみが沢山できました。



2008年12月2日  
時習亭  
頤和園で忘年会

その後の時習亭は同窓生の伝手を頼ったりして開催場所も 3 回程変わりましたが、現在は「シルクロード」という中華料理屋で開いています。毎月の参加者は 20 名程ですが、12 月は忘年会とあって 40 名以上集まり大賑わいです。

世代の異なる同窓生の集まりは話題も豊富で、大先輩には戦争も経験された方がいらっしゃいます。在学当時の話題は特に興味深く、その時代時代の学

生生活の様子が想像でき、また若い後輩たちと話していると年齢の差など忘れてしまいます。毎月参加する顔ぶれは変わりますが、長く時習館に奉職された教師に教わった者同士には共通の話題もあり、自分の知らないエピソードなど聞けると思いがけない先生の一面が見えて楽しくなります。私の二人の叔父も豊中の 25 回生と 39 回生です。お名前を忘れてしまいましたが叔父の同級生が在職されていました。



2015年8月4日  
時習亭  
シルクロードにて

### ○ 「トヨの会」で知るふる里

名古屋支部には平成 6 年 11 月に始めた「トヨの会」という“ふる里探訪”をテーマにした旅行があります。三河で生まれ育ち、長じてふる里を離れて生活するようになると、やはり懐かしくなるのは郷里です。知っているようで知らないふる里の歴史や文化、伝統行事、訪れて初めて知る名所・旧跡などふる里を知る楽しい企画です。

思い出深いのは奥三河の「花まつり」で夜を徹して行われる神事です。とりわけ印象に残っているのは勇壮な「炎の祭典」で、豊橋公園内の球場で開催される炎の舞です。手筒花火は東三河伝統のものですが、何人もの男たちが火薬を詰めた 1m 程の竹筒を横脇に抱え、10m 以上に舞いあがる巨大な火柱と火の粉のシャワーを浴びる姿は迫力満点で息を呑むほど美しく神々しくもあります。そして「ハネ」と

呼ばれる最後の爆発音はドーン！とお腹に響き大きな拍手と共に終わります。

そして今や豊橋の風物詩となった催しに夏の「納涼ビール電車」と冬の「おでんしゃ」があります。平成22年1月16日のトヨの会は遠州の「法多山と可睡斎」を初詣で訪れ、夜は待望のおでんしゃに乗りました。ヤマサちくわ特製のおでんにおつまみ弁当付、生ビールは飲み放題です。日没を迎えた豊橋の街並みを眺めながら往復1時間20分の楽しいひとときを過ごします。今や期間限定ではありますが観光の目玉になっているようで、昨年10周年を迎えたということです。これまで度々廃線の危機に遭った路面電車ですが市民の足として欠かせないもので現在も運行しています。



2013年3月17日  
トヨの会  
二川本陣を訪れる

トヨの会も平成25年3月17日に豊橋の「のんほいパーク」と「二川本陣」を訪れたのを最後に今はお休みしています。

### ○ 支部長提案の「東山を歩く会」

名古屋は白い街と言われていますが、東部丘陵地に広大な東山動植物園があります。動物の飼育数は全国一とのこと。一番の人気者はニシローランドゴリラの“シャバーニ”でイケメンゴリラと評判が高く風格もあります。数年前はベビーラッシュで象やライオン、サバンナモンキーなどを一目見ようと来園者が増えました。昨年4月にはコアラの赤ちゃんが生まれ愛称は“こまち”というそうです。

名古屋支部には他にも神野支部長のお声がかかり「東山を歩く会」というのがあります。動物園前で集合し、お目当ての動物を見ながら散策し植物園へと歩きます。バラ園で一服し、咲き始めた花々を眺めながら「桜の回廊」という場所へ向かいます。こ

の一角は100種類1000本の桜が植えられていて、3月中旬から4月下旬まで品種ごとに様々な色の桜が見頃の時期を迎えます。この日の昼食は動物園内の食堂で特製のオムライスを食べるのが楽しみでしたが、数年前から園内の大改修が行われ、残念ながら現在その食堂はありません。



2014年4月6日  
東山を歩く会  
名古屋東山植物園にて

### ○ 関西支部 JKL との親睦

関西支部 JKL の後押しで発足した JNL も早いもので10年目になります。企画した行事は16回になり、当初は女性だけの集まりでしたが平成21年の6回目から男性にも呼びかけ参加して頂いています。お蔭で次の企画のヒントやアドバイスを頂き計画を立てるのに大いに役立っています。10年前は若々しく一番張り切って参加して下さった先輩方も一年一年体力が衰え出かけるのが難しくなり、今後どのような計画をたてたらよいか悩ましいところです。

この10年間JKLの方々と親しくお付き合いができ、双方の行事にも参加し珍しい所や貴重な体験などもさせて頂き本当に嬉しく思っています。折角できたJKLとの絆を大切に今後も交流を続けていきたいと思っています。

### ○ 今後とも“時習なごや”の絆を繋げたい

名古屋支部はこのように色々な行事を通して先輩と後輩の絆を深めています。中断しているトヨの会も再スタートさせたいと皆で話し合っています。

今後は若い後輩達にこれらを引き継ぎ、“時習なごや”の絆を繋げて行って欲しいと願っています。

# 会員便り

固い絆を



会員だより



## 『現代化学史』のその後

～英訳、中国語訳も～



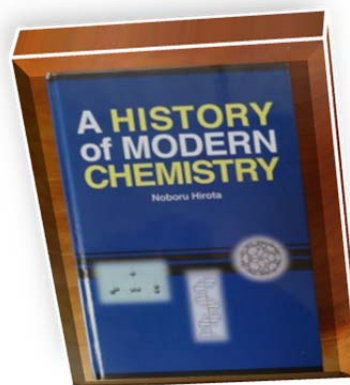
廣田 襄 (時習 7)

2014年の「時習館かんさい」に私は「化学の発展の歴史（化学史）の探求と私」という小文を寄稿し、2013年の10月に京都大学学術出版会から『現代化学史』を出版したことを紹介した。化学史の本は沢山あるけれど、20世紀の後半までの発展を含めて書いた本は世界的にみてもないので、出来ればこの本の英語版を作って世界に向けて発信したいと思った。幸い日本学術振興会の科学研究補助金に、研究成果報告出版の援助というカテゴリーがあり、学術書の翻訳・出版の援助が得られることを知って、2013年の11月に申請した。この申請が通って、2014-2015の2年間で翻訳・出版をすることとなった。翻訳は東京にあるフォルテという会社に請け負って貰ってプロの翻訳者に原稿を作って貰い、それを私が監修するという形で進めた。本の出版は京大出版会とオーストラリアの Trans Pacific Press(TPP) の共同出版で、本はオーストラリアで作成した。こうして2016年の3月に英語版“A History of Modern Chemistry”が出版された。『現代化学史』は国内では好評であったが、海外でどのように受け入れられるかは未知数であった。

2017年の3月にこの本がアメリカの図書館協会の書評誌 “Choice”の書評で高い評価を受けたという知らせが TPP を通じてあった。高い評価の理由は、要約すると次のように書かれていた。化学史の本は多くあるが、現代までの歴史を包括的に取り扱った本は殆どない。この本はその必要性に見事に応えている。英訳は読みやすく、広い範囲がカバーされている。多くの科学者の経歴や主要な発見のエピソードが補足として加えられ

ている。著者が日本人であるから、日本における化学の発展について比較的多く書かれているが、これはマイナスではなくむしろプラスである。全体としてこの本は大変優れた本で強く勧められる。(Overall, this is an excellent book and is strongly recommended) 12月の初めに、この本は2017年度に Choice 誌が書評をした約6000冊の学術書から選ばれた500冊の OAT (Outstanding Academic Titles)の中に入り、さらにエディター達によって選ばれたトップ25冊のお気に入り図書(Top favorite 25 titles)の一冊に選ばれたという知らせを受けた。

また、昨年春ごろに、北京の化学工業出版社から中国語の翻訳書を出版したい意向が伝えられ、9月に正式の翻訳出版の契約が、京大出版会と化学工業出版社の間で交わされた。こうして私の『現代化学史』は世界で読まれることとなった。定年後の楽しみの一つとして始めた化学史の仕事であったが、このような形で国際交流と日本からの情報発信にも多少の貢献ができることとなり、大変嬉しく思っている。



A History of Modern Chemistry

There are many books on the history of chemistry, but few that provide a comprehensive overview of the field up to the modern day. This book admirably fills that need. The work is divided into four sections. The first three cover the development of chemistry through the end of the 19th century, during the first half of the 20th century, and up to the present day. The latter section is more than a fourth of the book, so recent developments are given extensive coverage. A final section includes a discussion of the Nobel Prizes in chemistry and a look into the future of the field. Each section concludes with a useful chronology of events during the period. The translation of the original Japanese text is very readable, and the coverage seems quite comprehensive. The author has included numerous brief biographical sketches of the various scientists, and major discoveries appear as sidebars. As might be expected, the author has included more material about developments in Japan than might be found in a treatment by a Western author, but this is a plus rather than a minus. Overall, this is an excellent book and is strongly recommended.

--H. E. Pence, SUNY College at Oneonta

## Kyoto University Press

## 京都大学出版会よりのレター

The following review appeared in the March 2017 issue of CHOICE. **The review is for your internal use only.** Please review our [Permission and Reprints Guidelines](#) or email [permissions@ala-choice.org](mailto:permissions@ala-choice.org).

京大出版会の永野です。大変お世話になっております。

今朝、『現代化学史』英語版を出版していただいた TPP から連絡があったのですが、同書が米国図書館協会発行の書評誌“Choice”の2017 Outstanding Academic Title (OAT) list の一冊に、さらに top favorite 25 titles に選ばれたとのことでした。

Science & Technology  
Chemistry

54-3234  
QD11  
MARC  
Noboru, Hirota. A history of modern chemistry.  
Trans Pacific Press/Kyoto University Press, 2016.  
788p bibl indexes afp ISBN 9781920901141,  
\$100.00.

6000 タイトルの中からこれだけの評価を受けるとするのは私どもとしても滅多にないことで、1月になって情報がオープンになりましたら大々的に広報させていただこうと楽しみにしております。

rather than a minus. Overall, this is an excellent book and is strongly recommended.

取り急ぎのご連絡にて恐縮ですが、まずはお祝いを申し上げたく、メールをいたしました。

今後とも、どうぞよろしくお願いいいたします。

--H. E. Pence, SUNY College at Oneonta

京大出版会 永野

Summing Up: Highly recommended.  
Lower-division undergraduates and above;  
faculty and professionals.

会員だより



## スリングな我が航海誌 (その2)

南洋航路 (釜山～神戸、名古屋、横浜、川崎～マーシャル諸島共和国 マジュロ (マコロ) ～キリバス共和国 タラワ～赤道～ソロモン諸島 ホニアラ～バヌアツ共和国 ヴィラ～ニューカレドニア ヌメア～フィジー共和国 スバ～トンガ スクアロファ～その3につづく)



成田 一郎 (時習 10)

後期高齢者の回顧談です。

前回は韓国の Crew と南米から西に向かっての不定期船の航海経験を記しましたが、今回は南北方向の定期航路の航海経験(1988年11月～1989年9月)について記します。船名："SOUTH ISLANDER"

### ○ 南太平洋航路 10ヶ月の航海

航路は私の所属の日本郵船(N.Y.K. Line)と Mitsui O.S.K. Lines、豪州の会社と3社共同運航による南太平洋航路(BALIHAI バリハイ航路と呼称)。船は総トン数7,662トンの多目的船(自動車、雑貨、機械類、コンテナ貨物等々何でも運ぶ)、乗組員は日本人と子会社が手配するPhilippine船員、所謂混乗船である。韓国釜山港を出発港として、日本を經由南太平洋の島々を巡る定期航路で、南はTonga、東はTahitiまで往くので乗船希望の多い航路でした。10ヶ月間乗船して3航海、入渠、人命救助、台風、密航者、売船、いろいろハプニングがありました。

### ○ 寄港地を回想

寄港地を回想してみます。

大韓民国 Busan 釜山 35-09'N 129-03'E から航海開始日本諸港へ定期航路の出発港であり、最終帰着港でもある。揚荷終了時が航海の終了となり、次の航海の開始となる。航海回数の変り目は何かと雑用が多いが Philippine crew は Market に家族への土産を買いに行くのが楽しみ、一緒に上陸したときに安売りの運動靴を買ってやったら喜んでいて。マークとデザインは一流ブランドと酷似しているが、耐用期間は非常に短い。親戚縁者が多勢土産を楽し

みにしているので質よりも数となるらしい。

### ○ 釜山を出て神戸へ

釜山を出て神戸へ。

釜山を出航したら休む暇もなく関門海峡、瀬戸内海、来島海峡…。船長としては神戸着岸まで緊張の連続となる。関門海峡は狭くて屈曲部が多く、潮の流向・流速は刻々複雑に変化をする。船舶の交通量が多く、憩流時には多数の漁船が漁に出てくる。水先人が乗って呉れるが非常に緊張する。

門司港駅前の郵船ビル3階に在る西部海難防止協会に2年間出向していたこともあり、その時は海峡の浚渫(しゅんせつ)工事に対する安全対策が保安庁、港湾建設局、学識経験者、船社等を委員として協議され、協議に基づく報告書を何回か作成したが、皆さんそれぞれの思惑主張があつて報告書の作成に苦労したのを思い出しながらの通峡。最初の航海に関門橋の近くを通航のときには代理店のスタッフが日章旗と社旗を振ってくれた。

Philippine crew に、我が N.Y.K.の船に対して子会社のスタッフが敬意を表しているのだと説明したら、船尾で国旗を降ろして答礼しますかと言ってくれたが、本船は Panama 国旗なので答礼せずに通航。関門海峡の東口で内海水先人に引き継がれる。法律的には水先人は船長の補佐で最終責任は船長であるが、日本の水先人は船会社で船長の経験者があるので、船長の負担が少ないようによく協力してくれる。(現在は規則が変わって、船長の経験がなくても、芦屋の海技大学校で教育や水先区での実習後、国家試験合格によって水先人となっている人も大勢いる。海技大学校で、水先人コースの開始時に授業と操船

シミュレータ実習を担当させられたが、学校内での教育指針や教材の準備が整わず、やむなく過去の国家試験問題を整理して傾向と対策で対応したが合格率は期待以上であった。）

## ○ 神戸、名古屋、横浜、川崎

神戸。乗組員にとって上陸を楽しむ港町であり、医療を希望する者はここで受診させることが多い。Crew と上陸した機会に中古のギターを2基買ってやったら、暇なときには賑やかに楽しんでいた。1基は3rd officer が手放さず、芸能部長を務めていた。勤務態度が優秀だったので下船時に国へ持って帰れとプレゼントした。

名古屋を経て、横浜、川崎。川崎では、岸壁から市街までは遠かったが、「東京本社まで行くが、川崎駅まで行きたい者は連れて行く、但し帰りは駅前のバス乗り場を教えるから迷わないように帰船せよ」として上陸希望者を募ったら5名ほどあり。川崎駅に着いて別れようとしたら、「船長が戻って来るころ、ここで待っている、何時頃か？」と言い出す。最終のバスで帰ればよかろうと考えていたが、彼等には当直があるので夜遅くまで待たすことはできない。本社まで連れて行くこととした。本社（郵船ビル）は東京駅前丸の内、ここで社屋が15階建てでビックリ、以前勤務していた13階の海務部へ連れて行き、副部長にCrewに一言をと頼み、握手。続いてビル内にある子会社（船の管理と彼等の配乗手配をしている）を訪れ、本船のパフォーマンスが優秀とコーヒーをご馳走になる。N.Y.K.と管理会社の幹部に会えて感激した様子。ついでに窓から皇居を見せたらこれまた大喜び、素直に感情を表す。こちらもつついづい気を大きくして、売店へ連れて行き「欲しいものがあれば、買ってやる」と言ったら、社章のついたスプーンが欲しいとのこと。売店のおばさんは顔見知りだったので、不要になったカレンダーが沢山あったのでこれを頂戴。月日に関係なく会社の船が写っているカレンダーは特に人気。

最後にビル玄関にある客船Crystal Harmony（現在は日本籍の客船飛鳥IIに改名して運航している）

模型の前で写真を撮って、仕事は簡単に済ませ帰船することとした。川崎駅に着いたが折角の上陸の機会であるので、お好み焼きを食べに連れて行く。気に入ったようで材料を買って船でも食べたいと言い出す。「食材は船に在るから買わなくてよい」と答えてパチンコ屋へ連れて行く。経験がないのでレバーのコントロールが儘ならず100円渡してもアツという間になくなってしまふ。月給の1日分を遣ってしまったが彼等の喜んでる表情を見ればマァーOKだ。

## ○ 東京湾を出たら一路南下

日本最終港は横浜または川崎。

東京湾を出たら一路南下、このコースは行き会う貨物船は少ないが漁船には注意が必要だ。出航翌日は防火操練、ボート操練、安全器具等の点検、新乗船者が多い場合は名前を覚えるに苦労する。どれが名字か名前かわかりにくいヤツもいるし、〇〇Jr.というハイカラな名前もいる。海が荒れているときはボートの操作には非常に緊張するがPhilippine crewは訓練に非常に真面目で感心させられることが多い。

緊張の後の夕食は新乗船者のWelcome party、焼き肉・すき焼き・お好み焼・焼きそばと飲み物、カラオケ、最後は賑やかに踊っている。飲酒運転は厳禁なのでPartyの途中で船橋に上がり、当直者をpartyに参加させる。自分はMidnight過ぎまで船橋当直をすることになる。新米のcrewにMCを、と言うと実に旨くやる。カラオケでも日本人が躊躇しているとMC自身が日本の歌を上手に歌って場が白けないように保っている。

## ○ マーシャル諸島共和国 マジュロ（マユロ）

Republic of the Marshall Islands マーシャル諸島共和国

Majuro マジュロ（マユロ）7-05'N 171-07'E

マーシャル諸島共和国の首都。

環礁を多くの橋で繋いでリングの形をしている。環礁の内側は穏やかな水面であるが、珊瑚礁付近は

流れがあり、夜間は環礁に接近するのは危険だが日中の珊瑚礁の景観を観ると南洋の島に来たと実感できる。真っ青な海と白浜、椰子の木の景観はこの航路の忘れられない記憶として残る。

## ○ キリバス共和国 タラワ

Republic of Kiribati キリバス共和国

Tarawa タラワ 1-30'N 173-00'E

Kiribati の国土は赤道に近く多数の環礁で構成されている。その結果領土は狭いが排他的経済水域は世界有数の広さを持つ。標高の低い珊瑚礁のため台風がきたら一大事。若者が、大切なものは椰子の木に括り付けて他所の島に避難すると言っていたが、まんざら嘘ではないようだ。温暖化で海面が上昇すると国土が消滅するとも言われている。本船は沖に錨泊してボートで上陸した。太平洋戦争当時、日米の激戦地の一つとしても有名で海岸には日本軍の大砲が残っていた。

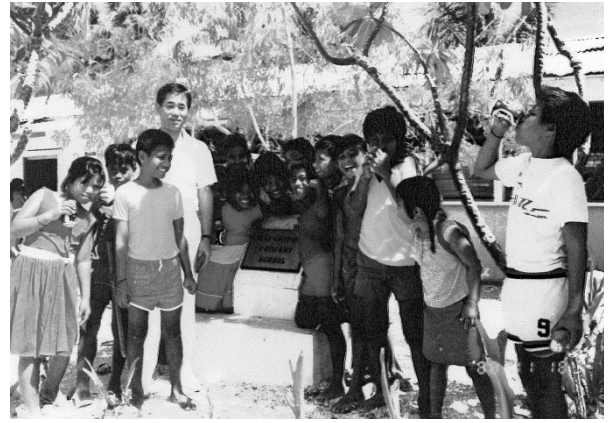


海岸に残る日本軍の残留品  
(Tarawa は日米最初の白戦地)

子供達は人なつこく、海岸に行ったら写真を撮ってくれとポーズをとる。DAINIPPON PRIMARY SCHOOL (大日本小学校) の校門前を通ったら生徒が大勢出てきた。先生も止めることなく見守っていた。みんな大らかで日本のようなはずかしめはなさそう。



海岸で遊ぶ子供達  
今は結婚して中年肥りしているかな？



大日本小学校の生徒  
(白服の人物は本船の事務長)

## ○ 赤道-----

Tarawa を出て南下し赤道を通過、客はいないので赤道祭りはなし、赤道通過時刻を船内アナウンスするのみ。酒好きの者が夕食時に赤道通過カンパイと楽しむ程度。

## ○ ソロモン諸島 ホニアラ

Solomon Islands ソロモン諸島

Honiara ホニアラ 9-26'S 159-57'E

季節が出航時と反対となり南半球に来たと実感する。

先に岸壁に着いていたロシアの客船が岸壁を離れたが近くに錨を入れて動かない。こちらは水先人が来ないので錨を入れて待つ。後で判ったが、客船の客が戻って来ないのでそれを待っていたとのこと。客船の乗客は Deck でのんびり遊んでいる。我々はスケジュールに遅れないかとイライラ、日本人はセッカチかな？

Honiara 港が在る Guadalcanal (ガダルカナル) 島は多くの日本軍兵士が補給路を断たれ、密林の中で暑さと飢えで命を絶った島で飢(ガ)島とも言われたとか。この熱気と湿度では衣食が十分あってもジャングルには入りたくない。現在は海岸に沿って立派な道路が構築され都市化が進んでいる。日本食のレストランもあるようだ。

○ バヌアツ共和国 ヴィラ

Republic of Banuatu バヌアツ共和国

寄港地は Santo サント、Port Vila ヴィラ 17-44'S  
168-17'E

Vila は Banuatu の首都、代理店に Philippine から  
の従業員がいたので、乗組員を家へ招いてくれた。



代理店員の家庭に招かれて  
(台湾漁船のフィリピン船員救済が縁で  
乗組員が訪問するようになった。  
左は A/S、右は通信長)

夜には付近の若者が船でダンスを楽しんでいるこ  
ともある。Crew 4 人と海岸へ遊びに行った帰り道に  
Sailor が駆けてくる。

台湾の漁船から Philippine 船員が脱走して我々の  
船内に入ってしまったとのこと。



フィリピン船員は近くの磯で海水浴  
(海岸近くに行った間に台湾漁船のフィ  
リピン船員が脱船して救済を求めてきた)

台湾とは国交がないので引き渡し先がないと大事  
になる。漁が不漁続きで給料を呉れないし食事も生  
魚を食べているとのこと。兎に角船外へ出さなくて  
はならず、税関関係の職員が来船したので引き渡し、  
事後処理を依頼した。脱船者は行先が無くて泣く泣  
く台湾の船に戻ったそうだ、その後無事に働けたの  
か心配したが幸運を祈るのみ.....。

ここでは牛肉が格安で買える。免税価格で豪州の  
ほぼ半値である。出航後は特大のステーキが出る。  
土産に買い過ぎて家の冷蔵庫はイッパイ、入らぬ分  
を親戚に配って何とか腐らせずに消費した。椰子の  
林に放牧して育てるのであまり費用がかからないら  
しい。



冷凍牛肉を container へ  
(日本向け冷凍牛肉積荷  
山道をトラックで運んで来る)

港の近くは静かで、岸壁近くからは主婦がボート  
でのんびりと買物に出て行った。高齢化、過疎化に  
悩む日本の山村とは対照的な生活である。



岸壁近くの小島からボートで買物に出か  
ける主婦



接岸荷役中の“SOUTH ISLANDER”  
(接岸荷役中積荷役はゆっくりと、その間に上陸、散歩)

なければならないことになる。そのような事態にならないように寄港先の代理店から積荷の情報を得ておくことが大切で、代理店のスタッフの能力が運航採算に影響する。当港を出航して Pilot 嚮導（きょうどう）のもとにレジヤのボートやヨットが沢山いる中を低速力で航行することがある。Crew が Bridge の Wing から呼びかけると手を振って応えて呉れる。観光客が多いのだろうがボートの中のお嬢さん方には超ビキニで大胆な姿で寝そべっている者や、Sexy なポーズで応えてくるのもいる。開放感を満喫している様子。

## ○ ニューカレドニア ヌメア

New Caledonia ニューカレドニア:天国に一番近い島

Noumea ヌメア 22-16.6S 166-27.5E

New Caledonia の首都で観光客が大勢来ている。日本からの新婚 couple も多い。



地中海クラブのホテル  
(日本人の新婚旅行者をよく見かける)



市街中心部の公園  
(樹木は日本にない光景)

すれすれにすれ違うボートから賑やかな声が聞こえてくると舵取りの者も落ち着かない。号令を聞き違えて舵をとりそこなったら大変なことになる。船長も忙しい。前を見張り、舵取りに注意、そしてピチピチギヤルにも.....

Pilot が下船して、珊瑚礁の外は真っ青な海、これからは船内が帰国ムード、「釜山港に帰れ」である。帰路は Home speed と言って何か speed が上がるという言葉があるが燃料節約のためスケジュール維持のための speed 以上は出さない。

大都会ではないので、土産物屋をハシゴしていると何回も同じ日本人に行き会うことがある。他船で北岸の Tio でニッケル原鉱を満載、日本へ輸送したこともある。

New Caledonia はニッケル産出国で、ここでそのインゴットを積むことがある。下の方に積みば船の安定には非常に効果的であるが、先の寄港地で他の貨物を積んでしまっているとその貨物をシフトしな

北半球に入って航海の日が続き機関室内の Control room に行くと、そこで coffee とおやつを出してくれる。愛想よく Captain! と話しかけてくる。スケジュールに余裕があったら engine の整備作業をしたいのだ。通常の船務の範囲以外の作業には特別に手当が出る。この手当は家族に知られないので自由に遣える小遣いになる。整備技術の技能がどの

程度か判らないので、機関長の意向を聞いて余程の必要性がない限り Extra work はしないように心がけている。

## ○ 台風襲来

Noumea では強烈な台風の襲来に遭遇したことがある。

我々が繫留していた対面の岸壁に大型の鉱石専用船が積荷のために着岸していた。

深夜になって猛烈な風となり、Engine を Standby にして前方からの強風になんとか耐えていたが、対面の鉱石運搬船の係留索が切断。1本切れると次々と他の rope も耐えられずに切れ出す。岸壁から離れてしまった船は錨を入れて流れるのを防いでいるが、ジワジワと本船の方に流されて来る。本船は香港の船主に売却の予定があったので、係留索も古いものを繋いでつないで使っているものがある。乗船の時、2本は替える必要があると感じたが、管理を子会社がやっているの、親会社の船長はなるべく要望事項を控えてほしいと言われ、1本だけ新品を補充しておいた。結果的にはこの新品の rope があって助かった。この風ではこちらが離岸することは不可能だ。

こちらに流されて来る船は engine を使って風に耐えている。夜明け頃に風力が弱まり始め、朝方船首方向から風を受ける状態で夜明けとともに風が収まりはじめ危機をした。巨大な空船を強風の中で操船していた船長は相当なベテランだと敬服した。

## ○ 緊急漏油阻止

緊急漏油阻止。

Noumea 停泊中、午後の Tea time 間近で一部の者は部屋で着替えをしたり食堂に集まる時間であった。突然船内放送で「Emergency case, Oil leak on poop deck !」 repeat ……

「緊急事態、船尾デッキで油漏れ！」繰り返す……とあり、綺麗な海を売り物にしている観光地で油濁汚染となれば一大事。現場に駆けつけると既に Philippine crew が油濁防止の資材を搬出し、オガク

ズやウエスで船外への漏出を食い止めていた。繫留用のウィンチを修理中に油が流れ出たということであった。Philippine crew は cook まで全員が飛び出して作業をしているというのに、Japan crew は「船長、何かあったのですか？」と遅れて現場に出てきた。普段の仕事は何とか意思の疎通が可能であるが、緊急時の communication の難しさを知らされた。船内の放送は船長の許可なしにはできないが、正午には船橋にいる者に必要な船内放送を若い船員にやらせていた。船内の時計の前後進についてのアナウンス等は日本語・英語両方で旨く放送している。適切な判断で緊急アナウンスをした 2nd engineer は普段は静かな男だが、よくやったと思う。Noumea で Christmas の main table に出た大魚をつり上げたのも彼だ。

## ○ フィジー共和国 スバ

Republic of Fiji フィジー共和国

Suva スバ 18-07'S 178-28'E

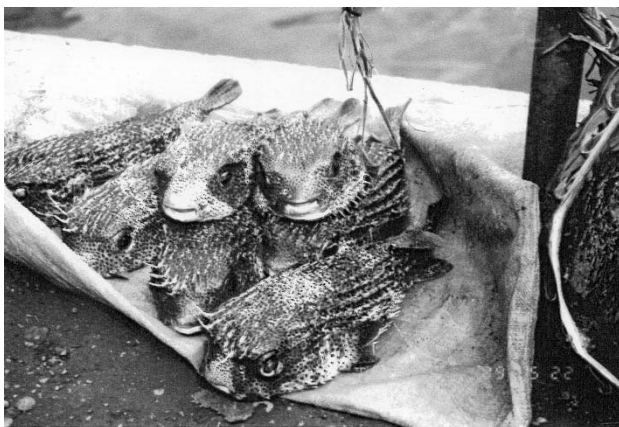
ここは観光地としても有名で大型の客船が多数入港する。港の入口が狭く両側から珊瑚礁が張り出している。珊瑚礁の狭い切れ目を通して港に入るが、水が綺麗で Wing から下を観ると珊瑚礁が見えて座礁しないかとストレスを感じる、夜間は水先人が乗船せず日中のみ入港できる。



港近くの土産物 Market  
(言われた値段の 1/3 位が妥当な値段)

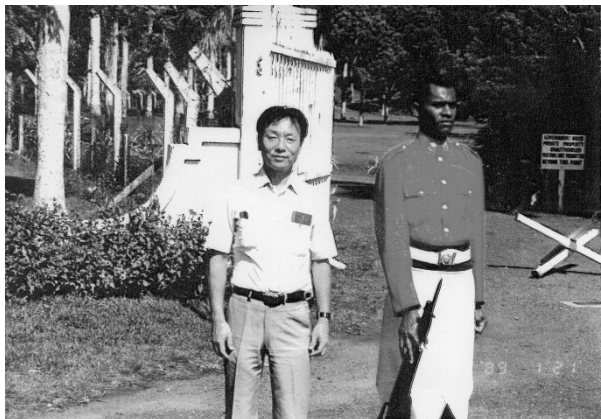
Suva は観光 Shopping にも楽しみな港である。港

の近くに market があるので食糧を仕入れに行く。代理店を通じて購入できるが費用節約のため Phillipine の cook を連れて行き好みのものを購入させる。買ったものは cook がタクシーに乗せて船まで運び手空きの crew で船内に運び込むこの時にコンビーフが欲しい、魚が食いたいとか、卵が少ない、焼き肉パーティーの肉はあるか? とかの話がでる。食糧金の残りをチェックして追加の品を買いに行かせる。食事が不味いと言わせないためには彼等自身に買わせるのが得策である。気候が Phillipine に似ているためか果物は良い品を見つけて安く買ってくる。



路上で売っている魚

日本人が尾頭付の小さい魚を食べているのを見て、口に入らない部分が多い魚を食っていると言う。彼等は大きな魚をぶっ切りにして煮込んでいる。市場では常温のところにおいて売っているので、煮て食べるのが無難である。食糧の補充が終われば船長は一段落、暑い街を見物に、大統領官邸前では門衛が炎天下直立不動で立っている。



大統領官邸前の門衛兵  
(炎天下で直立不動!)

## ○ トンガ ヌクアロファ

The Kingdom of Tonga トンガ

Nukualofa ヌクアロファ 21-07'S 175-12'W

この定期航路では最も南の寄港地である。緯度 21° 北半球で言えば日本領の最南端"沖の鳥島"に相当する(東京都小笠原村)。季節は日本と反対になり、日本の冬季には Tonga から輸入されるキーウィーが多いらしい。散歩していたら道路の除草作業をしている女学生から「コンニチハ」と声をかけられた。



道路の除草作業中の女学生  
(「コンニチハ」と話しかけてきた)

定期的に入港するので日本の乗組員と判った様子である。海岸近くでは豚がウロウロ、引潮になると海岸で貝を漁り、潮が満ちて来ると自分で畜舎に戻るそうだ。



海岸で貝を漁る豚  
(潮が満ちて来ると自分で畜舎に戻る)

宮殿の近くに蝙蝠が沢山停まっている木あり、この木の蝙蝠は王様以外は食べてはいけないとのこと、

この木の蝙蝠は植物性の餌を摂っているので癖がなく美味とのこと（美味と知られているということは、捕まえて食った輩がいるということだ）。



蝙蝠の群れ

（この木の蝙蝠は国王のみが食用にできる。植物性の餌をとっているため癖がなく美味とのこと）

Captain James Cook が上陸した場所に行ってきました。



Captain James Cook の上陸地点



南側海岸

（岩盤の隙間から波が吹き上げる、音もすごい）

草に囲まれた海岸で何故ここを選んで上陸したのか判らない。Taxiで島の南側に行ってみたがこちらは北側とは対照的に岩盤に打ち付ける大きなウネリが岩の隙間から豪音あげて吹き上げる壮大な景観である。観光でNukualofaを訪れる機会があったら一見の価値がある。

港の近くで中学生くらいの女生徒が近寄って来て流暢な英語で話しかけてきた。どうしてそんなに上手に話せるのか？と聞くと、学校で習っているからだと言う。日本の高校生でもそれほど旨く話せないと感じた。この生徒にクリスマスカードを送ったら綺麗な英語で礼状が届いた。英語らしい表現は彼女の方が上手である。



英語を流暢に話す中学生  
（綺麗な英文で手紙をくれた）

○ 次号の予告

次号はサモアの日付変更線にまつわるお話から始まります。 ～次号に続く～



この複雑な日付変更線の説明は次号にて

会員だより



同窓会考古学

菅原 民生（時習 10）



○ 私の経歴

学歴 京都大学理学部物理学科、同大学院理学研究科数学専攻

職歴 山口大学文理学部と九州大学理学部で数学の研究、  
奈良教育大学と長崎大学教育学部で数学教育と教員養成、

退職後 JICA 専門家（パプアニューギニア国）で  
数学教育支援、

現在ボランティアで日本語教育

ふるさと蒲郡は鉄道唱歌にも「東海道にて勝れたる、海の眺めは蒲郡」と詠われているほどの、熱海に次ぐ新婚旅行のメッカだった程で、当時もなお白砂青松は残っていました。



蒲郡の砂浜

○ ドイツ語の新聞

同窓会で 50 年ぶりに会った友人から「お前、ドイツ語の新聞で弁当包んできたことがあっただろう」と話し掛けられて、すっかり忘れていた昔の記憶がありありと蘇ってきました。そうです。あのころ無性に外国人や外国語にあこがれて、ラジオ講座の英語会話のついでにドイツ語やフランス語も聞いていたのでした。

ある日新聞に、ドイツからの一行が泊まるという記事があったので、朝の散歩の時間を見計らって海岸で待ち受けていて、見事会うことができました。

「グーテンモルゲン、イッヒレルネドイチュ・・・」  
でもそれ以上会話の進まない相手を持て余したのでしょうか、手にしていた新聞をくれました。それを押し頂いて、弁当を包んで学校へ持って行ったというわけです。



ドイツ語の新聞

○ 頭出しが大切だ

定年を迎え、時間に余裕ができると、昔やりたかったことで、忙しくてできなかった事は何だったかなと振り返ります。もう一度外国語の勉強を始めてみようか。ドイツ語とフランス語は何とかなりそうです。45 歳から始めた中国語も細々と続いています。大学の教養で 3 カ月だけかじったロシア語は、感心

な事にキリル文字と発音はちゃんと思ひ出すことが  
 できました。「自転車と水泳は、一度覚えたら一生忘  
 れない」と言われますが、外国語の文字と発音も似  
 たところがあって、若い時に身につけておくと、年  
 を取ってからでも再開することができます。私の場  
 合、ハングルだけは全く近寄らなかったのですが、文法  
 的には最も日本語に近いと言われながら、今から慌  
 ててもどうしても身につけません。



ロシア語の筆記体

外国語は、若い時に1年でいいから「頭出し」を  
 しておくと、あとでゆっくり続きを勉強することが  
 できます。

### ○ インド・ヨーロッパ語族

あと数年で定年と言うとき、中国からの留学生で  
 日本語教師になった人が、私に日本語を教える手ほ  
 どきをしてくれました。

これまでひたすら外国語にあこがれていたわけ  
 ですが、日本語を教えるとなれば、自分は母語話者（ネ  
 イティブ・スピーカー）です。これは大きな発想の  
 転換でした。

英語のできないネパール人を教えていて、コミュ  
 ニケーションの取りようがなくて途方に暮れていた  
 とき、インド人も一緒に教えることになったら、そ  
 の二人が話し合っている事に気が付きました。ネパ  
 ール人のネパール語とインド人のヒンディー語は、  
 共通の文字（デーバナーガリー文字）を使い、発音  
 もほぼ共通なので、相互乗り入れができるのです。  
 さらに1から10までの数え方を比べたら、子音の  
 使い方にフランス語と共通性がありました。



インドのヒンディー語

### शब्द चयन

## hiroshima bhanda gahāi putali hoki?

ネパール語

話に聞くだけで実態を全く知らなかったインド・  
 ヨーロッパ語族（印欧語族）という言葉が、具体的  
 な形で目の前に姿を現した瞬間でした。

### ○ タイムカプセルは友の記憶の中に

日本はかつて経験した事のない高齢化社会を迎え  
 ています。このことは、定年後の人生がとても長く、  
 この時間をいかに健康的に豊かに過ごすかが問われ  
 ています。ここで大活躍するのが同窓会のネットワ  
 ークです。皆さん、今は忙しくてそれどころではな  
 いかも知れませんが、人生を走り終えたと思ったと  
 き、そこには思いがけない豊かな可能性があります。  
 タイムカプセルは運動場の桜の木の下に埋めるもの  
 ではなく、友達の記憶の中に埋めるものだと思います。  
 ただしかしやっかいなことに、意識して埋める  
 わけではないので、意識して掘り出すわけでもない。  
 偶然に見つかるものです。

同窓会考古学と言う意味、お分かりになりました  
 でしょうか？

会員だより

詩曲「祖国の土」と詩文集「空に 風に 樹に」  
のできた頃は

～大学進学での親子の確執を振り返って～

伊藤 昭 (時習 13)



続 豊橋空襲体験記より



空襲後の札木町付近 (札木通りから額ビルを望む)  
(豊橋市戦災復興誌より)

「豊橋空襲を語り継ぐ会」より出版

編集委員

- 天野真智子
- 紅林 健一
- 安間 慎
- 水藤 典子
- 田中 学
- 長坂すぎ子

詩曲「祖国の土」が  
生まれたのは

伊藤 昭

- 一 祖国の土をなめてみよ 平和と希望の味がする  
たとえ戦争に敗れても 心の太陽失わず  
平和の基を築くべし
- 二 祖国の土をかいでみよ 若い血潮と力とが  
胸の底までしみとおる  
アジアの孤児とて言われても  
きつと建つたら わが祖国
- 三 祖国の土に立つてみよ みどり溢れる野と山と  
青さたたえる海や川 正義と寛容の心あれ  
不戦の決意沸かざるや

この詩は、はるか古い話になるが、僕が中部中学校三年生の時に校内合唱コンクールで発表したものである。最優秀賞をいただいたが、そのコンクール自体も一回かぎりであったことでもあり、僕自身が高校、大学受験戦争のさなかで苦闘したこともあり、そのまま捨て置いたままであった。

そうそう、当時僕は三才であり、両親と兄弟姉妹四人(末っ子の弟はまだ母のお腹の中)で豊橋市のど真ん中の札木町に住んでいた。ここは陸軍十八連隊の駐屯地に近く、不幸にもアメリカ空軍の空襲を受けたのである。母から聞いた話であるが、空から焼夷弾が糸を引くように光とともに住宅街になだれ落ちてきて、一面焼け野原と化して豊川畔の乞食島に揚々のことで逃げ集まったそうだ(長女の姉は一時迷い行方不明ともなった)。

しかし、お腹に弟を抱えた母が一番大変だったことは間違いない。粟や稗を食べた命からがらの生活が続いた。終戦となって逃げ帰るようになって元の札木町に一番早く帰って来たのは僕の一家であったし、それからもバラック建ての小屋で何も食べるものもない生活が延々と続いたのである。

そんな思いをぶつけた。美しい詩ができた。曲もできた。鈴木一貫先生や古山保夫先生にはお世話になった。この詩曲が残った僕の戦後間もない学童時代の精神は憲法九条の平和主義に続いている。

この文章は数年前に豊橋大空襲を記念して豊橋大空襲を語り継ぐ会に寄稿して小雑誌採用された体験記からの抜粋文章である。書かれているように私の中部中学校三年当時の作品である。

この詩に曲をつけたものが当中学校での合唱コンクールで第一位という成績をおさめた。これをきっかけにして僕は文学志望（特に詩作）となった。

しかし、その後一年遅れて時習館高校に入学してからは大学を忘れて受験勉強に精を出し、自宅浪人生活一年（しかも図書館での勉強中心—自宅は社交ダンス教育所で受験勉強には不向きな騒々しい環境であった）で、なんとか京都大学法学部に入学した。

この時の受験大学の決定過程の父と僕の確執は志望校ではなく、志望学部選択にあった。僕は夏を利用して親友の井上敏男君の下宿に泊めてもらい東大コンテスト（模試）を受験した。当時東大コンテストで1000番以内なら“東大合格間違いなし”と言われていたのに60番台だった。苦手の数学がいい成績だったのだ。本人が一番びっくり。これで第一志望の東大文Ⅲ（文学部）も父の了解をとれると楽観した。

しかしながら、父の法学部への愛着は若い頃の法律事務所での丁稚奉公の経験、隣家との境界争いで弁護士であり代議士の上村先生と法廷で争い実質勝訴した父は「法学部でなくてはやらない」一辺倒の反対。これには対抗できず、京都大学法学部を受験し、合格した。

その後、京大一年早々の農学部グランドでの体育時間にサッカーボールの頭部強打等あり、網膜剥離で宇治寮から京大病院に入院、手術、一年休学。

翌年からは六法全書が読めない法学生として卒業を目指して勉強した。次第に視力は戻り、これまた、なんとか中小企業金融公庫（現日本政策金融公庫）に職を得た。大阪府庁は辞退した。

公庫時代は仕事の悩みはほとんどなく、貸し付け予算枠は完全消化、いや他班の未消化分を自班枠以上消化してしまうことが多かった。総括班の使命を十分果たしてきた。しかし、次第に現場中心よりも本部中心へと仕事が偏りを見せて顧客の要望から離れてしまう営業姿勢が露骨となり筋違いのサービスでの対応が見られるようなケースが散見され公庫を

離れ経営コンサルタントとして独立した。愛知県内の企業五社の経営改善、上場準備に協力し、うち二社が上場した。仕事は順調だ。だが65歳で妻の承諾を得て引退。これまでを振り返り、受験の失敗、病気と休学など悔やむことがあったが、仕事をしながら大学院の修了（名古屋大学大学院法学研究科、名古屋市立大学大学院経済学研究科修了）、論文・本の作成（『自立型経営コンサルタントの実践指導ノート』—第七回日本自費出版賞受賞、『地域経済と中小企業金融』—商工総合研究所主催「平成二年度中小企業章論文」入賞が成果としてあった。ただ、個人的には亡き父に対して密かに贈呈した詩文集『空に 風に 樹に』がある。

この詩文集は、文学を諦めた後も一人趣味として学生、社会人時代を通じて書き綴ってきたものを逝った父に文学を捨てる悔しさを知って欲しいなあと一冊にまとめ上げた文集です。「祖国の土」に続く僕の文学作品であり、初めて公開するものである。

簡単に、目次と内容の概略を記念して追加して書き置かしていただきたい。

なお、現在、「上高地旅情」という詩文集を、ゆっくりと山から教わったことを書き綴っている。また機会があれば、本文そのままお届けしたいと思っている。上高地は幾度も入山した。美しく歌い上げた作品がなく、残念に思い、人との思い出を込めて書いてゆくつもりである。

### 詩文集の目次

はじめに

第一章 空に 風に、樹に（詩と文）  
・山からのたより  
・詩を並べてみると

第二章 雪との対話（詩と文）

第三章 なくなった空色のパステル（童話）

第四章 遠く、山なみが—（山岳紀行文）

第五章 もっと、光を！  
—「悲しみの病棟から」など（短歌）

おわりに

# 詩文集の内容紹介

## 夏のひととき

今なら、思いきって  
 忘れることができるだろう  
 一度は、儀礼的なほほえみを  
 すっかり信じ込んでしまったが  
 何かしら、落ち着き込んだ自分には  
 あまりに、まばゆいほほえみに  
 受け応えることができなくて  
 その貴い贈物に  
 心をこめて  
 訣別しよう

夏の日には  
 物悲しいひとときも  
 きっと、強い陽の光と  
 濃い緑に彩られて  
 心を動かさずに  
 過ぎていってくれるだろう

さやなるひとみと  
 愛らしいほほえみに  
 青草の香しい思いで応えられる日  
 いくたびかも  
 君を思い出そう

## ひとよ

ひとよ  
 僕を遠くあらしめたひとよ  
 草原に、心地よいほど  
 秋が深まっていって  
 みどりいろの僕の心から

癒しがたい思いが消えていったなら  
 ひとよ  
 もの思わぬこの山の旅  
 語りかけだけを待つこの草原の旅  
 きみの残したたったひとことの意味を置いて  
 また、街にもどっていけるだろう

## 林の道

煙ったような午後  
 落葉松の林の道は  
 淡いそよぎをみせる笹原の中を  
 美しく、絹糸のように  
 細く、遠く、続いている——

秋はすこしおそく  
 空に、いささかの雲もなく  
 はらかな山なみの雪のすがたは  
 うすいもやの中に  
 いつもの夢のかけらと  
 忘失の憂いに誘う

足どりはいつになく規則正しく  
 なにか心の中に反芻しながら  
 それでいて、思い出すものはなく  
 今、わずかな太陽のあたたかさは  
 この道いっぱい  
 僕を導いてくれる  
 たどり着くのは、いつも決まって  
 あの日の、あの言葉と、わかっているのに

## ふりかえってみれば

だまって、うつむいて  
 消えんばかりの雪みちを  
 僕は、終わりの秋の



### 作品ができるまで

一年間の自宅浪人生活(図書館での勉強と増進会の添削を活用した浪人生活)後京都大学法学部に入學した。しかし、5月の連休に豊橋で眼の異常に気づき、京大病院で診断を受け、入院。「網膜剥離」という病氣。宇治寮でのキャッチボール中に崖から落下したこと、農学部での体育の授業で後ろからサッカー・ボールを頭に強打されたこと。そのくらいしか原因として思い当たるだけで、眼の酷事もあったのかもしれないし、宇治寮からの電車・バス通学という初めての経験に疲れていたこともあったのだろう。とにかくショックだった。とにかく2回の手術の後自宅療養、そして休学。この作品は京大病院中のベッドの上で生まれたものがほとんどである。眼には包帯がまかれて、砂袋で頭を固定された絶対安静の状態。姉の文字が付き添ってくれた。メモ用紙を用意してくれたのも姉である。頭は禿げ上がり、背中汗疹だらけで一人では歩行困難の状態退院した。自宅では物干し台で星ばかり見て過ごした。眼は使わずに、眼に良いと信じて。失明の危機の中で眼を労わりながらの勉学生活で、よく京大を卒業できたものだとも今でも思う。

短しと 人には秘めて 知り置きし 弱りし魂の いとほしきかな  
 みなひとの 冷たく語る ことのはを 生きる涙と 聞きし日ありし  
 眼を病みて 見えぬ世界に あこがれぬ よごれしものと すでに知りしが  
 生きて後 同じわれにてあらまほし 願う心に 知るは世の常  
 いとほしや たえだえ流る わが涙 いつかは潤る ものとし思えば  
 新しき 朝の来るを喜びぬ いたづくまなこ 持ちてありしも  
 遠くいて われを語りし 人憎くし 静かに耐えん 身を思うとき  
 憂き世には われ一人あれ 在りし日に この世厭いて 泣きし我でも  
 ひたぶるに ひんがしの空 恋しかり かわらぬ故郷のあると思えば  
 ひさびさに 冷たき空を 眼に感ず やみし眼の いえはじむめり  
 遅くると 思うことだになかりしに 友の訪う日 心わびけり  
 いつにかは みまかるものと思えども その期になれば 惜しく思わん  
 苦しみは われひとりには あらねども 寂しかりけり 経ふる二十年  
 ちちははに 嘆き事のみ 与えられ のちの世にてぞ 恩に報わん

会員だより



73歳の青春  
～「忘れる」ことを減らしたい～

吉田 久善 (時習 15)



○今年の抱負

新年最初の「時習さろん」の話題は「今年の抱負」であった。

「老人」の領域に入った私には「〇〇に挑戦」というよりも、目下、片時も頭から離れないテーマが、難敵「忘れる」

「忘れた」を減らす（「無くす」は、高望み）闘いである。

○ その日やることメモ

近ごろの〇〇忘れ（〇〇には 片付け、置き、閉め、消し、一度話したなどなど）が右肩上がり。

そこで、平成 29 年夏ごろから始めたのが「その日やることメモ」。

夜寝る前に、次の日にやることを小さなメモ用紙に書いて枕元に置き、起床すれば目に入るようにする。

その第一項は「ゴミ出しの種類（普通、ビン・缶、プラスチックなど）」

であり、これにより「そうか、今日は◎曜日なんだ」と確認。

その他「買い物ではパン、牛乳も」「誰かへの連絡」など。

昼頃までに読み返して破棄すれば「予習復習」の効果を感じる。

○「73歳の自分にあてて」

前記、「その日やることメモ」から思いつき、以下 3 本の柱からなる「年間メモ」を太字で書いて目立つところに置いている。

①大河ドラマ「西郷どん」の言葉

「おのれを愛するは 善からぬことの 第一なり」

（この場合の「おのれを愛する」とは、「自分さえ良ければいい」という自己中心的な考えのこと）

②豊橋ハーフマラソンのイベントで講演された増田明美さんの話の中で、



走る

○背骨を まっすぐに

○目先は 前方 50m

○腕は 後ろに振る

○着地は かかと から

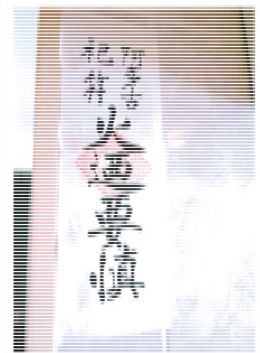
特に自分に指摘されたように感じ、日常のジョギングで心がけている。

③1月下旬に我が「航空人ハイキング部」は京都市愛宕山頂（890m）にアイゼンを付けて登り、神社で「火の用心」のお札を納め、授かるを新春恒例としている。

今年初参加の京都在住の若手メンバーがお札を4枚買うのを見て「ご近所に頼まれた？」と聞いたところ彼は「京都の実家では火の要慎札を出入り口など4～5か所に張る」なんと一軒の家に40cm近いお札を4枚も貼るといふ。

防災は待ったなし。

数年前までならともかく、今では「4枚貼る」に共感。



会員だより



# アフリカで見た夢

市川 光雄 (時習 17)



8年ほど前に大学を定年退職し、4年前には週2日ほど通っていた犬山の日本モンキーセンターを辞した。その後は、京都駅前の放送大学に年2回の集中講義と月1-2度の面談のために顔を出していたが、それも昨年かぎりで終わった。肩の荷が下りたような解放感を味わった一方で、急に暇になって時間の使い方に困るようになった。世の中の多くの定年退職者と同じように、職場以外での友人関係は少ないし、近所づきあいもなく、これといった趣味もない。もとより大学は、定年退職者を歓迎してくれるようなところではない。毎日のようにどこかに出かけてゆく妻を送り出すと、あとはひとりでぼんやりと過ごす時間が多くなった。そのせいか最近、頭の中がどんどん退行してきたような気がする。考えること、思い出すことがどんどん昔のことになってくるのである。そういえば、以前にも似たような経験をしたことがあった。アフリカでの長期調査のあいだに見た夢のことである。

## ○ 言葉を忘れる長期間のアフリカ訪問

1974年にはじめてアフリカを訪れてからそろそろ半世紀になる。ちゃんと数えたことはないけれども、この間にきっと50回くらいはアフリカを訪問していると思う。アフリカというだけで「遠い」と思う人が多いかもしれないが、私が行くのはアフリカの中でも最奥地である。首都から車で数日もかけて行く森の奥で、いわゆる熱帯雨林の中の小さな村である。国で言うと、カメルーンやコンゴなどの旧フランス語圏が多い。最近では短期の訪問が多いものの、最初の頃はそういうところにひとりで1年くらい入っていた。

森の中で長い間、現地の人たちと暮らし、現地の言葉で話していると、多言語環境に馴染んでいない私などは、だんだんほかの言葉が出なくなってくる。まず、大学に入ってから付け焼き刃で覚えた関西弁が消える。つぎに中学に入ってから習った英語を忘れる。コンゴの村にいたとき、英語圏であるケニアから来た人に会った。「フランス語は下手でも英語なら得意である」と居直っていた私に、村人はその人と英語で話してみろとけしかけた。しかし、どうしてもすんなりと英語が出てこなかった。結局、最後は生まれてから最初に覚えた三河弁しか出てこなくなってしまった。半年後に調査地を訪れた研究室の先輩は、私の三河弁にさぞかし驚いたことだろう。東北地方出身の私の元同僚も、何ヵ月後かに指導教員が彼の調査地を訪れたときに、何を聞いても「まあんず」（まずまずです）という山形弁しか出てこなかったと、今でも語り草になっている。



コンゴ民主共和国(旧ザイール)イトウリの森の調査地でムブティ・ピグミーの子どもたちと。上は1980〜81年の2回目の訪問時、下は1989年の5回目の訪問時の写真

## ○ 夢は唯一、自分と自分を繋ぐ

そうした毎日の生活の中で、唯一、日本と自分をつなぐものが夢だった。電灯もなく、石油ランプすら灯せない森の中の夜は長い。日が暮れると、まもなく小さな小屋の中にもぐり込む。周囲のざわめきがおさまり、たき火の火が小さくなってから、ふたたび人が起き出して火を熾し始めるまで、およそ10時間は床の中にいる。暗闇の中でさまざまな想念に身を任せているうちにいつか眠りに落ちていく。そしてたいていは夢をみるのである。

## ○ 昔の夢を見る

アフリカで見る夢は、言葉と同じで、現地での生活が長くなるほど古い時代に遡っていく。最初の頃は、たとえば、日本にいるときに想いを寄せていた女性がウェディングドレス姿であられる夢を見た。こんな夢から覚めた後は淋しさもひとしおで、屋根裏を走り回るネズミや、泥壁の穴から顔を覗かせているゴキブリさえもがいとおいしくなったりする。日が経つにつれて、夢はだんだんと昔のものに変わる。大学の学部時代に北アルプスの剣岳で雪崩に遭ったことがあり、その夢を見た。大雪の後で尾根筋の斜面を歩いていたら、雪面がバシッと音を立てて割れ、20メートルほど流された。実際には、雪の中でもがいているうちに運良く雪が先に流れ、斜面に取り残されて命拾いをしたのだが、夢の中ではどんどん流されていった。雪崩は谷全体に広がる大規模なものだった。夢から覚めた暗闇の中で、あゆむとき流されなくて本当に幸運だったと胸をなで下ろした。高校時代に二川の立岩で岩登りをしていたときの夢も見た。握力を消耗して、手がホールドから離れて落ちる夢だった。

## ○ 何度も見た入学試験の夢

私が何度も見てうなされたのは、大学院までつづいた入学試験の夢で、合格したはずなのに「あれは間違いだった」というものだ。大学院入試を

最後に入試とやっと縁切りができたと思っていたのに、その入試がことごとく無効で、最初から全部やり直しになるというのだ。なんと言うことだ、と奥歯が粉々になるほど歯を食いしばっている夢から覚めると、ものすごい歯ぎしりをしていたりする。自分では、「入学試験の緊張感は嫌いではない」などとうそぶいていたのに、受験はけっこうな重荷になっていたようだ。

## ○ ストレスがある故か

それにしても、どうしてこんなに流されたり、落ちたりする夢ばかり見たのだろうか。自分ではここそ順調な人生を歩んできたような気がしていたけれども、実は相当なストレスを抱えていたのかもしれない。これからの人生でストレスがなくなったら、ボケてゆくばかりなのだろうか。



本文とは関係がないが、最近の写真2点、最近にはナミビアなどの乾燥地域に行くことも多い。上の写真はナミビアで最大級のバオバブの樹。真中の黒っぽい服の女性は時習館先輩（15回卒業）の故丸山正樹氏のお嬢さんで人類学者。下は世界最古のナミブ砂漠にある砂丘。頂上付近に小さな人影が見える

会員だより

# 神戸開港…そして

弁天浜の明治天皇御用邸 湊川の“長城” “難民” 3題

熊谷 信哉 (時習 18)



神戸は1868年(慶応3年12月)に開港した。不平等条約撤廃、国内治世安定、殖産興業という三つの大きな政策課題を掲げる明治政府の期待を担い、西日本の拠点としてデビュー、猛烈な勢いで新しい街づくりを始めた。

ハーバーランドの一角に1886年(明治19年)9月4日に開設された。当初は2591坪の土地に裏棧橋一基がついていた。二度にわたる土地拡張があったが、1907年(明治40年)4月24日に閉鎖された。途中、改築が予定されたが中止となった。その理由は明らかにされていないが、楠本氏は「明治30年の時点では山陽鉄道(現在のJR山陽本線)が数年後に完成し、東京-馬関(下関)間が全通することが見込まれていたこと、神戸港の発展で、港のほぼ中心にある御用邸が港湾施設を建設する最適地であったことが改築延期の理由ではなかろうか。廃止された御用邸が後に民間の三菱倉庫に売却されたのも、このため

## 弁天浜の明治天皇御用邸

### ○大津事件のもうひとつの舞台

神戸・ハーバーランドの一角に古びた四角柱の石碑(高さ約1・5m)が建っている。「史跡 明治天皇御用邸跡」と刻まれ、裏面に「大正一三年九月建設 三菱倉庫株式会社」、右側面に「昭和一四年九月移転 株式会社神戸新聞社」の文字が読み取れる。神戸の歴史からは忘れ去られているが、「大津事件」のもう一つの舞台がここにあったことを語る生き証人である。



神戸ハーバーランドの一角にひっそりと佇む「史跡 明治天皇御用邸跡」の石碑。明治以来、神戸が直面した激動の歴史を伝える神戸市中央区東川崎町

だろう」と推測される。

社団法人工学会発行の『明治工業史 建築編』の中の「宮殿一覧」には皇居、京都御所、桂離宮、修学院離宮など全国29の宮殿、御用邸が載っている。神戸では「武庫離宮」(1914年・大正3年12月建築)が紹介されているが、明治天皇御用邸(弁天浜御用邸)は載っていない。

明治天皇の神戸行幸は1872年(明治5年)7月6日から1911年(明治44年)11月18日まで計24回で、このうち御用邸に立ち寄ったのは7回。

### ○未曾有の国難

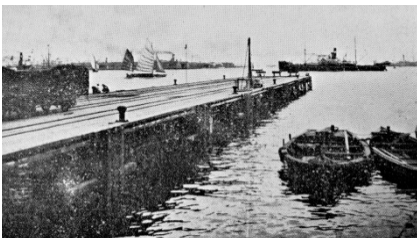
### ○明治天皇が7回立ち寄る

明治天皇御用邸は、元芦屋大学教授で神戸史研究家の楠本利夫氏らの研究で徐々にその全容と機能が明らかになってきた。この御用邸は現在のハ

1891年(明治24年)5月、日本を訪問中のロシア帝国ニコライ皇太子が大津で警備の警官・津田三蔵にサーベルで切り付けられた。大津事件である。超大国ロシアの反発・報復を恐れ、政府を初め日本中が震え上がった。

未曾有の国難に際しロシアとの皇室外交の前線基地となったのが明治天皇御用邸。事件の3日前、皇太子は大艦隊を引き連れて神戸に到着した。お召し艦「アゾヴァ号」から小蒸気船に乗り移り、御用邸裏棧橋に到着した皇太子は、市民からの献上品を受け取り、神戸視察後、列車で京都に向かい、5月11日、事件に遭遇した。事件直後、皇太子は本国からの指示で、帰艦することとなった。ロシア公使は「日本の治安が万全ではない」として、天皇の神戸への同行を要請した。天皇は皇太子と同じ列車で神戸に赴（おもむ）き、同じ馬車で御用邸に到着した。

2人の間近くにいた近衛士官の記録が残っている。「御用邸裏棧橋上で立ち止まった皇太子がポケットから煙草ケースを取り出されると、傍らの天皇はすぐご自分のポケットからマッチを出されて火を点じて、皇太子の煙草に近づけ、お二人の顔が夕霧の中に赤く照らし出された。この影絵のようなお姿を拝して、陛下のお心遣いのほどを察し、お伴の人々の臉は熱くなった。棧橋の彼方の沖合には7隻の露艦が夕闇の中に重々しく浮かんでいた」(石光真清著『城下の人』＝龍星閣)。御用邸の中で2人がどんな会話をしたかは公にされていないが、この



明治天皇がロシア皇太子を見送った棧橋  
『神戸古今の姿』より

裏棧橋の上のエピソードで何となく雰囲気伝わってくる。皇太子が小蒸気船に乗ってお召し艦へ帰る段になって、天皇は暮れなずむ裏棧橋上でじっとたたずみ、皇太子を見送った。

**○御用邸、その後の所有者**

話を冒頭の石碑に戻そう。「神戸新聞社」と刻まれた経緯はこうだ。鈴木商店焼き討ちのとぼっちを受けて全焼した神戸新聞が社屋を転々、1937年（昭和12年）に東川崎町1の46の三菱倉庫所有地を取得し、1939年（昭和14年）6月

に新社屋が完成した。この土地は明治時代、御用邸用地の一部でもあった。神戸新聞社は自社の社屋建設用地に、三菱倉庫が建立した石碑が建っていたので、社屋再建時、記念碑に新たに刻印した。この石碑は明治天皇御用邸、大津事件、弁天浜から高浜ターミナルへの発展、鈴木商店の焼き討ち、神戸大空襲、ハーバーランドの開設、阪神・淡路大震災など、神戸の明治以来の歴史を見てきた。

**湊川の“長城”跡が新開地に**

湊川を挟んで西側の「兵庫」（現在の神戸市兵庫区にはほぼ相当）の婦人は歯を黒く染め、眉毛を剃っていた。一方、東側の「神戸」（現在の神戸市中央区にはほぼ相当）では白い歯をした婦人をよく見かけた——開港後の対照的な光景が今に伝え



天井川“湊川の長城”の名残が今に

られている。ほかに「写真を撮られたら命が縮む」と思っていた「兵庫」に対し、「神戸」では1869年（明治2年）、早くも写真店が開業、新たに住民となった人たちは写真を見せ合っていた、「兵庫」に牛肉屋は一軒もなかったが、「神戸」では明治5、6年ころには数軒が開業していた、など「兵庫」と「神戸」が極端に違っていたことを語るエピソードにはこと欠かない。

**○兵庫と神戸が一つの行政区に**

古くから兵庫津として栄え、開港当時、国内有数の豪商も含め2万人の人口を擁した「兵庫」。一方「神戸」には1868年（明治初年）、西国街道沿いの3カ村でわずか3600人しかいなかったが、開港で外国人居留地が置かれ、諸外国の領事館も次々に設置され、瞬く間に「兵庫」を追い抜いてしまった。

これだけの違いがある2つの地区をつくり上げた大きな要因が「湊川の“長城”」（「湊川の壁」と

表記するのが普通だが、あまりにも大きいため、以下、古書にのっとり「湊川の「長城」と表記)。かつて両地区の間には川床から7mも盛り上がった天井川・湊川が流れており、堤防が約200mにわたり「長城」のように立ちはだかっていた。岡久毀三郎氏の大著『神戸古今の姿』に興味深い記述がある。「明治20年前後、橋の周辺には、人力車の後押しをして日銭を稼ぐ人たちがいた。“チップ”を忘れると時には人力車をひっくり返されることもあった、と土地の人が言っている」(原文の趣旨を生かして現代風に表記)とのエピソードが紹介されている。湊川は「兵庫」「神戸」を物理的にも心理的にも分断、交通の障害や大雨の時はよく氾濫するなど極めて目障りな存在だった。

1879年(明治12年)1月、第一区(神戸)と第二区(兵庫)に坂本村を合わせて「神戸区」が発足した。

「兵庫」「神戸」が一つの行政区になったため、湊川の撤去・付け替え工事は火急の課題となった。

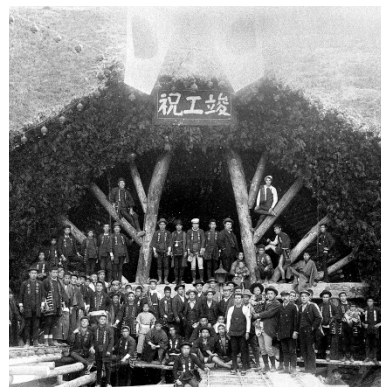


明治中期、付け替え前の湊川。ふだん水はほとんどなく、川底は土砂で埋まっていた『むかしの神戸』和田克巳

### ○湊川の付け替え工事

地元経済界の主導で全て手作業による難工事が始まった。現在の菊水橋の南から西へ曲げ、南北朝時代、楠木正成が本陣を置いたと伝えられる標高85mの会下山(えげやま)の真下を貫き、長田の荻藻川に合流させて海へそそぐ流路とした。4年の歳月をかけ1901年(明治34年)8月、「湊川隧道」が完成、念願の通水が始まった。当時の高度な土木技術による国内初の河川トンネルで幅4.5m、高さ5mの卵形の内壁には約450万個のレンガが使われ、側面と天井で積み方が変えられている。川床は石畳張りという重厚なもの。延長600m(増築部を含むと長さ680m)。当時は世界最大規模を誇っていた。

「湊川隧道」は阪神・淡路大震災で出口部分が損壊、内部にも亀裂やレンガの剥離が確認された。まだ使える状態だったが、今後の水害に備え、兵庫県はすぐ北側に「新湊川トンネル」を掘り、20



難工事を終え、ホッとした表情の作業員たち=湊川隧道坑口【写真は大成建設株式会社提供】

00年(平成12年)に通水を始めた。現在、「湊川隧道」では「湊川隧道保存友の会」がクラシック、ジャズ、三味線や詩吟など各種イベントを開催、土木学会の選奨土木遺産にも認定され、貴重な近代遺産に数えられている。

話が横道に逸れたが、この湊川跡地に造成されたのが戦前は神戸最大の歓楽街だった新開地。「兵庫」と「神戸」を結ぶ湊川トンネルや、大きな行事の会場となってきた湊川公園は、この結果、姿を現した。

現在、湊川トンネルの両端から新開地に入ろうとすると急な坂が



湊川の旧市電通り。この上を湊川が流れていた。堤防の高さが分かる『むかしの神戸』和田克巳

あるのは、かつてあった湊川の名残だ。このエピソードが2017年(平成29年)2月25日、NHKの「ブラタモリ」で紹介された時、生粋の神戸っ子である友人は



新開地が誕生。聚楽館前を走る市電。昭和46年に撤去されるまで市民の最大の足だった『むかしの神戸』和田克巳

「初めから、そういうものだと思って何にも疑問に思わなかった。こんな面白い

話は学校で教えてもらいたかった」とポツリ。愛

知県では副読本で『郷土に輝く人々』を使い、学校教育で地元出身の偉人を子どもたちに伝えている。『時習館かんさい』29号の「滝善三郎」の項でも触れたが、地元に関する学習を取り上げる地域が全国的に広がる中、神戸市の姿勢はいかかなものか。愛知の人間の率直な感想だろう。

《参考図書》

『増補 国際都市神戸の系譜』 楠本利夫著 公人の友社

『城下の人』 石光真清著 龍星閣

## 神戸を通り過ぎた“難民”たち

開港に伴う居留地の造成や雑居地の発展で多くの外国人が神戸市民と一緒に住み始めた。国際性豊かになった神戸だが、現在になってもあまり知られていない史実も多い。神戸の歴史の掘り起こしを重ねる神戸市文書館（松本正三館長＝神戸市中央区）の協力で神戸に縁のある“難民”をキーワードに3つの出来事を紹介しよう。

### ○杉原千畝の「命のビザ」

ナチス・ドイツの迫害から逃れてきたユダヤ難民に日本通過ビザを発給し続けたリトアニア日本領事館領事代理だった杉原千畝（すぎはら・ちうね）のエピソードはメディアで紹介され、有名になった。いわゆる「命のビザ」である。

このビザにより、大勢のユダヤ人がヨーロッパからシベリア鉄道でウラジオストクに向かい、船で福井県敦賀にたどり着いた。彼らの多くは、神戸のユダヤ協会などを頼って陸路、神戸を目指し、1940年（昭和15年）から1941年にかけて神戸に滞在した。1941年（昭和16年）11月2日付の神戸新聞によれば総勢4467人との記録が残っている。

神戸市が神戸におけるユダヤ難民の実態を後世に伝えようと市民らに情報提供を呼びかけた。「自宅に招いたユダヤ人に和服を着せて一緒に撮影した写真を持っている」「杉原ビザのパスポートには

三宮警察署の滞邦許可の延長の押印のあるものもあった」「検疫所があった和田岬の栈橋から多くのユダヤ人が船で海外に向かうのを見た」など内容は多岐にわたる。神戸にとってユダヤ難民は決して遠い存在ではなかった。

### ○ロシア革命と児童難民たち

1920年（大正9年）ロシア革命により避難した子どもたち約800人を無事、親元へ送り届ける必要があったが、この要請を引き受ける船会社が世界中、どこにもなかった。この時、神戸の大船主・勝田銀次郎（後の第8代神戸市長）が採算を度外視して自社の貨物船「陽明丸」を改装して客室、病室、浴場などを整備、無事、米国赤十字社の要請に応じることが出来た。現在まで伝わる勝田のこの行動は、持ち前の義侠心と海運界のリーダーとしての誇りによるものであったと言われている。

### ○エルトゥールル号事件

明治天皇に謁見するため、トルコ皇帝から遣わされたトルコ軍艦・エルトゥールル号が帰途、和歌山県串本沖で座礁・遭難し、600人を超える乗組員のうち一命をとりとめたのは、わずかに69人という大惨事が起こった。1890年（明治23年）のことだ。

生存者全員が軍艦・八重山で神戸に向かった。政府は、トルコから正式な外交使節として派遣されたエルトゥールル号の遭難を重く見て、負傷者を皇室と縁の深い東京の慈恵病院に搬送することを計画。しかし最終的に全員が神戸に留まり治療と看護を受けることになったのは当時の林董（はやし・ただす）兵庫県知事の働きによる。

「生存者は日本の手で本国まで送り届けよう」との強い世論の後押しで、軍艦・金剛、比叡が神戸を出港した。この事件は日本とトルコの友好関係を象徴するエピソードとして現在に語り継がれている。

会員だより



「絆」に導かれて

布藤 智康 (時習 36)



文才ないこともあり、できれば避けたかったのですが、同期で同クラブの鈴木富美子さん(時習36)の頼みを(昔から)断り辛く、受けてしまいました。これも何らかの「絆」なのかもしれません。これまでのことをつらつらと、こんな内容でいいのか非常に恐縮ですが、さらっとでも見ていただければ幸甚です。

○なんとなく薬学部へ

中学時代に剣道をしていたこともあり、高校でも入った時に剣道を見学し、そのまま剣道部に入りました。鈴木富美子さんとはその時からの付き合いですね。2年生の秋の大会で引退する方も多かったのですが、3年の夏まで続けました。最後のインターハイ予選は、個人はまぐれでベスト8まで進んだのですが、団体戦は私がいちばん勝てず、県大会に進めませんでした。気まずかったのを憶えています。女子は強く、宮崎好代さん(時習36)が個人で全国へ、団体も県大会に進みました。

進学は4人兄弟の一番上で、あまり負担をかけたくなかったこともあり、私学は受けず、国立にかけたのですが、かないませんでした。ただ、別日程の公立の薬学部を受かったので、浪人しなくなかったことから、期せずして薬学部に進むことになりました。それまでは工学部を出て地元の自動車関連企業に進むみたいな希望を持っていましたが、あっさりと妥協です(これも何らかの絆?)。

○バブル組で就職

大学に入ってからには本当にのんびりしたものでした。とりあえず剣道、麻雀、飲み会をする日々でしたが、国家試験と大学院試験はそれなりにが

んばってなんとか通りました。就職の方はバブルに入っていくころで、ほとんど就職活動とは無縁の時代で本当にラッキーでした。教授から「こんだけの製薬会社から就職の斡旋が来ているけどどこがいい」と言われて、トップ企業がおもしろいかなと漠然と武田薬品の製剤研究所を選んで就職試験を受けました。英語の筆記と面接だけの試験で、面接後、研究所の副所長さんに食事をおごってもらって、帰ってきたら就職が決まっているという時代でした(企業から返済不要の奨学金をもらったり、他の企業を受けないように拘束されたりしていた人もいた、学生にはいい時代でした)。

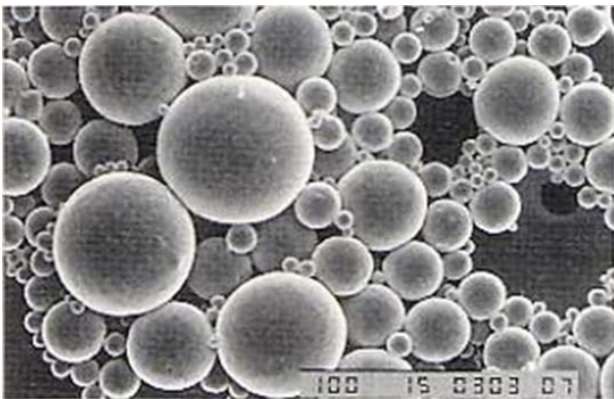
○会社に入って

製剤研究所では注射剤の研究・開発担当でスタートしました。学生気分がなかなか抜けず、また周りは非常に優秀な方ばかりでしたが、上司に恵まれ、我慢強く指導いただいて、何とか一人前になれたと思います(周りは本当に優秀な方ばかりでいい上司・先輩に恵まれました)。テーマは注射剤の中でも生体内分解性のポリマーを用いた、当時画期的なDDS製剤として出てきたリュープリンを含む徐放性製剤の研究開発を担当させてもらえました。この最初のテーマのおかげでいまでも会社でメシを食わせてもらっています。

○製剤研究

リュープリンというのは非常に画期的な製品で、通常毎日注射しなければならないものを、1カ月に1回から現在は6ヶ月に1回の注射で済むというものです。それまでは前立腺癌の患者さんはテストステロンが癌を増殖させるため、去勢手術を

行っていました。手術そのものも大変ですが、術後の精神的なショック、女性化等の様々な問題がありました。リュープリンの活性成分（主薬）は酢酸リュープロレリンという LHRH（黄体形成ホルモン放出ホルモン）という人体が持つホルモンのより活性が強いアナログ（類似体）です。LHRH は性ホルモンの放出を促すのですが、持続的に作用すると逆に放出を抑制することがわかり、前立腺癌を初めとするホルモン疾患へ適用されてきました。酢酸リュープロレリンはペプチドの一種で胃酸で分解され、注射する必要があるのですが、体内での半減期が短く、当初は毎日注射する必要がありました。癌患者さんとはいえ、毎日通院するのは大変でした。そこで先人の方々が体の中で1ヵ月間かけて徐々に分解するポリマーの中に薬物を封じ込め、注射投与可能なマイクロカプセル技術を苦労して開発されました。当時はまだ前立腺癌の患者さんは国内ではあまり多くなかったのですが、食事の欧風化、検査技術の向上により増加していき、また子宮内膜症、子宮筋腫、思春期早発症、乳がん等に適用が拡大するにつれ、売り上げが拡大し、武田薬品を支える柱の一つになっています。



リュープリンの電子顕微鏡写真  
平均約 20 μm のマイクロカプセル製剤

上記の流れにのり、製造スケールアップ、処方変更、3ヶ月に1回の投与製剤、6ヶ月の1回の投与製剤とテーマを担当させていただき、特殊製剤ゆえの難しさ・おもしろさがある中、約20年間研究開発の仕事をしていただきました。リュープリン以外にも徐放性製剤、他の注射剤や導入品等の様々なテーマを担当しましたが、世の中に出せたのはリュープリン以外にあと2つ程度と、

薬を一つでもだせばラッキーと言われる製薬研究の中で市場に近い下流側の製剤研究とはいえ幸運であったと思います。おかげで社長表彰や Global Award というのももらえました。

研究開発の後は製造管理の仕事を6年ほど担当しました。製造していたのはリュープリンです。それまでは個人的又は数人のグループでの仕事が多かったのですが、いきなり80人ほどのグループを任せられ、最初は慣れるのに大変でした。特に人間関係で相談されることも多く、マネジメントの難しさを勉強させていただきました。その後今年から製剤技術部に移り、現在は約35名の方と仕事をしています。



導入した製品の会社の方を京都に案内した時娘を連れて行ったらとてもかわいがられました

個人的には激しい動きのように感じているのですが、それでも同期入社のみなさんに比べると今のところ未だ転勤はなく、落ち着いた動きになっています。というのも会社の方は入社当時から大きく変わったと思います。

## ○会社は大きく変わりました

入社当時の武田薬品は本当に日本の企業という感じで、社長は武田一族の方中心に歴任されており、その間に厚生省の方等の他の方が就任（私の入社当時の社長は厚生省からこられた方でした）という感じでした。同期の研究職の男性はほぼ教授等の推薦で、かつ女性は自宅から通える人しか入社できませんでした。福利厚生は手厚く、あちこちに保養所があり、研究所のある大阪工場地区では歯科を含む診療所や床屋まであり、業務中に

歯の治療や散髪ができました。

数年すると医薬品事業に特化するということで、このあたりから徐々に変わってきたと思います。入社当時は医療用の医薬品の他に動物薬、飲料、ビタミン、ウレタン等の化成品等、多角化されていたのですが、それを利益率の高いがリスクも高い医療用医薬品に特化していきました。他の事業は他社に譲渡されていき、同期入社のお仕事の研究もそれで他社に移っていきました。

当時はリュープリン、アクトス、プロプレス、タケプロンという非常に高収益のブロックバスターの製品を4つも持っていたので、売り上げ、利益も大きく伸び、株価もバブル後の1000円強から8000円を越えるまで上がりました。それまでの国内の医薬品は安全性が高く使いやすい代わりに薬効が低いものが多く、海外ではほとんど売れませんでした。これらの製品は薬効面でも優れていたため、海外でのシェアが大きく伸びました。国内では薬価制度や人口増が見込めないことから、俄然、グローバル開発に活路を求めていくことになりました。

誤算としては、社内の研究でそれに続く製品が期待通り出なかったことにあると思います。そのため他社や他社の化合物を買収していく方向に舵を切って行きます。それに社内留保や利益を注ぎ込まざるを得なくなり、利益率は落ちていきました。それでも国内市場を考えるとグローバル化の流れから外れるわけにもいかず、現在は外資系製薬会社から招聘した外国人社長の基で身を切る改革を実施して行っています。私の同期もかなりの人が会社を去ってしまいました。入社当時は考えもしなかった変化です。

### ○語学の必要性

また、英語が必須となってきたのも大きな変化です。入社する前はTOEICというものがあるのも知らず、入社後初めてTOEICを受けましたが、今ではこの試験の点数が入社時の一つのハードルになっています。私は幸いアレクサンドリアとボストンのbusiness schoolとカリフォルニア大のDavis校に併せて約半年行かせていただき、それ

なりに仕事に使えるようになりましたが（当時は電子メールもなく、会社業務に束縛されることもなくenjoyできました）、Globalな電話会議、face to face meetingやinspection等で必須な状態になっています。時習館でも今では海外交流や英会話教育に力を入れていると聞いているので、時代の流れを感じる次第です。



ビジネススクールの学生と日本人がほとんどいない環境もよかったです

### ○導かれるままに

現在は更に会社の動きも激しく、自分も明日はどうかという感じです。ただ、どのような場合でも対応できるように、いつ抜けてもいいように後進を育て、自分を高めていかなければならないと思っています。また、今まで結構自由にやってこられたのも家族のおかげだと思います。これからどこにどのような絆が待っているかわかりませんが、楽しんでいきたいと思っています。



家族で四国にうどん作り体験  
息子はなぜか変顔

## 会員だより



## 東三河の伝統「手筒花火」に魅せられて

山本 美帆（時習 56）



## ○ 東三河の祭りにつきものである「爆竹」が怖かった幼少期

私の実家のある豊橋市の某 K 町内では、秋のお祭りの時期になると、屋台が出たり、甘酒がふるまわれたり、餅投げをしたり、神輿を担いで町内を練り歩いています。

いつもとは違う光景に心躍る反面、子どもの頃は、神輿と一緒に付いて回る「爆竹」が怖くて仕方ありませんでした。爆竹が通ると耳を塞いだり、大きく避けて通ったりしてできるだけ近づかないようにしていました。幸い女性なので、「爆竹が怖いなんて弱虫！」みたいなことは言われずに済んで大人になりました。

そんな私ですが、不思議なことに、大人になってから、「爆竹」とは火薬の量が雲泥の差である「手筒花火」の魅力にどっぷりハマってしまいました。ここでは、手筒花火について少し紹介していきたいと思います。

## ○ 「手筒花火」とは

手筒花火は、東三河の伝統花火です。地元の豊橋市では、大きなお祭りだと、「炎の祭典」や「祇園祭」で放揚されています。町内の秋のお祭りの時に揚げる町内もあります。

近年ではテレビ CM で使われたり、「世界の果てまでイッテ Q」等のテレビ番組で取り上げられたりもしています。

“手筒花火（てづつはなび）は、1メートルほどの竹筒に火薬を詰め、それを人が抱えながら行う花火である。手筒花火は、打ち上げ式ではなく吹き上

げ式の花火で、その火柱は大きいものだと 10 数メートルにもなる。愛知県豊橋市の吉田神社が手筒花火の発祥の地とも、豊川市の進雄神社が発祥の地ともいわれる。豊橋市のある愛知県東三河地方、および静岡県の遠州地方西部で特に盛んである。”

“通常の打ち上げ花火などとは違い、花火師が製造を行うのではなく、資格を取った地元の男衆が、最初の竹を切るところから最後の火薬を詰めるところまで、全て自分自身の手によって行い、最終的に神社の祭りで打ち上げ奉納するのが一般的である。点火すると、轟音と共にオレンジ色の火柱が上がり、仁王立ちの状態で放揚する。最後には「はね」と呼ばれる、衝撃音と共に手筒の底が破裂する爆発によって幕を閉じる。（ただし、遠州地方の物の一部には「はね」がない事もある。）”（Wikipedia「手筒花火」より※）

※引用『Wikipedia』の「手筒花火」の項目より

<https://ja.wikipedia.org/wiki/手筒花火>

## ○ 手筒花火との出会い

私が手筒花火と出会ったのは、豊橋市で小学校の教員として勤めていた二年目の年のこと。ある日の職員朝礼の場で、学校のある町内の方から、「先生たちが手筒花火をやってくれたら、子どもたちがもっと見に来てくれるからやってみないか」と声がかかりました。

直後にすぐ、「やらせてほしい」と声をかけに行きました。町内の方（その町内の花火を揚げる会、煙火会の会長さんでした）と話をすると、私が女性であるということもあり、家族に揚げてよいか確認

をすることを勧められました。

手筒花火を揚げるのが危ないものだという認識はあったので、両親には言い出しにくかったです。いざ話をすると、反対はされなかったものの、「1回だけにしなさい」と父に言われ、何とか揚げることができました。初めてだったので、この時は手筒花火の小さい版「羊羹花火」をやらせてもらうことになりました。

ちなみに、父には「1回だけ」と言われたのですが、結局その後も同じ煙火会で、3斤の「手筒花火」を3回放揚させてもらいました。1斤の花火の火薬は0.6kg。3斤の花火では、ダイナマイト10本分ほどにあたるそうです。

## ○ 手筒花火の制作から本番まで

### 制作工程

前述のとおり、手筒花火の特徴は、最初の竹を切るところから最後の火薬を詰めるところまで、全て自分自身の手によって行うところにあります。私の参加している煙火会では毎年、仕事後に夜な夜な懐中電灯片手に作業をしたり休みの日を使ったりして、以下のような工程で、1か月程かけて手筒花火を制作しています。豊橋商工会議所のWebページ(※)も参考にしながら、まとめました。

※参考『豊橋商工会議所』のWebページより「手筒花火の製造過程と放揚まで」

<http://www.toyohashi-cci.or.jp/event/honoo/seizotohoyo/index.html>

### (1)竹取り

孟宗竹の3年以上のものを竹林に取りにいけます。最近ではちょうどよい竹を見つけるのがなかなか難しく、どの会も、毎年市内外のあちこちのツテを探すようです。山の斜面での切り出し作業の時も多々あり、



切り出し、長さを整えた竹

切り倒した竹は当然自分たちで運ぶので結構重労働です。

### (2)油抜き

竹の強度を高めるために、竹の油分を抜き、固く締める工程です。竹を湯で煮る方法と、火で炙る方法があるそうですが、私の参加していた煙火会では、湯で煮ていました。

### (3)縄巻き

地域により違いがありますが、竹の横割れ防止のため、①南京袋②細縄③太縄の順に竹に巻きつけます。巻く際に、大変きつく巻かないといけけないので、縄を引っ張り、金槌で叩きながら、ぎゅうぎゅう巻きしました。力がいるので、普段力仕事をしていない職業の人では男性でもなかなか大変な作業です。



太縄巻まで完了

### (4)竹の節削り

竹の内側の節を削ります。内側に少しでも節が残っていたり、余計な傷をつけてしまったりすると、放揚の際に火がそこに留まり、竹が割れる原因になります。内側を手で触ったときに竹の節があったことがわからないくらいいつるつるになるように、何日もかけて削ります。

放揚の前夜には、「煙火」と呼ばれる花火工場に集まって、手筒に火薬を詰める工程を行います。火薬庫のようなものなので、何かのはずみで着火すると大爆発、大事故になります。作業に行く際は、金具のついた服は禁止、綿100パーセントの服でした。

以下、「煙火」にて。

### (5)火薬のすり合わせ

火薬と鉄粉を焼酎で練ります。

### (6)火薬詰め

小・中・大・大大(粒子の大きさだそう)と、火薬

を順番に詰めていきます。込め棒を使って、均等にしながら固く固く詰めていきます。最後に「ハネ粉」を入れて、新聞紙を詰めます。

### (7)口切り

噴射口を切ります。

### 揚げ方の所作の練習

手筒花火を制作する作業の合間に、使用済みの手筒を使って、日々、揚げ方のシミュレーションもしました。本番で火がついてからも、安全な所作ができるように。

縄をぐるぐる巻いて火薬の入った手筒は、いざ持つてみると大変重いです。ただ持てばいいのではなく、ゆっくりコンパネと呼ばれる板に、火花を当てながら、最終的には火花が真上から出るように持ち上げます。

最後の「はね」が足に当たると、骨折するおそれがあるので、必ず足に当たらない位置に構えます。実際、私が参加した最初の年には、一緒に参加していた上司が、骨折まではいかなかったのですが、「はね」がかすって打撲していました。正しい位置に筒を構える練習を何回もして、体に覚えさせました。

### 当日の衣装

- ・鯉口、どんぶり(腹掛)、股引、法被。火の粉を浴びて溶けるとまずいので、どれも綿 100%です。もちろん下着も化繊 NG。
- ・祭り用品を売っているお店で買うことができます。
- ・刺子の法被は、町内や煙火会で揃えて購入することが多い様子。
- ・足もとは、地下足袋。不慣れだったので、社務所のトイレに行くために、地下足袋を履いたり脱いだりするのがいちいち大変でした。
- ・頭には手拭いを被ったり被らなったりします。おじさまたちの中には、手拭いを被らず、この時のために頭をつるつるにする粋な方も。中途半端に髪の毛が生えていると、毛が生えているところに火の粉が留まってしまう、終わった後かさぶたがたくさんできるそうです。つるつるがかっこいいとは思いつつも、私は職業柄つるつるにするわけにはいかな

かったので、綿 100%の手拭いを水で濡らし、髪の毛がこげないように頭を覆いました。

### いざ本番!

命がけとあって、揚げる前は緊張しましたが、いざ点火されると、意外と冷静に揚げることができました。たくさんシミュレーションをし、体が手順を覚えていたというのも安心してできる要因になったと思います。

揚げた後の筒は、魔除けになると言われています。結婚後は、夫(時 56 回生 山本論)とも一度手筒花火を揚げました。大阪に転勤になった今も、その時の手筒二本を玄関に飾ってお守りにしています。



本番! 手筒花火を揚げる

### ○手筒花火の魅力とは

当時一緒に手筒を揚げておじさまが言っていたことを、私は今でも覚えています。

“仲間との信頼関係がないと花火は揚げられない。命がけだからね。もし作業中に筒を落っことしたら、「わりい、落とすた!」って正直に言うだろうな。誰が落とすたとしても絶対にそう言うと思う。適当なことをするやつはこの中にはいないよ”

手筒花火は力強く、美しいです。しかし、その魅力は見た目だけではなく、その裏側には、受け継がれてきた伝統や揚げる人たちの命、誠実、仲間との信頼といった「精神」があります。

今は妊婦なのでできませんが、命を預けられる仲間と一緒に、またいつか揚げたいと思っています。

大石由紀子さん（時 10） & 藤巻 篤子さん（時 14）

## 東久邇宮文化褒章受章

### 祝：受賞

長年、社会貢献されてきた活動が認められ、2017年9月に大石由紀子さん（時 10）、同年12月に藤巻篤子さん（時 14）が東久邇文化褒賞を受賞されましたので、会員の皆さんにお知らせいたします。受賞理由は次の通りです。

**大石由紀子（時 10）**：多年に亘って人身売買の根絶を目指し、人権保護活動に従事。自宅を開放しての被害女性の心のケア、あるいは国連アジア極東犯罪防止研修所保護司などを通じての国際的な貢献が認められたものである。

**藤巻 篤子（時 14）**：半世紀にわたる眼科医を続ける傍ら、地域医療に力を注ぐ。それに並行して、自らの体験に基づく講演、趣味の歌を活かしたチャリティーコンサートなどにより、地域に大きな足跡を残したことが高く評価された。



おおし ゆきこ  
大石 由紀子 様



ふじまき あつこ  
藤巻 篤子 様



編集委員会からの報告

## 東久邇宮文化褒賞

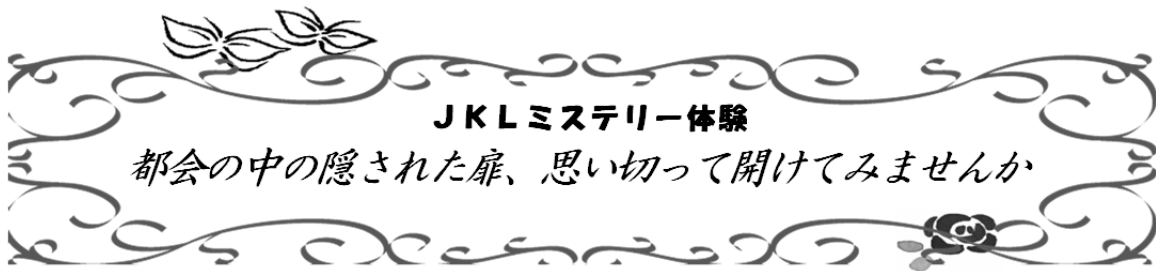
東久邇宮盛厚殿下の発明哲学は「発明には上下貴賤の区別はない。小発明ほど尊い、ノーベル賞を百とるより、国民一人一人の小発明家が大切だ。うまいミソ汁を考えた人には文化勲章を与えよ」といわれて、我々の名誉総裁になってくれた。

晩年、病に倒れたとき、会長だった私を招いて、「わが家の名と財産をつかってよいから、文化の発展につくした方に皇族賞を出して、顕彰してほしい」と。この文化褒賞は、その遺言によって生まれたのである。高松宮賞、秩父宮賞と共に三大宮様賞として親しまれている。

# 支部便り

## 活動報告他





## JKL ミステリー体験に参加して

### DID 体験「対話のある家」

岩田孝枝（時8）

今回は「真っ暗の中のクリスマス」という体験です。（6人がグループ）、豪華なイルミネーションも素敵だけれど、たった一筋の光もない真っ暗の中を指導員さんのもと1時間10分私は何も知らされずお部屋に入りました。初めての試みで胸がドキドキでした。真っ暗闇で視覚に頼らない体験を通じて普段は気付かない感覚の使い方等様々な発見がありました。クリスマスツリーが飾られているのですが何も見えません。手探りで何でもするしかない…。指導員の方が必ず声を出して話をするようにと言われました。様々なシーンの課程で視覚以外のいろいろな感覚の心地よさに気付いて良い体験でした。

大人も子供も性別も関係なく今日初めて会った人と友達のように話し、少し若い頃に戻った気分になりました。往々にして年令を重ねるごとに暗くなったり意地を張ったり見た目判断しがち、イメージなどで人を見がちですが元を正せば皆同じだったんだと痛感させられました。

### 五感をフル活用

阿久津詠美（時30）

今回参加させて頂きましたダイアログ イン ザ ダークは、ユニバーサルデザインの仕事柄、以前

より関心を持っており、思いがけず参加の機会を頂きありがとうございました。

体験は、まず真っ暗な家の中を進んでいくのですが、周りの方々と声をかけ合わないと不安で、自然とコミュニケーションが進み人との距離が近くなったように思いました。普段は視覚情報に頼り、声をかけ合わなくてもすんでしまいましたが、少し勇気をもって安心して声をかけ合える社会になると、みんなもっとハッピーになれるのかなと感じました。

暗闇の中には、クリスマスツリーがあったのですが、見えていないのに見えるかのように、頭の中で想像したイメージが広がってそれも不思議な体験でした。暗闇の中で明日くる方のためのクリスマスカードをつくり、五感を必死に使い想像するのは、とてもいい感性ストレッチになりました。

また、控え室に盲導犬がお留守番しているというアテンドの方は、私達をスムーズにガイドされ、種類の違う飲み物も一人一人個別にサーブして下さい、視覚のない世界で他の感覚を研ぎ澄ませたプロフェッショナルで、いかに私たちが普段視覚に頼った生活をしてきたかに気づかされました。多様な人がもっと互いに五感を駆使して助けあい共に暮らせる世界にできるはずと感じさせられる体験でもありました。

体験が終わり、明るいところに出て、頂いたクリスマスカードを拝見しました。昨日の方が暗闇の中で作られたとは思えない出来栄で、まるで

温かい心まで伝わってくるようです。

この暗闇の世界を体験することで、普段使っていない五感を使い、普段考えていない思いを巡らせることで、色々な気づきがありました。是非皆様も一度体験されてはいかがでしょうか。

### 見えなくても感じる世界

北川井子（時 27）

ダイアログ イン ザ ダーク？暗闇体験？JKLのご案内をいただいて、？？？。今まで聞いたこともない未知の世界？これは参加しなくては...と好奇心いっぱい参加しました。

いったい真っ暗な中で何をするのか？怖くないのか？...それがなかなか面白いんです。見えなくても感じることはたくさんありました。詳しくは実際に体験してみてくださいね。きっと新しい何かに気づくと思います。

企画してくださったJKLのみなさま、ありがとうございました。

### 人の潜在能力を垣間見る

河合行朗（時 20）

DID（ダイアログ・イン・ザ・ダーク）供創プログラム？？？

事前には DID のイメージが湧かなくて？？？での参加でした。

人間の持つ主要な感覚、視覚・聴覚・体感覚の中で視覚が完全なゼロになった時の不安感、残された感覚、聴覚・体感覚（触覚・味覚）が徐々に鋭くなっていくことが実感できました。

この感覚と一緒に体験している仲間とのコミュニケーション（言葉による会話）を通して得られる暗闇の中での安心感によって得られるようです。

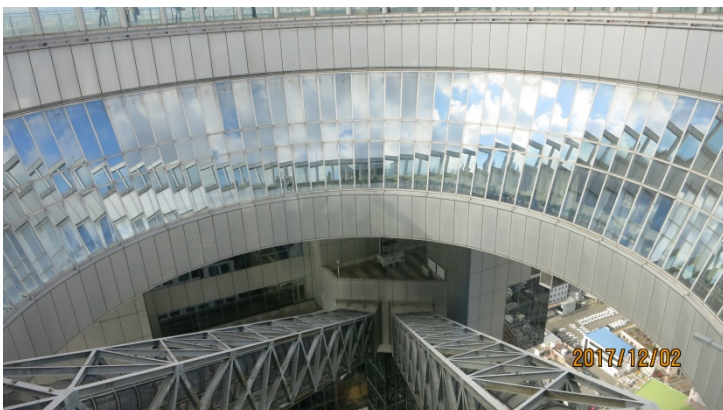
太古から重大な災害時に生き延びる上で人間が持っている潜在能力に気付かされるような面白い体験でした。



昼食風景 於：グランフロント北館「旬穀旬菜」にて



空中庭園での集合写真



空中庭園から見下ろす

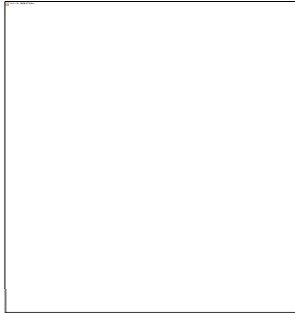


**支部活動**



**「時習館同窓会関西支部ゴルフ会」**

報告ならびにお知らせ  
 ゴルフ会幹事 山村 信哉 (時習 17)



2017年のゴルフ会の報告をいたします。5月と10月に開催いたしました。10月は平日開催を試みましたが、参加者7名と停滞いたしました。開催日については今後の課題となりました。

○ 第33回 (2017年5月20日)

於 愛宕原ゴルフ倶楽部

《参加者》

- 石川吉之助 (時 12)、花井俊作 (時 17)
- 山村信哉 (時 17)、河合行朗 (時 20)
- 岡田順子 (時 20) ご夫妻
- 利根川躍 (時 21)、藤井順子 (時 28)
- 近田 昇 (時 35)、吉田知未 (時 50) 初参加

	東	中	GROSS	H・D	NET
優勝	47	44	91	16.4	74.6
2位	46	42	88	12.8	75.2
3位	50	50	100	24.8	75.2
4位	51	54	105	28.4	76.6
5位	53	49	102	24.8	77.2
6位	49	62	111	33.2	77.8
7位	60	50	110	32.0	78.0
8位	49	56	105	23.6	81.4
9位	65	69	134	50.0	84.0
10位	83	86	169	82.4	86.6



○ 第34回 (2017年10月26日)

於 愛宕原ゴルフ倶楽部

《参加者》

- 石川吉之助 (時 12)、花井俊作 (時 17)
- 山村信哉 (時 17)、河合行朗 (時 20)
- 鈴木省三 (時 21)、利根川躍 (時 21)
- 藤井順子 (時 28)



第33回参加者の皆さん



第34回参加者の皆さん



	中	西	GROSS	H・D	NET
優勝	47	49	96	24.4	71.6
2位	54	49	103	30.4	72.6
3位	40	44	84	11.2	72.8
4位	54	55	109	32.8	76.2
5位	56	52	108	31.6	76.4
6位	55	60	115	35.2	79.8
7位	68	67	135	52.0	83.0

## 事務局から

# お知らせとお願い



## 時習館同窓会関西支部規約 (支部長の会社住所変更のため、事務局所在地を変更)

1. (名 称) 本会は時習館同窓会関西支部という。
2. (目 的) 本会は会員相互の親睦を計ることを目的とする。
3. (事 務 局) 〒542-0081 大阪市中央区博労町1-7-16  
山本通産株式会社内 (代表者 石川 吉之助) に置く。
4. (会 員) 本会の会員は時習館同窓会員で関西地方に在住する者とする。
5. (役 員) 本会に次の役員をおく。  
支 部 長 1 名  
副 支 部 長 若干名  
理 事 若干名 (うち1名を会計とする)  
監 事 若干名
6. (役員の任期) 役員の任期は2年とする。但し再任を妨げない。
7. (役員の選任) 役員は総会において選出する。
8. (役員の職務)
  - (1) 支部長は本会を代表し、会務を報告する。
  - (2) 副支部長は支部長を補佐し、支部長事故あるときは、その職務を代行する。
  - (3) 理事は支部長・副支部長とともに本会業務の運営にあたる。
  - (4) 監事は本会の会計監査にあたる。
9. (総 会) 総会は毎年1回開催する。但し、必要に応じて臨時総会を開催することができる。  
総会は支部長が招集する。  
総会に提出し、その承認を受けなければならない事項は次のとおりとする。
  - (1) 前年度の会務及び収支決算報告
  - (2) 新年度の収支予算
  - (3) 役員の選任
  - (4) 規約の改廃
  - (5) その他の重要な事項
10. (理 事 会) 理事会は、支部長の招集により開催し、本会の運営および企画の審議にあたる。  
理事会は総会にかわって必要事項を議決することができる。但し、その内容を総会に報告しなければならない。
11. (議 決) 会議の議決は、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
12. (経 費) 本会の経費は、会費、賛助金、寄付金およびその他の収入金をもってこれにあてる。
13. (会 計 年 度) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。
14. (規約の変更) この規約は総会の議決によって変更することができる。



## 会員の動静

《お亡くなりになられた方》ご冥福をお祈りいたします

☆豊38 長田菊三郎                      ☆時4 穂積 英子                      ☆時4 内山 規枝

2013年度発行の時習館同窓会会員名簿に記載されている関西在住者の内、転居されたと思われる、その後の住所が不明な方のリストを記載いたします。

### 住所不明者リスト

時 3～時 25	時 26～時 36	時 37～時 43	時 44～時 50	時 51～
高橋美智子 (時 3)	佐久間貴彦 (時2 6)	引地 和豊 (時3 8)	伊藤 資泰 (時4 4)	西村 裕子 (時5 1)
中島 山奇 (時 3)	松井 茂記 (時2 6)	深谷 愛 (時3 8)	鈴木 博成 (時4 4)	阿部 太一 (時5 2)
前田 康宏 (時 7)	井上 尚 (時2 7)	大沢 立弥 (時3 9)	寺澤 裕司 (時4 4)	太田 直道 (時5 2)
補永 守茂 (時 8)	松本 富夫 (時2 7)	竹中 規代 (時4 0)	矢野 裕司 (時4 4)	成田 知加 (時5 3)
小森 久枝 (時1 1)	尾崎 雅則 (時3 0)	味岡 満博 (時4 1)	伊藤 靖幸 (時4 7)	黒田 愛 (時5 5)
武田 久子 (時1 1)	中竹 育子 (時3 0)	今泉 博文 (時4 1)	太田有希子 (時4 8)	梅田 浩明 (時5 6)
金沢 範子 (時1 2)	宮野 一成 (時3 0)	大隅 正彦 (時4 2)	成岡 浩子 (時4 8)	野澤はづき (時5 6)
大竹 宏明 (時1 5)	川村 達朗 (時3 1)	太田 陽子 (時4 3)	近藤 正彦 (時4 9)	中田 晃愛 (時5 6)
馬場 一代 (時1 5)	小早川泰之 (時3 1)	大林 靖明 (時4 3)	早戸 容子 (時4 9)	宮森 善隆 (時5 7)
厚地 正伸 (時1 7)	小西 宏昌 (時3 3)	角谷 考宣 (時4 3)	廣田 起子 (時4 9)	國本 将哉 (時5 8)
梅村 康義 (時1 8)	小田 一郎 (時3 4)	清位 靖子 (時4 3)	大林 正彦 (時5 0)	南 扶友子 (時4 3)
中村加代子 (時1 9)	河村 敬夫 (時3 5)	小山 淳二 (時4 3)	松村 憲 (時5 0)	横田 幸介 (時5 8)
松ヶ崎 明 (時1 9)	木下 専 (時3 5)	斉藤 聖己 (時4 3)		村松 亜紀 (時5 9)
澤田 眞理 (時2 0)	米虫 清子 (時3 5)	田中 真人 (時4 3)		伊藤 章人 (時6 0)
牧野 早苗 (時2 0)	國松 真樹 (時3 6)			
三輪 邦興 (時2 0)	助野 純久 (時3 6)			
水野 時男 (時2 3)	山内 千晶 (時3 6)			
若原 俊子 (時2 4)	木俣 到丈 (時3 7)			
鈴木 克実 (時2 5)	宮澤 健士 (時3 7)			

上記会員の方々の動静をご存じの方がおられましたら、事務局までご連絡下さい。

注： 従来、住所変更された方の新しい住所を記載していましたが、プライバシー保護のこともあり、ここでの記載を差し控えます。

皆様ご存じのように関西支部設立50周年の記念事業の一環として『時習館かんさい』17号から19号にかけて豊中、時習館の卒業者名簿を順次掲載しました。会員同士の親睦・交流をより一層深めていただくのが目的で、個人情報保護という点にも配慮しながら、分かる範囲で掲載するよう心がけました。

一連の名簿や変更情報などをご覧になって、あなた自身はもちろん、お知り合いの方に関し、記載事項に間違いを発見されたら、ご面倒でも事務局（山本通産株式会社内 石川支部長）または山村編集委員長まで郵便、FAXまたはEメール（宛て先は『時習館かんさい』表紙右上参照）でご報告願います。

今回の名簿に限りませんが、あなた自身がいずれかへ入学、就職、転任、転居の際、または改姓・改名の時もお知らせくださるようご協力をお願いいたします。

その時は次の6点を明記してご通知ください。

①卒業年次 ②氏名(旧姓も) ③郵便番号 ④現住所 ⑤職業または勤務先(所在地・屋号・職務など)あるいは卒業または在学学校名(詳しく科別も記入) ⑥(公開してもよい)電話番号か携帯電話番号

この名簿は会員相互の親睦と理解を図る目的で編集しています。個人のプライバシー保護には支部としても充分注意しておりますが、会員の皆様も取り扱いにはくれぐれもご注意ください。同窓会関係以外の第三者に閲覧させたり、交付することは絶対にしないでください。

### 今年も先輩から温かい援助

(2018年4月1日現在)

#### 賛助金 200,000円

今年度も卒業50年を経た先輩方から温かい援助の手が差しのべられています。現時点で、賛助金が83人の先輩から寄せられました。本当にありがとうございました。(賛助金の総額は4月1日現在で、監査後寄せられた分は加えられていません)

「後輩たちを元気づけてやろう」というお気持ちで充分です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 『時習館かんさい』へ投稿してみませんか

自分の書いた文章や写真が冊子になって同窓生の手許に届くと考えるとワクワクしてきませんか？

最近感動したこと、学生時代を振り返ってみて思うこと、こんな活動をしています、こんなイベントに参加しました、最近こんなことを考えています、など、気楽に書いて『時習館かんさい』へ是非ご投稿下さい。

📄原稿：1頁1600字程度が目安です。

「手書き」「ワードかテキストで入力したもの」いずれもOKです。

📷写真：「顔写真」と「文章と共に掲載する写真」を、原稿と共にお送り下さい。

簡単な写真の説明もぜひ添えて下さい。

📄1頁も書くのはなあ...短い文章なら書けるよという場合は、「私の1枚!」のようにお気に入りの写真を紹介していただくような形式もOKです。

原稿、写真は1月末ごろまでに、「Eメール添付」「郵送」「FAX(写真は郵送かEメール添付で)」で、編集委員長までお送り下さい。

〒665-0042 宝塚市逆瀬台1-11-4-1312

編集委員長 山村 信哉

TEL & FAX: 0797-74-4858

E-mail: nobu8yama@rose.sannet.ne.jp

(時習館同窓会関西支部役員一同)

## 編集余話



## また一人、巨星が逝く

編集作業終了後、最近の話題について語り合っていたところ。編集委員の一人が、新聞から、最近亡くなられた地球物理学者の記事を見つけた。

### ○車椅子の天才

腰が痛い、風邪を引いた、飲み過ぎで二日酔い。私たちはちょっと体調が悪いだけで、やる気が半減する。でも、20代の初めに筋無力症を発症、効かなくなる手足、動かなくなる全身の筋肉、声も出なくなりながら、半世紀を越えて命を繋げ、アインシュタインにも劣らない業績を上げた天才がいた。スティーブ・ホーキング博士である。

### ○人の意見を受け入れることから

「はくちょう座にブラックホールは無い」との仮説に掛け金を賭けたというエピソードが残っている。彼の理論からはそれはあり得ないことなのに、まずはその説を受け入れ、咀嚼し、誤りは自ら立証し、掛け金を支払った。彼の科学者としての姿勢をよく表している。彼の主張の中に、「人の進化と活動からすると、地球温暖化を食い止めることは出来ない。早晚、事態は深刻化する。地球は限りなく滅びに向かっている。それを回避するには宇宙に移住可能な星を見つけることだ」というものがある。温暖化に対する極めて強い警告だ。ただ示唆するだけでなく、全く自由の効かない体をおして、無重力を体験。着々と宇宙の旅を計画していたが、その実現なきまま旅立ってしまった。

### ○数限りない業績

「過去に行くには無限のエネルギーが必要。タイムマシンは存在しない」「ブラックホールの最終はエネルギーが拡散し消滅する」など、数々の理論的仮説を発表。宇宙、地球、否（いな）、人の未来を解き明かすことに精力的に取り組んでおられた。

### ○肉体は有限、脳は無限

こうした彼の業績は、筋無力症発症後からである。年々衰え、声を発することも出来ず、動きのほとんどを奪われながらも、歳を経るにつれ肉体とは反比例し、脳の働きは冴えてきた。晩年は凄みさえ感じられた、と言われている。肉体は歳とともに退化、滅びる有限の世界でも、頭脳は無限に限りなく広がっていく。鍛え上げれば、更なる可能性を引き出せることを身をもって証明された。我々は老化を嘆き、病を呪い、元気だったらと愚痴る。彼なら、なんと浅はかなことと蔑まれるに違いない。

頬の僅かな動きを電子パルスに変え、自らの理論を熱く伝えたホーキング博士の壮絶な生きざま。編集委員会では「愚痴をこぼしたり、弱音を吐いている場合ではないね」「頑張らなくっちゃ」との述懐が飛び交った。

どこからか、「そだね～」と声がかかりそうである。

その時、もう辺りは暗くなっていた。

編集委員会一同

